陸前高田市文化財調査報告第18集

堂の前貝塚発掘調査報告書 1

―団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事―

平成9年3月

陸前高田市農政課

陸前高田市教育委員会

発 刊 に あ た り

陸前高田市教育委員会

教育長　熊 谷 睦 男

陸前高田市は、温暖な気候のもと多くの美しい自然環境に囲まれ、太古の昔から現在にいたるまで、海に川に、そして北上山系の山々から、四季折々、多くの恩恵を受け発展してまいりました。中でも海からの恵みは大きく、本市の礎を築いた先人達にとって目の前に広がる広田湾は豊富な生活の糧を与えてくれた偉大な存在であり、本市の歴史は海を除いては語れません。このことは、市内諸々で確認できる貝塚をはじめとした遺跡からも、その海に依った豊かな生活が営まれた跡を伺い知ることができます。その数は現在確認されているものだけで優に２００ヶ所を超え、当市は、岩手県内でも「遺跡の宝庫」と呼ぶにふさわしい地域の一つと言えるのではないでしょうか。それだけに、市勢の発展に必要不可欠な各分野の近代開発と、これら貴重な遺跡の保護との両立には、特に意を注いできたところです。近年増加傾向にある、これら開発事業につきましては、関係機関と事前の協議をとり進め、調整を図ってはおりますが、やむを得ぬ事情により緊急発掘調査を実施するに至っております。

失われた埋蔵文化財は二度ともとに戻りません。そのため、調査にあたっては、埋蔵文化財を有効に活用するため、市内の児童・生徒を対象に、発掘体験教室を設けました。あいにくの小雨模様の中での作業になってしまいましたが、子供達は夢中で発掘に取り組み、体験学習を通じて次世代を担う子供達に、遺跡がもつ魅力と埋蔵文化財の重要性を認識させるうえで大変意義深いものであったと思います。

近年は、考古学ブームで、各地方から発掘調査等のニュースが毎日の様に流れますが、この様な社会情勢の中にあっての「堂の前貝塚」の緊急発掘調査の実施は、今までにもまして注目、期待されたところであり、膨大な量の出土遺物や竪穴住居の発見等の成果がありました。

この度ここに、「堂の前貝塚緊急発掘調査報告書」が発刊されましたことは、陸前高田市の先史、とりわけ本市の縄文時代中期から後期までの生活史を知るうえで大変意義深いことと言えます。本書を地域の方々をはじめ研究者の方々にご活用いただき、ひいては文化財保護思想のさらなる普及啓蒙にお役立下されば幸いです。

おわりに、この調査に際しましては、常にご指導、ご協力をいただきました岩手県教育委員会文化課と作業に従事して下さった多くの方々、並びに関係各位、また学問的見地からご教示を賜りました諸先生方に対し、深く感謝申し上げるとともに、今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成９年３月

例　言

1　本書は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前地内に位置する堂の前貝塚の発掘調査報告書であり、平成８年度に行われた調査結果をとりまとめたものである。

2　調査は、「団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事」に伴う事前の緊急発掘で、陸前高田市農政課より依頼を受け、陸前高田市教育委員会社会教育課で担当した。調査期間、調査体制は以下のとおりである。

調査期間　第一次調査　平成７年１１月２７日～平成７年１２月１９日（試掘調査）
　　第二次調査　平成８年１１月　５日～平成８年１２月１４日（本調査）

調査体制	団　長	陸前高田市教育委員会教育長　熊谷睦男
	総　括	社会教育課長　鈴木政行（平成７年度）、上部修一（平成８年度）
	事務局	社会教育課長補佐　菊池政雄
		農政課長　村上征郎、同主査　菅原耕之、同係長　津田耕節、同主任　石井泰子、同主事　黄川田次男
調査担当者	平成７年度	社会教育課主事　吉田功
	平成８年度	市立博物館専門研究員　細谷英男、市立博物館主任　佐藤正彦
		同　主事兼学芸員補　熊谷賢、社会教育課主事補　高橋和弥

3　野外調査は、平成７年度は吉田が、平成８年度は細谷、佐藤、熊谷、高橋が行った。室内整理は、佐藤、熊谷、高橋が行った。

4　執筆は、Ⅰは高橋が、Ⅱは高橋と熊谷が、Ⅲは熊谷が、Ⅴの動物遺存体と骨角器は熊谷が担当し、他は佐藤が担当し、編集は佐藤が行った。

5　調査及び整理に際しては、以下の方々のご指導、ご助言を賜った。記して感謝を申しあげる次第である。（順不同）
　東北歴史資料館　藤沼邦彦氏、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター　酒井宗孝氏
　三陸町教育委員会　佐々木洋氏

6　石材鑑定は、大船渡市立博物館の白土豊氏に依頼した。

7　調査に際しては以下の方々の協力をいただいた。（敬称略、順不同）
　青山道子　上野立子　大和田幸子　黒坂太一　黒坂真紀　金野イツ子　紺野志賀子　金野豊子
　佐藤アサ子　佐藤紀代子　佐藤多恵子　鈴木チカ子　菅原とみ子　鈴木栄子　鈴木キミ子
　鈴木艶子　鈴木貞子　鈴木牧子　鈴木陽子　村上典子　吉田チヨ子

8　室内整理および報告書の作成にあたっては、次の方々の協力をいただいた。（敬称略、順不同）
　青山道子　小山典子　黄川田澄子　佐藤アサ子　佐藤紀代子　菅原とみ子　鈴木栄子
　村上典子　吉田美和

9　掲載した土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著「新版標準土色帳」第４版によった。

目　次

発刊にあたり
例言
目次
Ⅰ　調査に至る経過及び調査経過…… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境…… 2
　1　遺跡の位置と周辺の地形…… 3
　2　基本層序…… 6
　3　周辺の遺跡…… 7
Ⅲ　調査と室内整理の方法…… 10
Ⅳ　発見された遺構…… 12
　1　A区検出遺構…… 12
　(1)　竪穴住居…… 12
　　a、1号住…… 12
　　b、2号住…… 14
　　c、3号住…… 16
　(2)　土坑…… 18
　EF37-1ピット
　EF37-2ピット…… 18
　EF37-3･4･5ピット…… 19
　EF37-6ピット…… 20
　EF37-7ピット…… 21
　EF38-3ピット…… 21
　EF38-1･2ピット…… 21
　EG37-1ピット…… 22
　EG37-2ピット…… 22
　EG37-3ピット…… 23
　EG37-4ピット…… 23
　EG37-5･6ピット…… 24
　EG37-7ピット…… 24
　EG37-8･14･15ピット…… 25
　EG37-9ピット…… 25
　EG37-10･11ピット…… 26
　EG37-12･13ピット…… 27
　EG37-16ピット…… 27
　EH37-1ピット…… 28
　EI37-1ピット…… 28
　2、B区検出遺構
　(1)　埋設土器…… 32
　FF32埋設土器…… 32
　(2)　土坑…… 34
　FI26-1ピット…… 34
　FI27-1ピット…… 34
　GA24-1ピット…… 35
　GA25-1ピット…… 35
　GA25-2ピット…… 36
　GA28-1ピット…… 36
　GA30-1ピット…… 37
Ⅴ　遺構外出土遺物…… 38
　1、土器…… 38
　2、土製品…… 43
　3、石器…… 57
　4、骨角器…… 67

挿　図　目　次

第1図　堂の前貝塚位置図…… 3
第2図　堂の前貝塚の地形と路線予定箇所及び発掘箇所…… 4
第3図　地形分類概念図…… 5
第4図　土層柱状図…… 6
第5図　周辺の遺跡分布図…… 8
第6図　グリット設定図…… 10
第7図　A区遺構配置図…… 12
第8図　1号住居…… 13
第9図　1号住居出土遺物…… 14
第10図　2号住居出土遺物…… 14
第11図　2号住居…… 15
第12図　3号住居…… 16
第13図　3号住居出土遺物…… 17
第14図　EF37-1ピット…… 18
第15図　EF37-2ピット…… 19
第16図　EF37-3･4･5ピット…… 19
第17図　EF37-3ピット出土遺物…… 20
第18図　EF37-6･7ピット、EF38-3ピット…… 20
第19図　EF38-1･2ピット…… 21
第20図　EG37-1ピット・出土遺物…… 22
第21図　EG37-2ピット…… 22

第22図　EG37-3ピット…… 23
第23図　EG37-4ピット…… 23
第24図　EG37-5・6ピット…… 24
第25図　EG37-7ピット…… 24
第26図　EG37-8・14・15ピット…… 25
第27図　EG37-9ピット…… 26
第28図　EG37-9ピット出土遺物…… 26
第29図　EG37-10・11ピット…… 26
第30図　EG37-12・13ピット…… 27
第31図　EG37-16ピット…… 28
第32図　EH37-1ピット…… 28
第33図　EH37-2ピット…… 28
第34図　EI37-1ピット…… 29
第35図　EH37-1ピット出土遺物…… 30
第36図　EH37-1ピット出土遺物…… 30
第37図　B区遺構配置図…… 32
第38図　FF32埋設土器…… 33
第39図　FF32埋設土器…… 33
第40図　FI26-1ピット…… 34
第41図　FI27-1ピット…… 34
第42図　GA24-1ピット…… 35
第43図　GA25-1ピット…… 35
第44図　GA25-2ピット…… 36
第45図　GA28-1ピット…… 36
第46図　GA28-1ピット出土遺物…… 37
第47図　GA30-1ピット…… 37
第48図　遺構外出土土器…… 44
第49図　遺構外出土土器…… 45
第50図　遺構外出土土器…… 46
第51図　遺構外出土土器…… 47
第52図　遺構外出土土器…… 48
第53図　遺構外出土土器…… 49
第54図　遺構外出土土器…… 50
第55図　遺構外出土土器…… 51
第56図　遺構外出土土器…… 52
第57図　遺構外出土土器・土製品…… 53
第58図　遺構外出土土製品…… 54
第59図　遺構外出土石器…… 61
第60図　遺構外出土石器…… 62
第61図　遺構外出土骨角器…… 67

表　目　次

第1表　周辺の遺跡一覧表…… 9
第2表　1号住居…… 13
第3表　1号住居出土石器…… 14
第4表　2号住居、2住1・2・3ピット… 15
第5表　3号住居、3住1・2・3ピット… 17
第6表　3号住居出土石器…… 17
第7表　EF37-1ピット…… 18
第8表　EF37-2ピット…… 19
第9表　EF37-3・4ピット…… 19
第10表　EF37-6・7ﾋﾟｯﾄ、EF38-3ﾋﾟｯﾄ… 21
第11表　EF38-1ピット…… 22
第12表　EG37-1ピット…… 22
第13表　EG37-2ピット…… 22
第14表　EG37-3ピット…… 23
第15表　EG37-4ピット…… 23
第16表　EG37-5・6ピット…… 24
第17表　EG37-6・7ピット…… 25
第18表　EG37-8・14・15ピット…… 25
第19表　EG37-9ピット…… 26
第20表　EG37-10ピット…… 26
第21表　EG37-12・13ピット…… 27
第22表　EG37-16ピット…… 28
第23表　EH37-2ピット…… 28
第24表　EH37-1ピット…… 29
第25表　EH37-1ピット出土遺物…… 31
第26表　FF32埋設土器…… 34
第27表　FI26-1ピット…… 34
第28表　FI27-1ピット…… 35
第29表　GA24-1ピット…… 35
第30表　GA25-1ピット…… 36
第31表　GA25-2ピット…… 36
第32表　GA28-1ピット…… 36
第33表　GA30-1ピット…… 37
第34表　出土土製品一覧表…… 55
第35表　出土石器一覧表…… 63
第36表　遺構外出土骨角器一覧表…… 67
第37表　出土動物遺存体一覧表…… 68

Ⅰ　調査に至る経過及び調査過程

調査は、「団体営農道整備事業農道久野立山線改良事業」に伴う緊急発掘調査である。

平成７年10月６日、同事業の実施にあたり事業主体者である陸前高田市長から、文化財保護法第57条の３第１項の規定に基づく発掘の通知が当教育委員会になされた。これを受けて当教育委員会では、工事予定地内の現地踏査等を行い、結果、事前の試掘調査が必要との判断から、現地調査書を添え、平成７年10月18日岩手県教育委員会事務局文化課に進達した。

平成７年10月23日、文化庁より確認調査（試掘）の指示があり発掘届出者へ通知した。その後、平成７年11月17日に試掘の依頼が事業主体者から当教育委員会になされた。これを受けて、岩手県教育委員会事務局文化課及び工事の担当課である当市農政課との三者間で協議を行ない、平成７年11月27日、98条の２第１項の規定により発掘調査の通知をし、平成７年11月27日から試掘調査を開始した。

この試掘調査では、面積約274㎡の調査区域を設定し、調査の結果、竪穴住居跡３基とピット６基、また縄文土器を多量に含む遺物包含層等が検出されたため、平成８年３月８日に当教育委員会では、工事着手前における同貝塚内のより本格的な調査（本調査）が必要との見解を事業主体者に示した。

平成８年10月25日、この試掘の結果を受けて主体者側より本調査の依頼があり、先の試掘の際と同様関係各課三者間の協議を行い、本調査の実施に向け発掘の時期や規模、予算や交通規制等の最終的な調整を進めた。当初発掘面積は、工事の予定面積である約1,440㎡が予定されていたが予算事務や測量等の遅れから、発掘調査着手の時期が大幅に遅れ発掘期間が冬季にずれ込んだ。このため、当初の予定発掘調査面積を480㎡に減らし、今回平成８年度の調査を第１期、残りを第２期とし次年度に実施することとした。

その後現場事務所の設営や土捨場の確保、電話の設置、発掘器材の購入等の準備をすすめ、11月１日には調査に係る道路（約240ｍ）の全面通行止めの交通規制措置がとられることとなり、11月５日より「堂の前貝塚第１期発掘調査」が実施されることとなった。

調査は、はじめにパワーショベルとダンプカーそれぞれ１台を導入し、調査区北東側の道路から順に、重機による現道の表土除去作業（約80ｍ）を行い、同時にグリッドを設定し11月７日より発掘調査を開始した。調査開始後すぐに遺構及び遺物包含層を検出し、常時15人程の作業員を導入し調査をとり進めた。その後27日には、陸前高田市立米崎中学校の全校生徒約120名を、また12月３日には米崎小学校の児童約20名を現場に招き発掘体験学習会を実施した。

調査は12月14日まで実施され、17日からは市立博物館にて、出土遺物の室内整理作業が開始され、20日には現場の撤去作業一切が終了した。その後室内整理は３月15日まで実施された。

（高橋　和弥）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の位置と周辺の地形（第1図〜第3図）

堂の前貝塚は、岩手県陸前高田市米崎町字堂の前地内に所在し、市の中心部から直線距離にして東北東へ約4㎞、ＪＲ大船渡線脇の沢駅より東へ約1．3㎞の地点に位置している。

陸前高田市は岩手県の東南端に位置し、宮城県に隣接している。市境は、南は宮城県本吉郡唐桑町及び気仙沼市と、西は東磐井郡大東町、北は気仙郡住田町、東は大船渡市と隣接し、東南は太平洋に面している。

周辺の海岸線は、リアス式海岸特有の岬と湾入が交互に連続する複雑な海岸線をなし、本市においては、広田半島が南東方向の太平洋に大きく突出し、西方には、湾口部約3．5㎞、湾奥まで約7㎞の逆U字状の広田湾を形成している。広田湾は、三陸海岸のほぼ中央、岩手県の東南端に位置し、北は氷上山（874.4m）、東は仁田山（254m）、大森山（147.2m）のそびえる広田半島、西は笹長根山（519.9m）に囲まれ、湾口部を南に開いている。湾奥部には住田町北境の土倉峠に源を発し、南流する総延長40㎞の気仙川が注ぎ、河口付近には沖積層の低地帯を形成しており、現在市街地となっている。

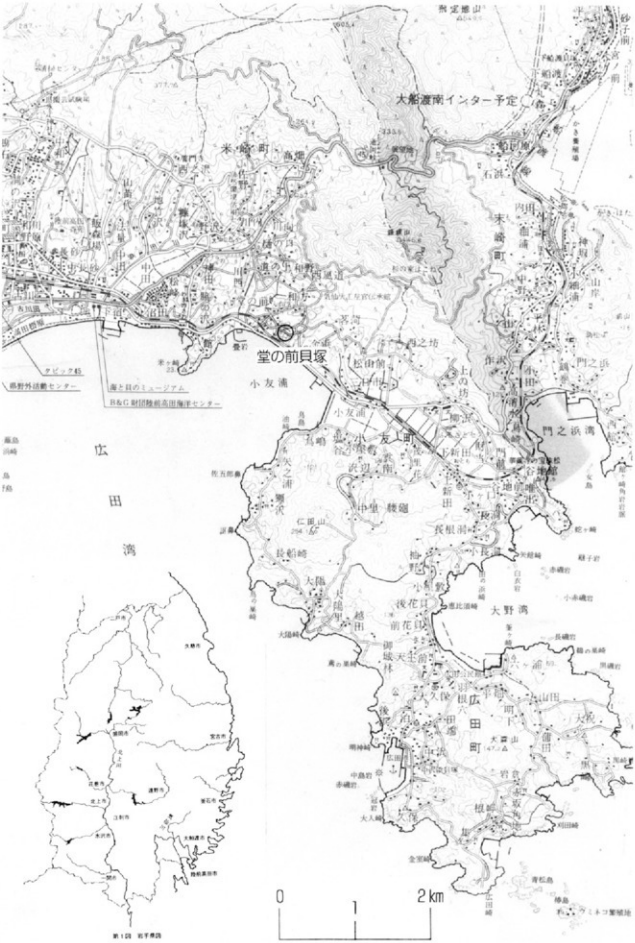
堂の前貝塚の位置する米崎町は、市域のほぼ東寄りに位置し、南は広田湾に面し、西は本市高田町、北は大船渡市、東は本市小友町に接している。面積は16.45㎢で南北に長い町である。町の北側には氷上山がそびえ、南に延びた斜面は、標高200m以上の地帯では傾斜の急な山地となっているが、200m以下では山頂より傾斜が緩く、前面は町を北東から南西方向に横切るように広田湾に注いでいる浜田川によって開析され、高田町まで広がる長さ3㎞ほどの低地帯を形成している。この低地帯の東側には箱根山（標高446.8m）から南西方向に延びた傾斜の緩やかな丘陵が広がり、その一部は広田湾に突出し、米ヶ崎を形成している。

遺跡は、箱根山から南西方向に広がる丘陵の先端部にあり、標高20〜30mで、前面には広田湾が広がり、現海岸線から300mほど入った所にある。丘陵の北側には緩斜面が形成され、斜面下に勝木田川が西流し、低地となっており水田として利用されている。南側は、海蝕崖であり崖下を東西方向にＪＲ大船渡線、県道大船渡陸前高田線が並行する形で通っている。

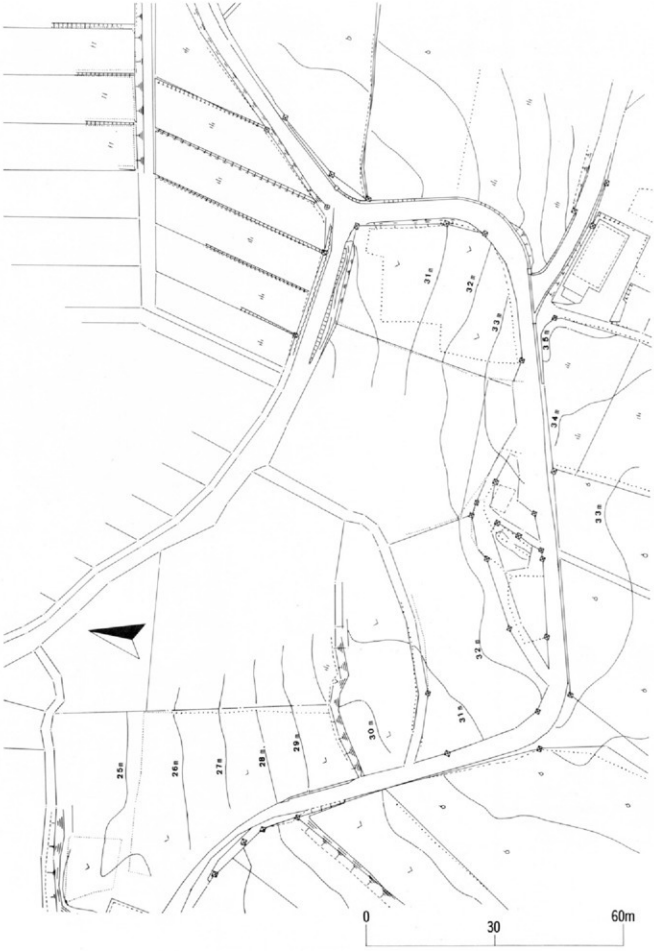
また、丘陵上は、幅員3mの未舗装道路が東西方向に丘陵を二分するように走り、周囲には民家は散在するもののさほど宅地化は進んでおらず、リンゴなどの果樹が植栽され、一部畑地として利用されている。若干の宅地造成などによる現地の改変はあるものの、丘陵はほぼ原地形をとどめていると思われる。

市内の多くの貝塚は明治・大正時代から発掘調査が行われてきたが、堂の前貝塚は昭和40年代まで調査されることなく、遺跡の規模や性格などは不明であった。そのため、規模や保存状態などを知るため昭和46年に発掘調査が行われた。その概要は、翌47年に「堂の前貝塚」として報告されている。

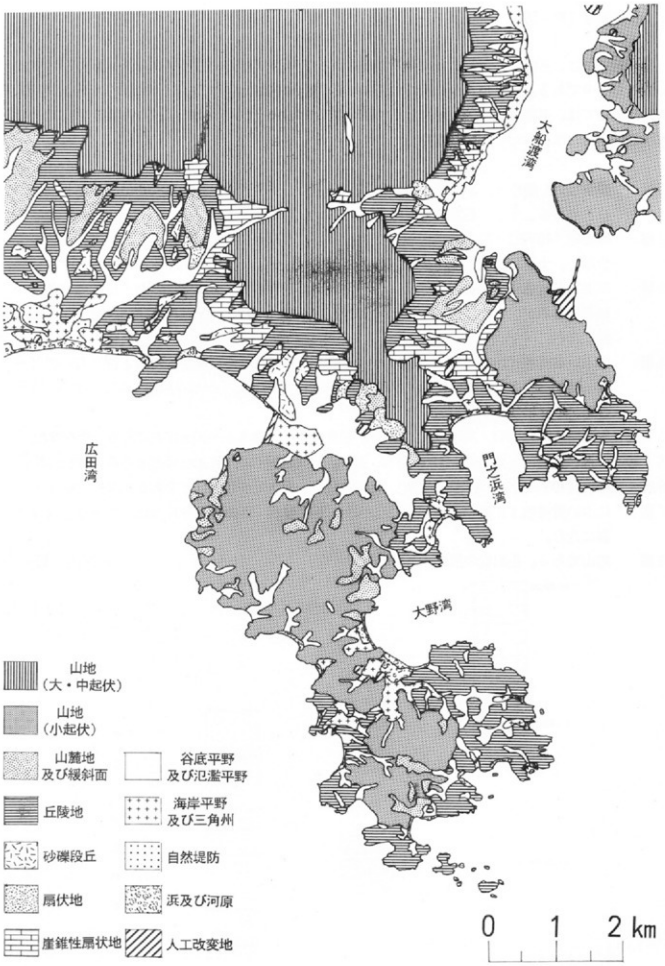
（熊谷　賢）



第１図　堂の前貝塚位置図



第2図　堂の前貝塚の地形


大畠瀬戸
広田湾
門之浜湾
大野湾
山地
(大・中起伏)
山地
(小起伏)
山麓地
及び緩斜面
丘陵地
砂礫段丘
扇状地
崖錐性扇状地
谷底平野
及び氾濫平野
海岸平野
及び三角州
自然堤防
浜及び河原
人工改変地
0 1 2 km

第3図　地形分類概念図

2　基本層序（第4図）

基本層序図は、B区の、北方向に向かって傾斜する緩斜面のFI32～FI29グリッドの西壁を模式的に表したものである。概括すると8層に大別される。層の概要については以下のとおりである。なお、A区に関しては、道路改修の際に地山面まで削平されており、ピットの埋土以外、縄文期以降の自然堆積層は見られなかったことから割愛した。

1層　表土ないし耕作土。黒褐色（10YR2／3）を呈し、やや固い。粘性はなく、厚さは10～20cmほどである。土器、石器を多量に含む。

2層　黒褐色（10YR2／2）を呈し、固い。粘性はなく、厚さ10～20cmほどであるが、1層よりやや厚い。土器、3～5cmほどの小礫を多量に含む。

3層　にぶい黄褐色（10YR5／4）を呈し、やや固い。粘性は弱く、厚さは斜面上位において10cmほどであるが、下位に行くにしたがって厚さを増し、最大厚30cmほどになる。土器、礫を多量に含む。

4層　にぶい黄褐色（10YR4／3）を呈し、やや固い。粘性はなく、厚さは斜面上位において10～15cmほどで、中位において最大厚20cmを測るが、下位では5cmほどに薄くなる。土器、大型の礫を多量に含む。

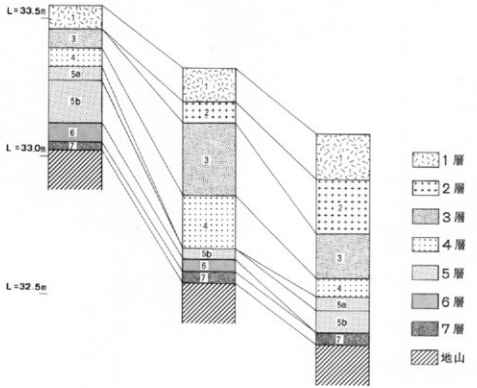
5a層　灰黄褐色（10YR4／2）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さ5～10cmほどである。礫を含む。

5b層　にぶい黄褐色（10YR4／3）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さ10cmほどである。礫を含む。

6層　褐色（10YR4／4）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さ5～10cmほどである。礫を多量に含む。

7層　にぶい黄褐色（10YR5／4）を呈し、固い。粘性は弱く、厚さ5～10cmほどである。礫を多量に含む。

8層　地山である。花崗岩の風化土（真砂）である。　（熊谷　賢）



第4図　土層柱状図

3　周辺の遺跡（第５図・第１表）

三陸沿岸には、多数の遺跡が所在している。大船渡湾周辺には、国指定史跡「蛸の浦貝塚」をはじめ、大洞貝塚や下船渡貝塚など著名な遺跡が集中しているが、陸前高田市内においてもこれまで200を越す遺跡が確認されており、特に堂の前貝塚の目の前に広がる広田湾周辺には、国指定史跡「中沢浜貝塚」(72) や大陽台貝塚(66)、獺沢貝塚(52)、門前貝塚(34)、二日市貝塚（図幅外）、そして牧田貝塚（図幅外）といった数多くの貝塚をみることができる。

現在確認されている遺跡の時代ごとの分布状況であるが、縄文早期の遺跡としては、市内においては３遺跡が知られるのみで、堂の前貝塚より西方約２㎞先には貝殻文系土器を主体とする小友町上の坊遺跡(32)、広田町にある奈良平安期まで続く中沢浜貝塚(72)、図幅外ではあるが矢作町の梅木遺跡が知られる。

縄文前期の遺跡は、小友地区では仁田山（標高254m）の北斜面海抜50m以下の地点に雲南遺跡(44)・小屋敷遺跡(45) がある。また広田地区では仁田山の南斜面の海岸部に大陽貝塚(65) と大陽台貝塚(66) があり、東側には縄文晩期まで続く袖野Ⅰ遺跡(59) がある。さらにこのころ広田半島先端の大森山（標高147.2m）の南側に金室貝塚(80)、集遺跡(81) もみられるようになったが、米崎地区では、縄文前期の遺跡は現在のところ確認されていない。

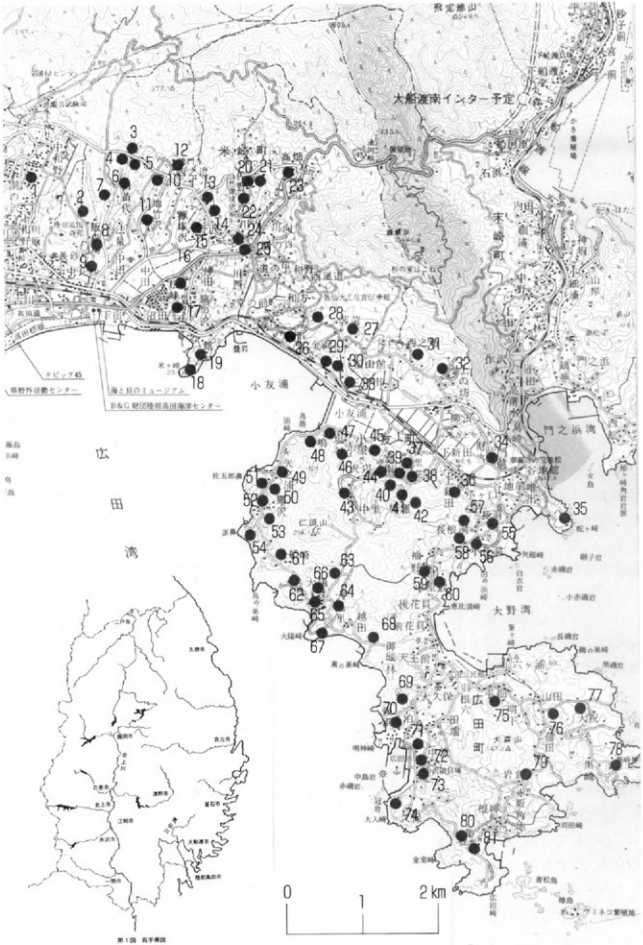
縄文中期になると、遺跡の数は前期と比べると非常に多くなり、図幅内では19遺跡が知られる。米崎地区で確認できる遺跡は縄文中期以降のもので、中期のものとしては箱根山から伸びる丘陵上の広田湾岸に位置する堂の前貝塚(26) と、氷上山（標高874.7m）と箱根山(446.8m) との間の低地帯の北東部に位置する川内遺跡(24) の２遺跡が知られ、中期以降の米崎地区の遺跡の分布は、この箱根山麓と氷上山麓の二地区とに集中する特色を見せながら広がって行くこととなる。このころの小友地区の遺跡分布状況は、広田湾に面した仁田山の西側斜面沿いに、前期よりもより広範囲の分布をみせるようになり、鳥島遺跡(48) や矢の浦Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡等がその例といえる。また低地帯を挟んで箱根山側にある門前貝塚(34) もこのころの遺跡であるが、堂の前貝塚より幾分時期が遅れて成立した。広田地区でも中沢浜貝塚周辺に中沢遺跡(71) や内田遺跡などが広がり、またこれまで遺跡が確認されなかった大森山東側にも蒲田遺跡(76) といった遺跡があらわれはじめるようになる。

後期になると各地区いずれもより遺跡数は増大し、広田地区では大祝遺跡(77)・黒崎遺跡(78)・岩倉遺跡(79)・久保貝塚(74)・泊遺跡(70) 等が、小友地区では、先の海岸沿いにさらに南方へ獺沢貝塚(52) や獺沢Ⅱ遺跡(54)が見られるようになった。米崎地区では、佐野Ⅲ遺跡(22)・高畑Ⅱ遺跡(23)・梨野遺跡(25) に見られる様に氷上山麓周辺にその範囲を広めていった。高田地区でも、この時期氷上山麓を中心に遺跡が広がる傾向を見ることができる。

晩期から弥生にかけては、あまり遺跡は確認されておらず、晩期は広田地区では中沢浜貝塚(72)・久保貝塚(74)・袖野Ⅰ遺跡(59)、小友地区では矢の浦Ⅲ遺跡(50)・獺沢貝塚(52)・獺沢Ⅱ遺跡(54)・米崎地区では川内遺跡(24)、梨野遺跡(25)、佐野Ⅲ遺跡(22) がしられるのみで、弥生期にいたっては、中沢浜貝塚(72)・小長洞遺跡(56)・梨野遺跡(25)・山崎遺跡（図幅外）・釘の子遺跡（図幅外）の５遺跡のみである。

以上、縄文期から弥生期にいたる遺跡の分布の概要を述べたが、市内の遺跡研究はこれまで縄文期の貝塚中心であり、縄文以外の遺跡の調査例は、平安時代の川内遺跡(24)・貝畑貝塚(1)・友沼遺跡（図幅外）が知られるのみで、旧石器時代の遺跡にいたっては全く知られていない。

（高橋　和弥）



第５図　周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	種　別	遺　構・遺　物	所 在 地	備　考
1	貝畑	貝塚	縄文土器（中期・後期・晩期）	高田町字下和野	
2	下和野	散布地		高田町字下和野	
3	高沢	散布地	土師器	高田町字高沢	
4	高沢 I	散布地		高田町字高沢	
5	高沢 II	散布地		高田町字高沢	
6	豆の通	金敷跡	縄文土器（後期）、土師器	高田町字下和野	
7	山面代	散布地	土師器、須恵器	高田町字山面代	
8	飯森場	散布地		高田町字飯森	
9	小泉	散布地	土師器、須恵器	高田町字中田	
10	増竹沢 I	散布地	縄文土器、フレーク	米崎町字増竹沢	
11	増竹沢 II	散布地	土師器	米崎町字増竹沢	
12	野沢 I	散布地	土師器、須恵器	米崎町字糠塚沢	
13	野沢 II	散布地		米崎町字野沢	
14	野沢 III	散布地	土師器、須恵器	米崎町字野沢	
15	中山館	城館		米崎町字野沢	
16	中島 I	散布地		米崎町字中島	
17	松峯	散布地	土師器	米崎町字松峯	貝のマウンドあり
18	館	城館及び貝塚	土師器	米崎町字館	
19	米ヶ崎城	城館		米崎町字館	
20	佐野 I	散布地	縄文土器	米崎町字佐野	
21	佐野 II	散布地		米崎町字佐野	
22	佐野 III	散布地	縄文土器（後期・晩期）、土師器	米崎町字佐野	
23	高畑 II	散布地	縄文土器（後期）	米崎町字高畑	山中に早期遺跡あり
24	川内	散布地	縄文土器（中期・後期・晩期）、土師器、須恵器	米崎町字川内	
25	梨野	散布地	縄文土器（後期・晩期）、弥生式土器	米崎町字川内	
26	堂の前	貝塚集落跡	縄文土器（中期・後期）	米崎町字堂の前	
27	岩井沢 I	散布地	土師器	小友町字岩花	
28	岩井沢 II	集落跡	縄文土器（中期）、土師器、須恵器、蕨手刀	小友町字岩井沢	
29	両替 I	散布地	土師器	小友町字両替	
30	両替 II	散布地	縄文土器	小友町字両替	
31	西の坊	散布地	縄文土器（後期）、土師器	小友町字中西	
32	上の坊	散布地	縄文土器（早期）	小友町字上の坊	
33	三日市	集落跡	縄文土器（中期）、土師器	小友町字三日市	
34	門前	貝塚	貝類、フラスコピット、配石、縄文土器（中期・後期）、骨角器ほか	小友町字門前	4度の発掘調査あり
35	蛇ヶ崎城跡	城館		小友町字唯出	
36	新田 II	散布地	土師器	小友町字新田	
37	森崎 I	散布地	土師器	小友町字森崎	
38	森崎 II	散布地	土師器	小友町字森崎	
39	森崎 III	散布地	土師器、須恵器	小友町字森崎	
40	腰廻 I	散布地	土師器	小友町字腰廻	
41	腰廻 II	散布地	土師器	小友町字腰廻	
42	腰廻 III	散布地	土師器	小友町字腰廻	
43	沢辺 I	散布地	縄文土器	小友町字沢辺	
44	雷南	集落跡	縄文土器（前期・中期）、土師器	小友町字雷南	
45	小屋敷	散布地	縄文土器（前期・中期）	小友町字中里	
46	塩谷 III	散布地	縄文土器（後期）	小友町字塩谷	
47	塩谷 I	散布地	土師器	小友町字塩谷	
48	鳥島	散布地	縄文土器（中期・後期）	小友町字鳥島	
49	矢の浦 I	散布地	縄文土器（中期・後期）	小友町字矢の浦	
50	矢の浦 III	散布地	縄文土器（中～晩期）	小友町字矢の浦	
51	矢の浦 II	散布地	縄文土器（中期）、土師器	小友町字矢の浦	
52	潮沢	貝塚	縄文土器（後期・晩期）、骨角器	小友町字潮沢	昭和50年調査
53	潮沢 I	散布地	縄文土器	小友町字潮沢	
54	潮沢 II	散布地	縄文土器（後期・晩期）	小友町字潮沢	
55	長洞	散布地	縄文土器	広田町字長洞	
56	小長洞	散布地	縄文土器（晩期）、弥生式土器、土師器	広田町字長洞	
57	長根洞 I	散布地	縄文土器	広田町字長根洞	
58	長根洞 II	散布地	縄文土器	広田町字長根洞	
59	袖野 I	散布地	縄文土器（前～晩期）、土師器	広田町字袖野	昭和61年発掘
60	小屋敷	散布地	縄文土器、土師器	広田町字小屋敷	
61	鮎荒 I	散布地	石器	広田町字長鮎崎	
62	鮎荒 II	散布地	縄文土器	広田町字長鮎崎	
63	大陽里 I	製鉄跡	鉄滓	広田町字大陽里	
64	大陽里 II	散布地	縄文土器	広田町字大陽里	
65	大陽	貝塚	縄文土器（前期・中期）	広田町字大陽	
66	大陽台	貝塚	貝類、縄文土器（前期・中期）、骨角器、石器	広田町字大陽	
67	大陽崎	散布地	製塩土器	広田町字大陽里	
68	越田	散布地	縄文土器（中期～後期）	広田町字越田	
69	高館	城館		広田町字入久保	
70	泊	散布地	縄文土器（後期）	広田町字泊	
71	中沢	散布地	縄文土器（中期）	広田町字中沢	
72	中沢浜	貝塚	貝類、埋葬人骨、縄文土器（早期～晩期）ほか	広田町字中沢	国指定史跡
73	内田	散布地	縄文土器（中期）	広田町字久保	
74	久保	貝塚	縄文土器（後期・晩期）	広田町字久保	
75	平根 II	散布地	縄文土器	広田町字平根	
76	蒲田	散布地	縄文土器（中期）	広田町字蒲田	
77	大桜	散布地	縄文土器（後期）	広田町字大桜	
78	黒崎	集落	縄文土器（後期）、土師器	広田町字黒崎	
79	岩倉	貝塚	縄文土器（後期）貝層	広田町字岩倉	
80	金堂	貝塚	縄文土器（前期）	広田町字笛	
81	笛	散布地	縄文土器（前期）	広田町字笛	

第１表　周辺の遺跡一覧表

Ⅲ　調査と室内整理の方法

1　調査方法

(1)　現道部分の砕石のみをバックホーンにより取り除く粗掘りを行い、その他はすべて手掘りによって掘り下げた。

(2)　基軸線の設定は、任意の基準杭を原点として、それと他の基準杭の２点間を結んだ直線と、原点に直交する直線を基軸線とした。基準杭を結んだ基軸線は磁北より約2.3°西偏している。グリットの設定は、東西方向へ30ｍ幅で、Ａ～Ｊの大区画とし、これを更に10区画に細分し、Ａ～Ｊのアルファベットで、南北方向へ同様に30ｍ幅の大区画を１～10、11～20のようにアラビア数字によって10区画に細分した。グリットの名称は各区画内における北西方向の交点の杭によりＡＡ１、ＢＡ１、ＣＡ１のように表した。

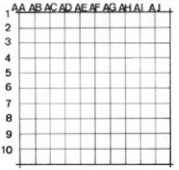
(3)　遺物の取り上げは原則として、遺構内出土のものは、遺跡記号（ＤＮＭ）、出土年月日、遺構名、グリット名、出土層位を記録し、取り上げた。遺構外出土の遺物はグリットごとに、遺跡記号、出土年月日、出土層位を記録し、取り上げた。グリット名は、各グリットの北西に位置する杭の番号を用いた。

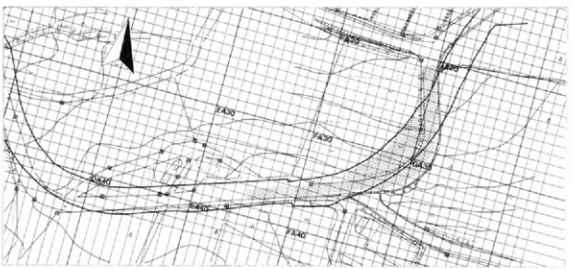
出土遺物のうち、撹乱層出土のものと、土器細片を除く遺物は、原則として、遺物番号を付け平面図や遺物カードに出土レベル、位置、層位を付して取り上げた。また、貝や骨などを含む土や焼土の一部と埋設土器中の埋土のすべては分析のためビニール袋に入れ、持ち帰った。

(4)　遺構の番号は、発掘時においてグリットごとに通し番号による遺構名を冠したが、整理の段階で、部分的に変更している。

(5)　平面実測は、グリット軸に合わせた１ｍメッシュを基本とし1／10の縮尺を用いた。

(6)　写真記録は、35㎜モノクロとカラースライド各１台、６×７㎝モノクロ１台を用い、各種埋土堆積状況や断面、遺物の出土状況、完掘状況などについて行った。また、調査状況の一部については、８㎜ビデオに撮影記録した。





第６図　グリット設定図

2　室内整理

野外調査で得られた実測図、写真、遺物の各種資料は、室内整理の段階で次のとおり処理、整理し報告書作成の基礎にするとともに資料化を行った。

(1)　土器・土製品

発掘調査後、室内に持ち帰り整理を行った。57×39×13.5センチメートルのコンテナで約100箱程度の出土量がある。水洗後、各遺物に注記を行い、各出土地点、層位毎に仕分けを行い復元を行った。その後、拓本、実測、写真撮影の順で整理を行った。脆い遺物も多く見られ、酢酸ビニルエマルジョン系ボンドを用いて補強した。

(2)　石器

発掘現場において、調査に並行して水洗、フレーク類からの石器の抜き取り、台帳登録を行った。発掘終了後、室内においては実測、計測、写真撮影を行った。石器は、300点を越える出土が有り、データーはすべてコンピューターに入力し、管理した。

石材の分析は、外部の専門家に鑑定依頼をした。

(3)　骨角器・動物遺存体

貝や骨などを含んだ焼土及び埋設土器中の埋土は、すべてビニール袋に入れ、持ち帰った。15号袋で30袋ほどの出土量がある。水洗選別後、骨角器、骨の抜き取りを行い、実測、同定を行った。脆い骨については、酢酸ビニルエマルジョン系ボンドを用いて補強した。

(4)　図面

図面は、遺構に関しては、遺構カード、土器、土製品、石器に関してはそれぞれの遺物カードを作成した。遺構は縮小して、遺物は実大で実測、トレースを行い図化した。各実測図は遺構毎に分類し、原図点検の上、報告書作成に必要なものについては第2原図を作成し、トレース、コピーをし、それを用いた。

(5)　写真

写真はネガと密着焼き付けのものをアルバムに貼付し整理し、カラースライドはスライドファイルに撮影順に収納した。

（熊谷　賢）

平成８年度の調査において検出された遺構は、竪穴住居３棟、土坑36基、埋設土器１基である。遺構の時期は、遺物を伴わない遺構がほとんどであるが、遺構外の出土遺物から、縄文時代中期から後期にかけての遺構であるものと推定される。

遺構の分布は、標高34ｍ程の丘陵の鞍部の東端付近と、標高31ｍから32ｍの北方向に向かって傾斜する斜面の中位から下位にかけてみられ、特に丘陵の鞍部においては密度の高い遺構の分布を示している。ここでは便宜的に丘陵の鞍部をＡ区、斜面をＢ区として、区ごとに説明を行う。

１　Ａ区検出遺構

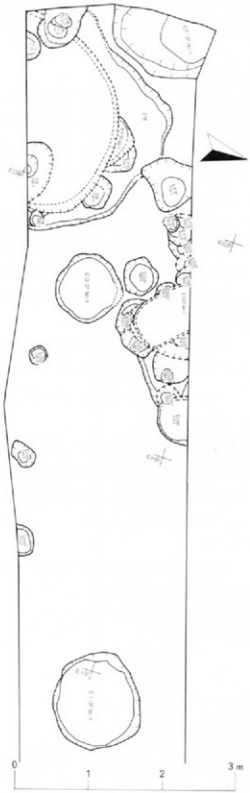
EF37・EF38・EG37・EH36・EH37・EI36・EI37グリットにおいて、竪穴住居３棟、土坑29基を検出した。遺構のほとんどは切り合っており、非常に密度の高い分布を示している。

(1)竪穴住居

ａ．１号住居

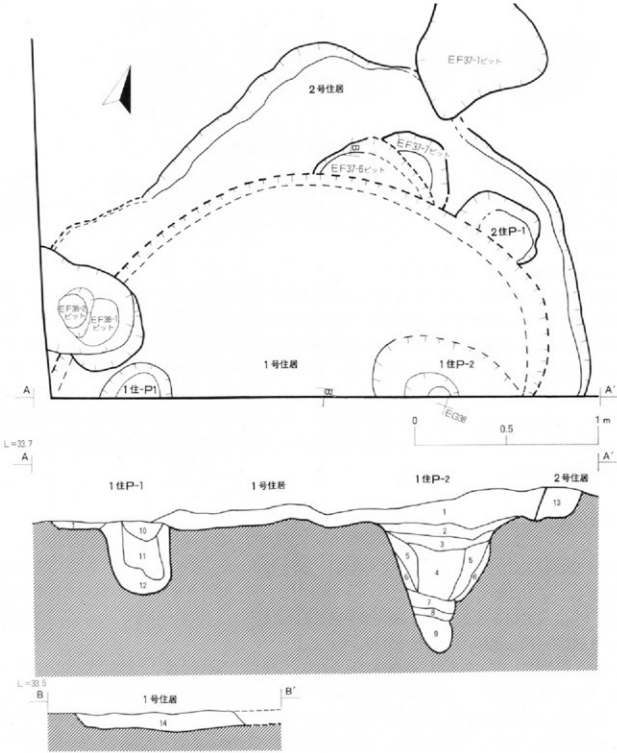
EF37・EF38・EG37グリットにおいて全体の1／3程を検出した。残りは、EF38・EG38の未調査部分に拡がる。EF38-1ピット・EF38-2ピットによって切られ、EF37-6・EF37-7ピット・EF38-3ピット・２号住居を切る。また、柱穴P1・P2は、１号住居下に埋蔵する３号住居の一部を切っている。形状は２号住居の覆土を切っているため、不明瞭で、不明である。規模は、南壁セクションの観察によると短軸は２ｍ50cm以上と思われる。壁は、東壁での高さは18cm程で、外傾している。

床面は、固く締まった部分は見られない。炉及び焼土、炭の拡がりは検出されていない。



第７図　Ａ区遺構配置図

柱穴はP1、P2がある。ともに、未調査区に拡がり、全体の半分程を検出した。P1は、やや外傾気味に立ち上がり、規模は、開口部の直径40cm、底径24cm、深さは39cm程である。P2は、西壁では開口部から底部にかけて、ややなだらかに傾斜し、東壁では中位で一度締まっている。規模は、開口部の径が77cm、中位の径が25cm、底径10cm、深さ69cmである。P1、P2ともに径20cm程の柱痕跡を有し、主柱穴と思われる。



第8図　1号住居

第2表　1号住居

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	8	10YR 3/3 暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。やや軟い。真砂なし。
2	10YR 3/3暗 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	9	10YR 3/4 暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫1個有り。粘性有り。軟い。真砂なし。
3	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。固い。真砂なし。	10	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
4	10YR 3/4 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。やや軟い。真砂なし。	11	10YR 4/3 にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物、礫なし。粘性有り。やや軟い。真砂なし。
5	10YR 3/3 暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。やや軟い。真砂なし。	12	10YR 3/4 暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物、礫なし。粘性少量有り。やや軟い。真砂なし。
6	10YR 4/6 褐色	炭化物、焼土なし。遺物、礫なし。粘性有り。やや軟い。真砂なし。	13	10YR 4/6 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。
7	10YR 3/4 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫1個有り。粘性有り。軟い。真砂なし。	14	10YR 2/3 黒褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し（明黄ブロック有り）。粘性なし。固い。真砂なし。

第９図　１号住居出土遺物

第３表　１号住居出土石器

図版	遺構名・層	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録No.
第９図　4	１号住居埋土	石鏃	Ⅰ－１	チャート	1.89	1.80	0.27	0.85		9234
5	１号住居埋土	石鏃	Ⅱ－４	チャート	1.97	1.45	0.50	1.30		9303

[出土遺物]

出土した遺物は、土器・石器がある。

土器は、埋土中より破片93点が出土した。いずれも細片で劣化が著しい。３点を掲載した。１は深鉢の口縁部片である。口唇部は、欠落する。口縁は無文で外反し、頸部には体部とを区画する一条の沈線が巡る。胎土には細砂を多く含む。２・３は深鉢の体部片である。２では、半截竹管による斜め方向からの刺突と、横位の沈線が施されている。胎土には細砂を多く含む。３は、原体施文後、横位の沈線が施文される。原体は、劣化が著しく不明である。胎土には、砂の混入がほとんど見られない。

石器は、石鏃２点が出土した。４は有茎の石鏃である。鏃身の半分ほどが欠損する。基部は尖基をなし、茎部の先端は尖っている。５は無茎の石鏃である。側縁の一部は欠損する。基部は円基をなし、側縁は直線状である。

b．２号住居

EF37・EF38・EG37グリットにおいて全体の1／3程を検出した。残りは、EF38・EG38の未調査部分に拡がる。EF38-1ピット・EF38-2ピット・EF38-3ピット・EF37-1ピット・EF37-6ピット・EF37-7ピットによって切られる。形状は楕円形を呈すると思われる。規模は短軸で、2.6m以上である。壁は、北壁が残存し、壁高は17cm程で外傾している。

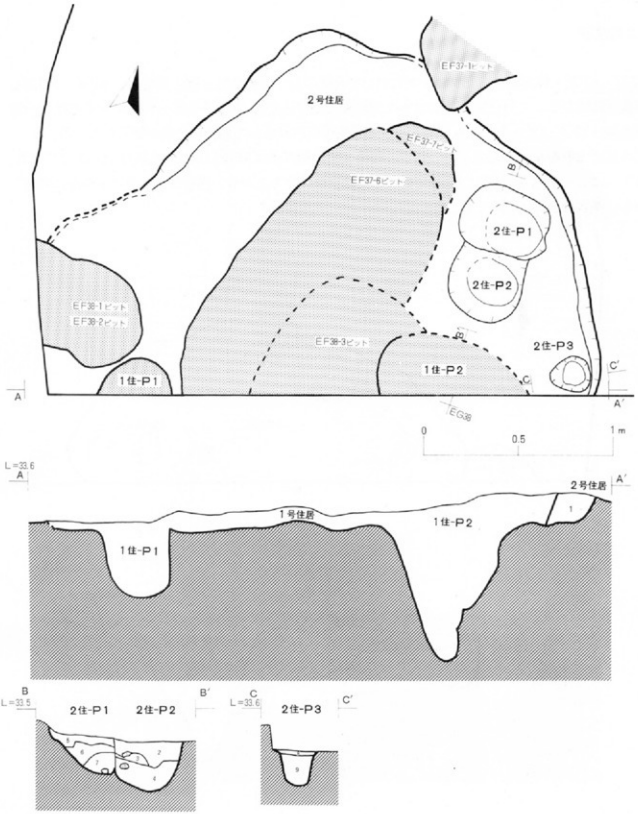
柱穴は、P1、P2、P3があるが、柱痕跡は見られない。P1とP2は切り合い、P1がP2を切っている。P1は、形状が楕円形を呈し、開口部の長軸48cm・短軸36cm、底面の長軸38cm・短軸26cm・深さ26cmである。P2は、楕円形を呈し、開口部の短軸41cm、底面の長軸28cm・短軸23cm、深さ19cmである。ともに壁は外傾しており、P2の南壁は、ゆるやかに傾斜している。P3はいくぶん不整の楕円形を呈する。開口部長軸22cm・短軸18cm、底面はほぼ円形で径12cm程で、深さは18cmである。壁は直壁状に立ち上がっている。

[出土遺物]

出土した遺物は土器がある。２号住居埋土中より土器片２点、１ピットより土器片17点が出土した。いずれも劣化が著しく、１ピット出土の１点のみを図示した。

１は深鉢の体部片である。幅３mm程の沈線により曲線文が描かれる。胎土には少量の粗砂を含む。

第10図　２号住居出土遺物



第11図　2号住居跡

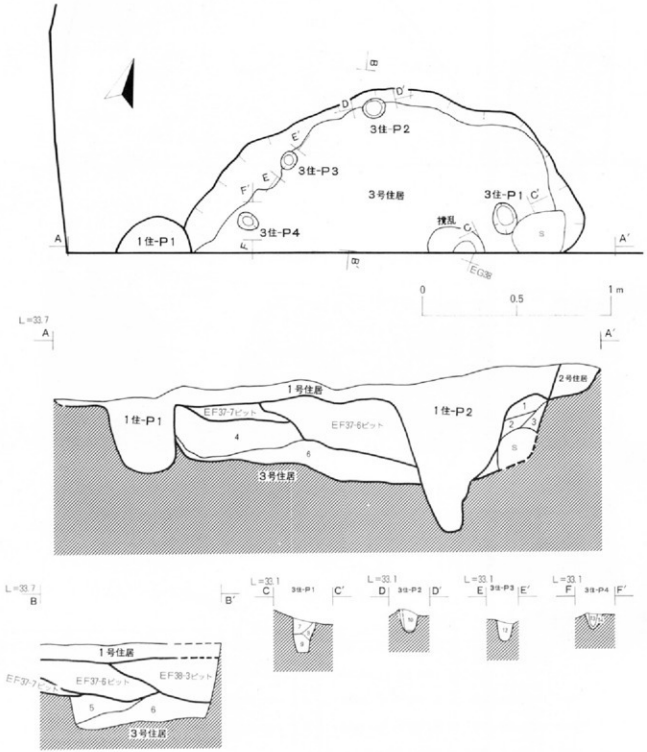
第4表　2号住居・2住1・2・3ピット

層No	土色	性状	層No	土色	性状
1	10YR4/8褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	6	10YR3/4褐色	炭化物なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。真砂なし。
2	10YR3/4暗褐色	炭化物なし。土器片有り。礫少量有り。粘性少量有り。真砂なし。	7	10YR5/6黄褐色	炭化物微量。遺物なし。礫1個有り。粘性少量有り。真砂なし。
3	10YR4/6褐色	炭化物微量。遺物なし。礫1個有り。粘性少量有り。真砂なし。	8	10YR3/3暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。やや軟い。真砂なし。
4	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。遺物なし。礫1個有り。粘性少量有り。真砂なし。	9	10YR6/8明黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。軟い。真砂なし。
5	10YR3/3暗褐色	炭化物なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。真砂なし。			

c．3号住居

EF37・EF38・EG37・EG38グリットにおいて全体の1／3程を検出した。残りは、EF38・EG38の未調査区に拡がる。1号住居のP2によって床面まで掘り込まれ、EF37-6ピットによって北壁の一部と覆土が、EF38-3ピットによって覆土が、1号住居のP1によって西壁の一部が切られている。

形状は楕円形を呈するものと思われる。規模は開口部の径は205cm以上で、底径は186cm以上である。壁は非常にしっかりしており、北壁ではいく分直壁状に立ち上がり、西壁ではややゆるやかに外傾している。深さは最大32.2cmである。



第12図　3号住居

第5表　3号住居・3住P1・P2・P3

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。褪1個有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	6	10YR5/8黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。小礫多し。粘性有り。固い。真砂なし。
2	10YR5/6黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。褪有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。	7	10YR4/5褐色	炭化物有り。遺物なし。褪なし。粘性強し。
3	10YR4/8褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。やや固い。真砂なし。	8	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。遺物なし。褪有り。粘性微量。
4	10YR4/4褐色	炭化物ブロック有り。焼土なし。遺物なし。礫多し(10～12cmの褪有り)。粘性少量有り。やや軟い。真砂なし。	9	10YR5/6黄褐色	炭化物微量。粘性有り。
5	10YR3/3暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。褪多し。粘性少量有り。やや固い。真砂なし	10	10YR5/3にぶい黄褐色	遺物なし。長径3cmの褪有り。木炭粒含む。粘性有り。
			11	10YR5/8黄褐色	粘性均質に有り。
			12	10YR5/8黄褐色	遺物なし。木炭粒有り。粘性有り。
			13	10YR4/4褐色	遺物なし。木炭粒(6～7mm)含む。粘性有り。
			14	10YR5/6黄褐色	粘性有り。

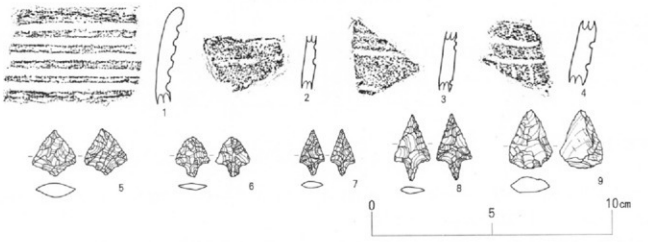
床面は固く締まり、ほぼ平坦である。炉及び焼土、炭の拡がりは検出されていない。

柱穴は、P1・P2・P3・P4がある。P2・P3は壁際にあり、P1・P4は、壁より幾分内側に位置している。形状はP1・P4が楕円形で、P2・P3はほぼ円形である。規模は、P1は開口部長軸16cm、短軸14cm、底径は11cm、深さ19cm、P2は開口部径12cm、底部径9cm、深さ13cm、P3は開口部径9cm、底部径6.5cm、深さ11cm、P4は開口部長軸11cm、短軸7.5cm、深さ9cmである。P2・P4では柱痕跡を有し、主柱穴と思われる。

[出土遺物]

出土した遺物は、土器・石器がある。

土器は、埋土中より細片152点（うち底部片1点）が出土しているが、大部分の資料は劣化が著しい。4点を図示した。1は深鉢の口縁部片である。口縁は平縁をなし、口唇部は丸味を帯び、口縁部は若干外反する。文様は、口縁に平行する幅2.5mm程の半截竹管による平行沈線が5条巡る。胎土には、粗砂・細砂・金雲母が少量混入している。内面には、少量の朱が残存している。2、3、4は深鉢の体部片である。いずれも幅2.5mm程の半截竹管による横位の平行沈線が施されており、2では2条、3では劣化が非常に著しく不明瞭であるが5条、4では平行沈線2条と縦位の沈線が施文されている。胎土は、2では粗砂を少量、3では細砂を多量、4では細砂を少量含んでいる。



第13図　3号住居出土遺物

第6表　3号住居出土石器

図　版	遺構名・層	器　種	分　類	石　材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備　考	登録No.
第13図 5	3号住居埋土	石　鏃	I－3	チャート	1.90	1.79	1.79	1.45		9122
6	3号住居埋土	石　鏃	I－3	珪質頁岩	1.64	1.42	1.42	0.45		9123
7	3号住居埋土	石　鏃	I－1	チャート	1.90	1.20	1.20	0.35		9077
8	3号住居埋土	石　鏃	I－1	珪質頁岩	2.73	1.43	1.43	0.80		9121
9	3号住居埋土	石　鏃	II－4	珪質凝灰岩	2.46	1.80	1.80	2.50		9124

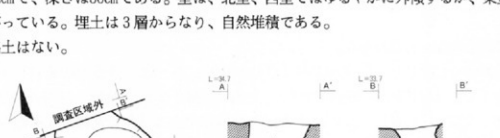
石器は、埋土中より石鏃5点が出土している。5～8は有茎鏃である。5、6は鏃身が正三角形状のものである。側縁は若干であるが外弧状で、基部は尖基をなす。茎部は、5では非常に短く作り出され、先は尖っており、6では先端は平らである。7、8は鏃身が二等辺三角形状のものである。側縁は直線状で、基部は、7では尖基、8では平基である。ともに、鏃身の長さに対し、1／3程の長さの先の尖る茎部を有している。9は無茎の石鏃である。鏃身は二等辺三角形状で、側縁は若干であるが外弧し、基部は円基をなしている。両面に一次剥離痕を大きく残している。

(2)土坑

EF37-1ピット

EF37グリットの北壁際において検出した。一部は、EF37グリットの調査区域外に拡がる。形状は開口部は不整形であるが、底部は楕円形を呈している。規模は、開口部の径が72cmで、底部は長軸33cm、短軸32cmで、深さは36cmである。壁は、北壁、西壁ではゆるやかに外傾するが、東壁では直壁状に立ち上がっている。埋土は3層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第14図　EF37-1ピット

第7表　EF37－1ピット

層No	土　色	性　状	層No	土　色	性　状
1	10YR4／4褐色	炭化物微量。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。真砂なし。	3	10YR3／3暗褐色	炭化物有り。遺物なし。礫2個有り。粘性有り。真砂なし。
2	10YR4／6褐色	炭化物微量。遺物なし。礫1個有り。粘性少量有り。真砂なし。	4	10YR3／3暗褐色	炭化物なし。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。

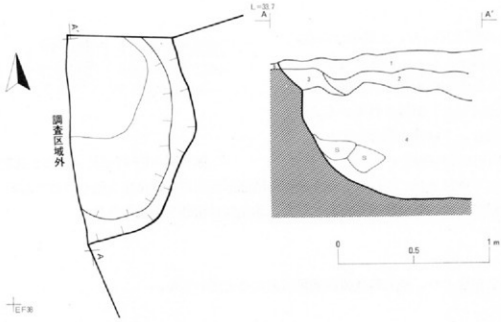
EF37-2ピット

EF37グリットの、5層（10YR4／6褐色土層）の上面において全体の1／3程を検出した。残りはEE37・EF37グリットの調査区域外へと拡がる。

形状は、不明である。断面形は、頸部で一度締まる。開口部から底部にかけてなだらかに傾斜するU字状を呈する。壁には、地山の大形礫が多く露出する。床面は、礫により凸凹が著しい。規模は、開口部で径が1.4m以上で、底径は0.67m以上である。

埋土は4層からなる。1～3層は自然堆積であるが、4層は地山の土と同様の礫を多く含む土からなり、人為的な堆積であると思われる。周辺には、多くの遺構が密に分布することから、他の遺構を掘る際に、地山の土を投棄したものであろうか。

遺物の出土はない。



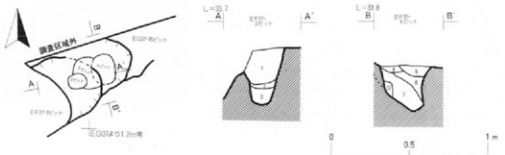
第15図　EF37-2ピット

第8表　EF37－2ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土有り。土器片有り。礫有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。	4	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。径30cm程の大型礫を含む。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
2	10YR4/3 褐黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。	5	10YR 4/6 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。明黄ブロック含む礫多し。粘性有り。やや固い。真砂なし。
3	10YR 4/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。			

EF37-3ピット・4ピット・5ピット

EF37・EG37グリットにおいて検出したが、EF37-4ピットは、EF37の調査区域外へ拡がる。EF37-1ピットによって3ピットが切られ、3ピットが4ピット・5ピットを切り、4ピットが5ピット・EG37-15ピットを切る。形状は、切り合いのため開口部は不明であるが、4ピットは底部が楕円形を呈している。規模は、3ピットが開口部短軸が43cm、底部の長軸12cm、短軸10cm、深さ36cmで、4ピットが底部長軸19cm、短軸16cm、深さ29cm、5ピットが、底部長軸21cm、深さ20cmである。



第16図　EF37-3ピット・4ピット・5ピット

第9表　EF37－3ピット・4ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 2/3 黒褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。固い。真砂なし。	5	10YR 4/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物、土器なし。粘性有り。固い。真砂なし
2	10YR 4/6 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。固い。真砂なし。	6	10YR 4/6 褐色	炭化物なし。焼土なし。遺物、土器なし。粘性強し。やや軟い。真砂なし。
3	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性強し。やや固い。真砂なし。	7	10YR 3/3 暗褐色	炭化物有り。焼土なし。遺物、土器なし。粘性有り。やや軟い。花崗岩風化。
4	10YR 3/4 暗褐色	炭化物有り。焼土なし。遺物、土器なし。粘性有り。やや固い。真砂なし。			

［出土遺物］

EF37-3ピットの埋土中より、土器細片75点が出土した。2点を図示した。1は深鉢の体部片である。平行する3条の沈線を有し、沈線間には磨消縄文と充填縄文（LR）が施されている。胎土には粗砂を多く含む。2は鉢の頸部片である。頸部は、「く」の字状に折れ曲がっている。文様は、隆線と沈線によって意匠され、隆線は、幅5㎜程の断面形か半円の粘土紐を張りつけたもので、隆線に沿って幅3㎜程の比較的深い沈線を有している。胎土には粗砂を多量に含む。

第17図　EF37-3ピット出土遺物

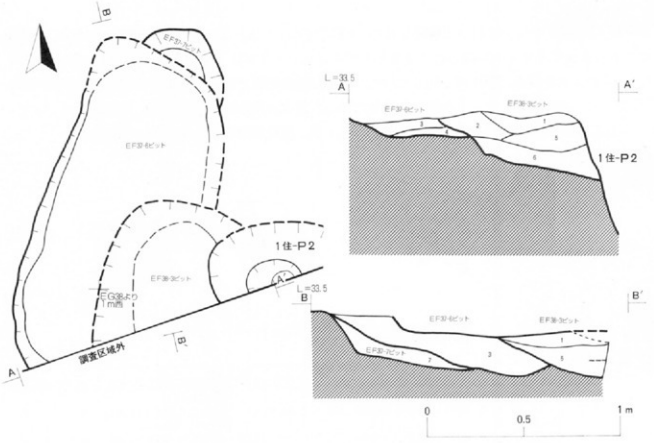
［時期］

埋土中よりの土器片より、縄文時代後期前葉にあたると思われる。

EF37-6ピット

EF37・38グリットにおいて検出し、一部はEF38の調査区域外へと広がる。平面形は長楕円形で、規模は開口部の長軸170㎝以上、短軸85㎝、底部の長軸160㎝以上、短軸70㎝で、深さは25㎝程である。壁は外傾している。埋土は2層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第18図　EF37-6ピット・7ピット・EF38-3ピット

第10表　EF37－6ピット・7ピット・EF38－3ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR4/3にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。やや固い。真砂なし。	5	10YR4/3にぶい黄褐色	炭化物かたまり有り。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。
2	10YR4/6褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し明黄ブロック有り。粘性有り。固い。真砂なし。	6	10YR3/3暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。固い。真砂なし。
3	10YR3/3暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。固い。真砂なし。	7	10YR4/3にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物、礫なし。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
4	10YR4/4褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。固い。真砂なし。			

EF37-7ピット

EF37グリットにおいて検出した。大部分は、EF37-6ピットによって切られ、北壁の一部が残存する。北壁はゆるやかに傾斜しており、深さは12cm程である。

遺物の出土はない。

EF38-3ピット

EF37・EF38グリットにおいて全体の1／2程を検出した。残りは、EF38の調査区域外へと拡がる。1号住の2ピットによって東壁が切られ、EF37-6ピットの南東壁を切っている。

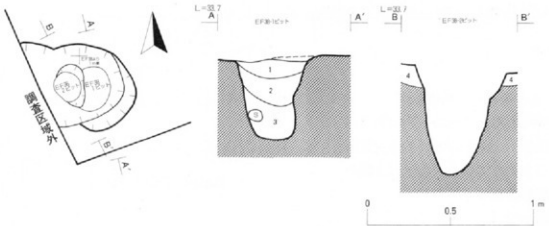
形状は不明である。規模は、深さが35cm程である。壁は開口部下で一度締まり、ゆるやかに傾斜している。

遺物の出土はない。

EF38-1ピット・2ピット

EF38グリットにおいて検出した。EF38-2ピットは、調査区域外に拡がる。1ピット、2ピットは切り合うが、新旧は不明である。形状はともに楕円形を呈している。規模は、EF38-1では開口部径が50cmで、底径が23cm、深さ50cm、2ピットでは開口部径が56cm、底径が17cm、深さは68cmである。壁は1ピットでは直壁状であるが、2ピットでは外傾している。埋土は、1ピットでは3層からなり自然堆積であるが、2ピットでは埋土の状況は不明である。

遺物は、2ピットの埋土中より、深鉢の体部片2点と、底部片1点が出土したが、劣化が著しく割愛した。



第19図　EF38-1ピット・2ピット

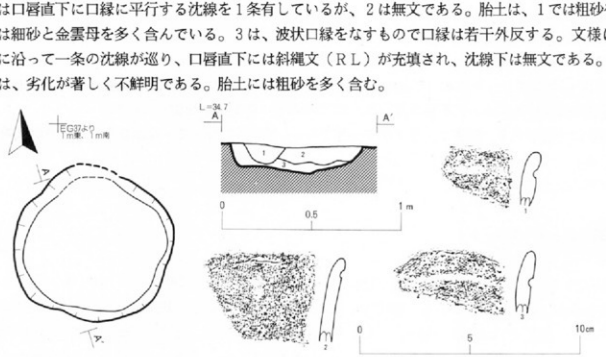
第11表　EF38－1ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR2/3黒褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。固い。真砂なし。	3	10YR4/4褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性有り。やや固い。真砂なし。
2	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。固い。真砂なし。	4	10YR4/6褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。明黄ブロック多し。粘性有り。やや固い。真砂なし。

EG37-1ピット

EG37グリットにおいて検出した。切り合いはない。形状はほぼ円形である。壁はゆるやかに外傾している。規模は、開口部の径は90cm、底部径は81cm、深さは14cmである。埋土は3層からなり、自然堆積である。

出土遺物は土器がある。土器は埋土中より劣化の著しい細片40点が出土した。口縁部片3点を図示した。1・2は平縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁部は、口唇部直下で若干外反する。文様は、1では口唇直下に口縁に平行する沈線を1条有しているが、2は無文である。胎土は、1では粗砂を、2では細砂と金雲母を多く含んでいる。3は、波状口縁をなすもので口縁は若干外反する。文様は、口唇に沿って一条の沈線が巡り、口唇直下には斜縄文（RL）が充填され、沈線下は無文である。斜縄文は、劣化が著しく不鮮明である。胎土には粗砂を多く含む。



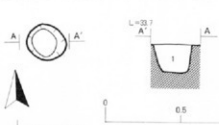
第20図　EG37-1ピット・出土遺物

第12表　EG37－1ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR3/3暗褐色	炭化物微量。土器片有り。礫なし。粘性なし。真砂なし。	3	10YR5/8黄褐色	炭化物なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。真砂なし。
2	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。土器片有り。礫多し。粘性少量。真砂なし。			

EG37-2ピット

EG37グリットにおいて検出した。
平面形はほぼ円形で、規模は、開口部の径26cm、底部径17cm、深さ19cmである。壁は直壁状に立ち上がっている。埋土は3層からなり、木柱痕を有する。



第21図　EG37-2ピット

第13表　EG37－2ピット

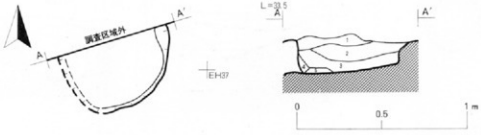
層No.	土　色	性　状
1	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。

遺物の出土はない。

EG37-3ピット

EG36・EG37グリットにおいて、全体の半分程を検出した。残りはEG36グリットの調査区域外へと拡がる。EG37-12ピット、EG37-13ピットを切る。形状は、円形を呈していると思われる。規模は、開口部径が67cm、底部径56cm、深さ23cmである。壁は、西壁ではEG37-12ピットの覆土を切っているため、不明瞭であるが、セクションの観察では直壁状に立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は5層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第22図　EG37-3ピット

第14表　EG37－3ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	4	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。やや軟い。真砂なし。
2	10YR 4/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	5	10YR 5/8 黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。軟い。真砂なし。
3	10YR 3/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫1個有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。			

EG37-4ピット

EG37グリットで検出した。一部は調査区域外へ拡がる。形状は楕円形で、規模は、開口部長軸82cm以上、短軸64cm、底部の長軸79cm以上、短軸58cm、深さ7cmである。壁はゆるやかに外傾し、床面には凸凹が見られる。埋土は2層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。

第23図　EG37-4ピット

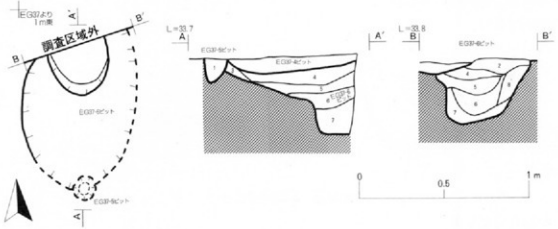
第15表　EG37－4ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	2	10YR 4/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。

EG37-5ピット・6ピット

EG37グリットで検出した。EG37-6ピットの一部は調査区域外へ拡がる。形状は、EG37-5ピットは円形で、6ピットは楕円形である。規模は、5ピットでは開口部径13cm、底部径7cm、深さ14cmで、6ピットでは、開口部径86cm以上、底部径33cm、深さ47cmである。壁は、5ピットでは外傾し、6ピットでは開口部直下で一度締まり、西壁では直壁状に、東壁では外傾している。埋土は、5ピットでは1層、6ピットでは6層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第24図　EG37-5ピット・6ピット

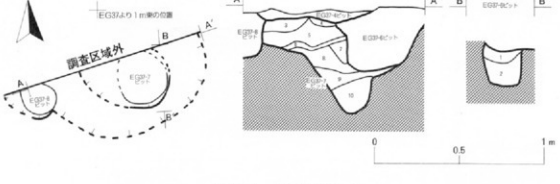
第16表　EG37−5ピット・6ピット

層No	土　色	性　状
1	10YR3/4褐褐色	炭化物少量有り。焼土なし。遺物なし。長径10cmの礫、小礫有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。
2	10YR4/4褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。
3	10YR4/6褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。やや固い。真砂なし。
4	10YR3/3褐褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
5	10YR5/6黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫4個有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
6	10YR2/3黒褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。軟い。真砂なし。
7	10YR5/8黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。
8	10YR4/6褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。やや固い。明黄ブロック有り。

EG37-7ピット

EG37グリットのEG37-6ピットの底面において検出した。ピットの上位はEG37-4ピット、EG37-6ピット、EG37-8ピット、EG37-9ピットによって切られる。形状は不明で、規模は、80cm以上の大型のもので、深さ55cm以上である。壁は、中位で一度締まるがなだらかに外傾している。

遺物の出土はない。



第25図　EG37-7ピット

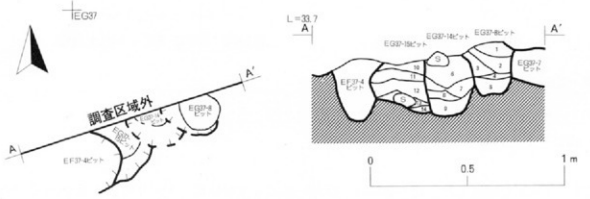
第17表　EG37－6ピット・7ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 5/6 黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。	6	10YR 4/3 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。
2	10YR 4/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。やや軟い。真砂なし。	7	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。
3	10YR 4/4 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。	8	10YR 3/4 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。
4	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。	9	10YR 4/6 褐色	炭化物ブロック有り。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。
5	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物土器片有り。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。	10	10YR 5/6 黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。

EG37-8ピット・14ピット・15ピット

EG37グリットにおいて検出した。ともに未発掘部分に拡がる。切り合いは、EG37-8ピットはEG37-7ピット、14ピットを切り、14ピットは15ピットを切っている。形状は不明で、規模は、8ピットは開口部径28cm以上、底部径12cm以上、深さ26cm、14ピットは開口部径20cm以上、底部径15cm以上、深さ32cm、15ピットは開口部径29cm、底部径19cm、深さ27cmである。壁は8ピット、14ピットで若干外傾している。埋土は、それぞれ5層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第26図　EG37-8ピット・14ピット・15ピット

第18表　EG37－8ピット・14ピット・15ピット

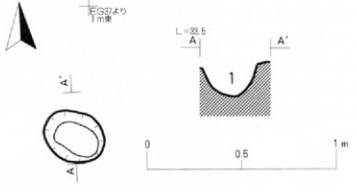
層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 4/3 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性なし。固い。真砂なし。	8	10YR 5/6 黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。
2	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性なし。固い。真砂なし。	9	10YR 4/3 褐色	炭化物、焼土なし。遺物、礫なし。粘性少量有り。固い。真砂なし。
3	10YR 4/4 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性なし。固い。真砂なし。	10	10YR 4/3 にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。
4	10YR 5/6 黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性なし。固い。真砂なし。	11	10YR 4/2 灰黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性なし。固い。真砂なし。
5	10YR 6/8 明黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。真砂なし。	12	10YR 3/4 暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物土器片有り。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。
6	10YR 3/3 暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。20cmの礫有り。粘性なし。固い。真砂なし。	13	10YR 4/3 にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。10cmの礫1個有り。粘性なし。固い。真砂なし。
7	10YR 3/4 暗褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。	14	10YR 4/3 褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。

EG37-9ピット

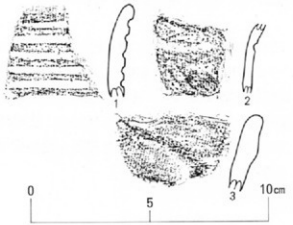
EG37グリットにおいて検出した。平面形は楕円で、規模は開口部長軸33cm、短軸27cm、底部長軸24cm、短軸16cm、深さ15cmである。壁はゆるやかに外傾している。

［出土遺物］

埋土中より、土器片26点が出土した。口縁部片３点を図示した。いづれも磨滅が著しい。１は、深鉢の口縁片である。口縁は平縁をなし、若干外反する。口縁部には口縁に平行する幅３㎜程の五条の平行沈線が巡る。胎土には細砂を少量含む。２は、小型の鉢の口縁部片である。口縁は外反する。口縁部には、一条の幅３㎜程度の横位沈線と、口唇直下まで縄文原体が施文されている。原体の種類は、磨滅が著しく不明である。胎土には、粗砂を多く含んでいる。３は、深鉢の口縁部片である。口縁は外傾する。口縁部には、隆帯を一条有している。胎土には細砂を多量に含む。



第27図　EG37-9ピット



第28図　EG37-9ピット出土遺物

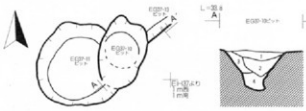
第19表　EG37－9ピット

層No.	土　色	性　状
1	10YR4/4褐色	炭化物有り。焼土なし。遺物なし。10～15cmの礫有り。粘性なし。固い。真砂なし。

EG37-10ピット・11ピット

EG37グリットで検出した。切り合いは、EG37-10ピットが11ピット・13ピットを切っている。平面形は、10ピットでは開口部は楕円形であるが底部は円形で、11ピットはほぼ円形である。規模は、10ピットでは開口部長軸45cm、短軸31cm、底部径は25cm、深さ26cm、13ピットでは開口部径59cm、底部径39cm、深さは不明である。壁は、ともにゆるやかに外傾している。埋土は、EG37-10ピットでは４層からなり自然堆積である。

遺物の出土は、10ピットではみられず、11ピットで埋土中より深鉢の体部片13点が出土したが、劣化が著しく割愛した。



第29図　EG37-10ピット・11ピット

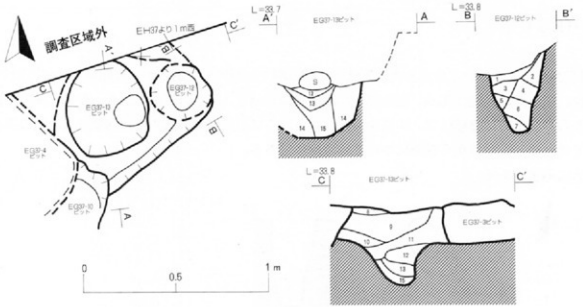
第20表　EG37－10ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR4/6褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。固い。真砂なし。	3	10YR5/8黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。固い。真砂なし。
2	10YR4/8褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。固い。真砂なし。	4	10YR5/4黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。固い。真砂なし。

EG37-12ピット・13ピット

EG37グリットにおいて検出した。一部は調査区域外に拡がる。切り合いは、12ピットの上位はEG37-4ピットによって一部が切られ、EG37-13ピットはEG37-4ピット・10ピット・12ピットによって切られる。形状は、12ピットでは開口部は円形を呈し、底部は楕円形で、13ピットは不明である。規模は、12ピットは開口部径は31cm、底部長軸21cm、短軸16cm、深さ43cm、13ピットは開口部は85cm以上、底部は16cm、深さ57cmである。壁は、12ピットでは外傾し、13ピットは中位に段を有している。埋土は、12ピットでは7層からなり自然堆積で、13ピットでは中位の段より上では7層、下では5層からなり、段の下には柱根状の痕跡を残している。

遺物の出土はない。



第30図　EG37-12ピット・13ピット

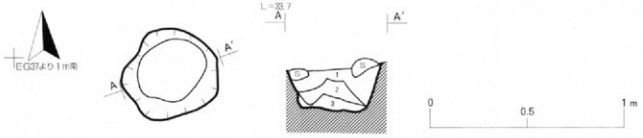
第21表　EG37－12ピット・13ピット

層No	土色	性状	層No	土色	性状
1	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性少量有り。軟い。真砂なし。	9	10YR4/3にぶい黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
2	10YR5/6黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性少量有り。やや軟い。真砂なし。	10	10YR4/6褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。
3	10YR4/8褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し（明黄ブロック有り）。粘性なし。固い。真砂なし。	11	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
4	10YR6/6明黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。やや軟い。真砂なし。	12	10YR5/6黄褐色	炭化物有り。焼土なし。遺物貝片有り。礫なし。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。
5	10YR5/8黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。やや軟い。真砂なし。	13	10YR5/6黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。
6	10YR6/8明黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫多し。粘性有り。固い。真砂なし。	14	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。
7	10YR6/6明黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。固い。真砂なし。	15	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性なし。固い。真砂なし。
8	10YR4/6褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。			

EG37-16ピット

EG37グリットにおいて検出した。形状は、楕円形を呈していると思われ、規模は、開口部長軸52cm、短軸45cm、底部長軸37cm、短軸32cmである。壁は、急角度で外傾している。埋土は、3層からなり自然堆積である。

遺物の出土はない。



第31図　EG37-16ピット

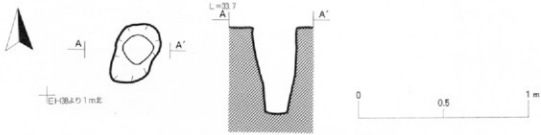
第22表　EG37－16ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。埴土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。固い。真砂なし。	3	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。埴土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。やや軟い。真砂なし。
2	10YR6/8明黄褐色	炭化物微量。埴土なし。遺物なし。5～6cmの礫有り。粘性有り。やや軟い。真砂なし。			

EH37-1ピット

EH37グリットにおいて検出した。形状は、開口部では楕円形であるが、底部は、ほぼ円形である。規模は、開口部の長軸は40cm、短軸25cm、底部径は18cmで、深さは51cmである。壁は、東壁では、開口部から中位までは直壁状で、中位から底部にかけては急角度で外傾する。西壁では、開口部から中位までは外傾し、中位から底部にかけては直壁状である。

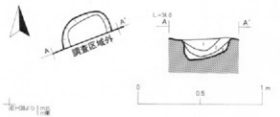
埋土は不明である。



第32図　EH37-1ピット

EH37-2ピット

EH37グリットにおいて1／2程を検出した。残りは区域外へと拡がる。平面形は不明で、規模は、開口部径が42cm、底部径31cm、深さ17cmである。壁は西壁では直壁状であるが、東壁では外傾している。床面は東側にむかってゆるやかに傾斜している。埋土は3層からなり、自然堆積である。遺物の出土はない。



第33図　EH37-2ピット

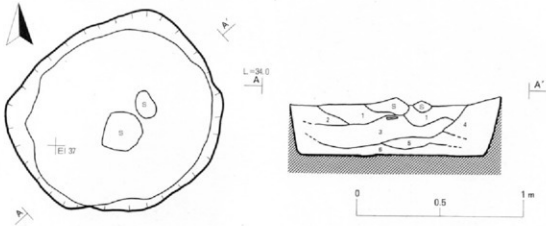
第23表　EH37－2ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR5/8黄褐色	炭化物微量。埴土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。	3	10YR5/6黄褐色	炭化物、埴土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。
2	10YR4/6褐色	炭化物微量。埴土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。			

EI37-1ピット

EH36・EH37・EI36・EI37グリットにおいて検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は、開口部長

軸132cm・短軸114cm、底部長軸113cm、短軸102cmで、深さは48cmである。壁は急角度で外傾している。埋土は6層からなり、1層には26cm×24cm、17cm×12cmの2個の花崗岩の礫がみられる。礫は、据えられたものかどうかは不明である。遺構の性格は、埋土中から朱の付着した土器片や耳飾等が出土しており、墓拡である可能性が高い。



第34図　EI37−1ピット

第24表　EI37−1ピット

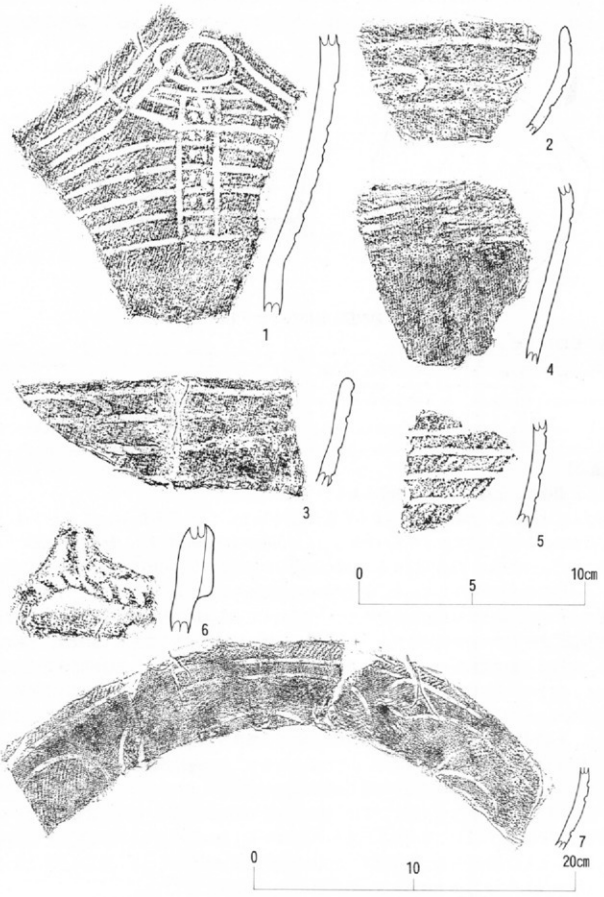
層No.	土色	性状	層No.	土色	性状
1	10YR 4/6 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物土器片有り。大きい礫2個有り。粘性少量有り。やや固い。真砂なし。	4	不明	
2	10YR 5/6 黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物土器片有り。礫有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。	5	10YR 4/6 褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物土器片少量有り。礫少量有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。
3	10YR 4/4 褐色	炭化物多量。焼土なし。遺物骨片、土器有り。礫有り。粘性有り。軟い。真砂なし。	6	10YR 5/8 黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。

［出土遺物］

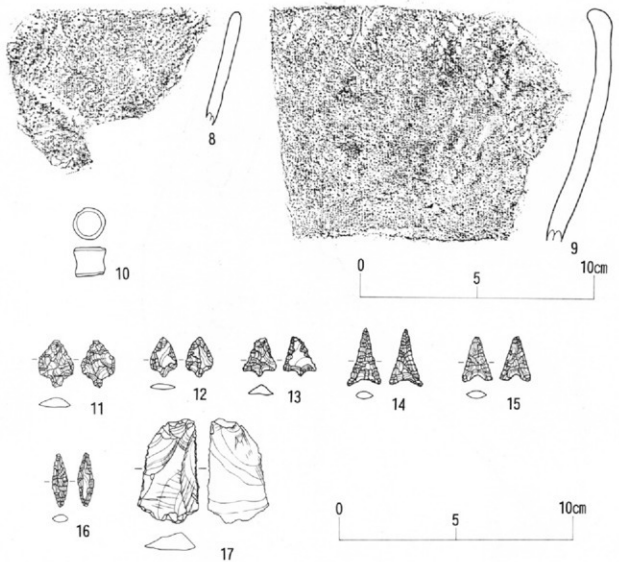
出土した遺物は、土器・土製品・石器がある。

土器は、劣化の著しい土器片372点（うち底部6点）が出土した。9点を図示した。1〜5は、横位の平行沈線により文様を意匠するものである。1は、深鉢の口縁部片である。断面は、頭部で「く」の字状に折れ、口縁部は、幾分内反する。口縁には山形の突起を有し、突起下には円文が施文され、円文下から縦位の沈線が垂下している。縦位沈線と横位沈線の交叉する内側には、下位方向からの刺突が施されている。胎土には粗砂を多量に含む。内面の「く」の字状に折れ曲がった部分より下位と、口唇部表面にタールの付着が認められる。2・3は、平縁の深鉢口縁部片である。口縁は、ともに内反する。文様は、横位沈線間に縦位の波状の沈線が施文されている。2では、沈線間に縄文が充填されている。胎土は、2は粗砂を多量に含み、3は粗砂を少量含んでいる。4・5は、深鉢の体部片である。文様は、4では縦位の波状の沈線がみられ、平行沈線の下位は無文である。胎土は、4では細砂を少量、金雲母を多量に含み、5では器表面に細砂を少量含み、内面には粗砂を少量含んでいる。6は、深鉢の口縁部片である。口縁には、山形突起を有する。口縁部は外傾する。文様は、山形突起の頂部から、口唇に沿って刻みを有する幅1cm程の隆線が貼付され、内面には、口縁に沿って一条の沈線が巡る。胎土には粗砂を多く含む。7は、壺の体部片である。文様は、沈線と磨消縄文により曲線文が描かれている。地文はLRである。胎土には粗砂を多く含む。8は鉢の口縁部片、9は深鉢の口縁部片で、ともに平縁をなす。口縁部は、8では外傾、9では内反している。地文は、8では節の細かな斜縄文（LR）が、9では筋の荒い斜縄文（LR）が施文されている。

土製品は、耳飾り1点が出土した。大きさは、13mm×11mm程である。中央部には、穿孔が見られない。胎土には、細砂と金雲母が多く混入する。



第35図　E I37−1 ピット出土遺物



第36図　EI37−1 ピット出土遺物

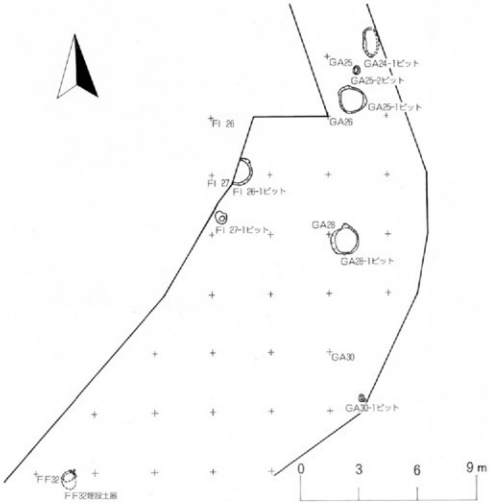
石器は、石鏃6点・不定形石器1点が出土した。11〜13は、有茎の石鏃である。11は、鏃身が正三角形状のものである。側縁は直線上で、基部は尖基をなす。茎部の一部は欠損するが、比較的長く作り出されている。12・13は、鏃身が二等辺三角形状のものである。側縁は、12では外弧で、13は直線状である。基部は、12が尖基をなし、13は平基である。茎部は、ともに短く作り出している。14・15は、鏃身が二等辺三角形状の無茎の石鏃で、基部に抉りを有するものである。側縁は、14では内弧、15では直線状である。15は、両面にアスファルトの付着が認められる。16は、柳葉型のものである。両端が尖り、断面形はレンズ状である。片面に一次剥離痕を残している。17は、不定形の石器である。両側縁にマイクロフレーキングを残す。両面に一次剥離痕を大きく残している。

第25表　EI37−1 ピット出土石器

図版	遺構名・層	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録No.
第138図 11	EI37-1pit 埋土	石鏃	I−3	チャート	2.02	1.50	1.50	1.00		9090
12	EI37-1pit 埋土	石鏃	I−3	チャート	1.69	1.14	1.14	0.40		9101
13	EI37-1pit 埋土	石鏃	I−1	チャート	1.64	1.38	1.38	0.65		9086
14	EI37-1pit 埋土	石鏃	II−2	チャート	2.52	1.42	1.42	0.60		9081
15	EI37-1pit 埋土	石鏃	II−2	珪質頁岩	1.89	2.26	2.26	0.55		9091
16	EI37-1pit 埋土	石鏃	III	チャート	2.24	1.64	1.64	0.45		9089
17	EI37-1pit 埋土	不定形石器	V	細粒砂岩	4.43	2.60	2.60	8.50		9098

2　B区検出遺構

FF32・GA24・GA25・FI26・FI26・GA28・GA30グリットにおいて、埋設土器1基と土坑7基を検出した。遺構は、標高31～32cmの付近に主にみられるが、まばらに散布し、切り合う遺構はない。



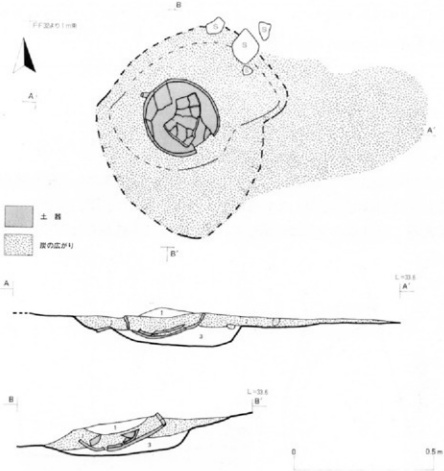
第37図　B区遺構配置図

(1)埋設土器

FF32埋設土器

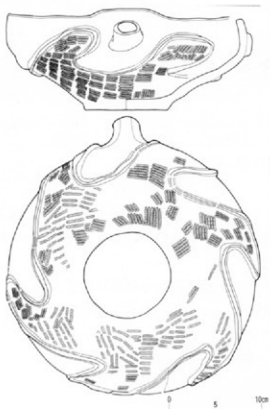
FF32グリットのⅣ層上面において検出した。土器は、Ⅳ層を堀り込む土坑を設け、底面に厚さ10cm程の黒褐色土を入れ、その上に据えたものである。土坑は不整形のもので、規模は、開口部の長軸76cm、短軸72cm、底部の長軸61cm、短軸45cm、深さ7cmである。土器周辺には、炭を多量に含む暗褐色土が最大厚7cm程に堆積し、暗褐色土は、土坑から東方向へ広がっている。土器内部には、厚さ6cm程に暗褐色土が堆積し、その上には厚さ4cm、径23cm程の焼土ブロックががのっている。

埋設された土器は、注口土器である。口縁は平縁をなすが、注口部の上位は、幅5cm、高さ1cm程に山形状に盛り上がっている。欠損のため不明ではあるが、山形状の盛り上がりは注口部の反対側にもあった可能性がある。口唇部は平坦で、口縁部は頸部で湾曲し内反している。注口部は、長さ2cm、幅3cm、内径1.8cm程で、頸部から40度程の角度で上方に突き出している。底部は入念に調整が施され、ほぼ平坦である。文様は、口縁部から体部中央付近まで波頭文が体部中央付近まで垂下している。



第38図　FF32埋設土器

波頭文は、幅1㎝程の隆線と充填縄文(LR)により施文され縄文は底部より1㎝程上位の付近まで施文されている。胎土は粗砂が少量混入するが、特に注口部の下面に多くみられる。土器の内面にはタールの付着がみられ、内面の注口部にむかって右側では頸部付近に横位に、左側では頸部から底部にかけて斜めにタールが付着する。タールの付着は、埋設土器使用による付着と思われ、埋設土器を斜めに据えたことにより上記の付着形態をとったものと思われる。尚、注口部でのタールの付着はみられない。



第39図

第26表　FF32　埋設土器

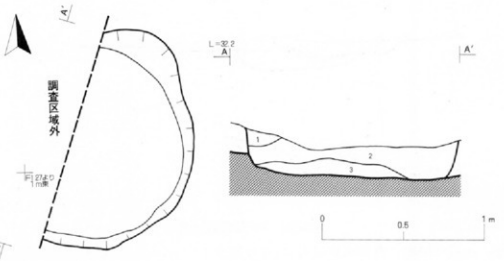
層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 3/3暗褐色	炭化物微量。土器片有り。粘性有り。	3	10YR 3/2黒褐色	炭化物ブロック状に有り。遺物なし。小礫少量有り。粘性有り。
2	10YR 3/3暗褐色	炭化物多量。焼土有り。遺物なし。礫有り。粘性有り。			

(2)土　坑

FI26-1ピット

FI26・FI27グリットの地山直上の7.5YR3/4暗褐色土において、全体の1/2程を検出した。残りは未発掘区へと拡がる。平面形は円形を呈していると思われる。規模は、開口部で138cm、底部で115cmで、深さは20cm程である。壁はゆるやかに外傾している。埋土は3層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第40図　FI26-1ピット

第27表　FI26-1ピット

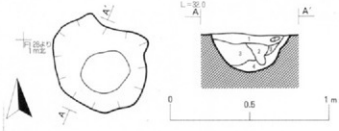
層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR 3/4褐色	炭化物、焼土なし。遺物、礫なし。粘性少量有り。軟い。真砂微量。	3	10YR 5/6黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。細かい礫多し。粘性多量有り。軟い。真砂微量。
2	10YR 4/3にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫少量有り。粘性少量有り。やや軟い。真砂微量。			

FI27-1ピット

FI27グリットの地山面において検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は、開口部の長軸66cm、短軸58cm、底部の長軸31cm、短軸25cm、深さ24cmである。壁はゆるやかに傾斜し、床面は船底状である。

埋土は3層からなり自然堆積で、一部木根によると思われる撹乱を受けている。

遺物の出土はない。



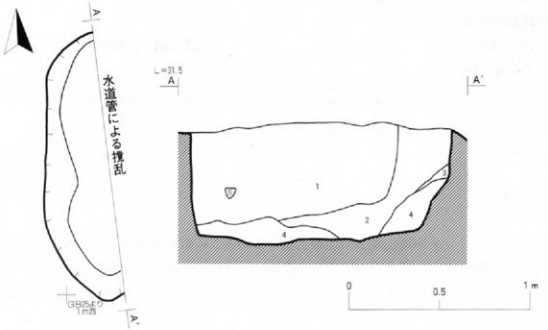
第41図　FI27-1ピット

第28表　FI27－1ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR3/2黒褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。5～6cmの礫有り。粘性有り。軟い。真砂なし。	3	10YR4/3にぶい黄褐色	炭化物、焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。やや軟い。真砂なし。
2	10YR3/3暗褐色	炭化物ブロック有り。焼土なし。遺物なし。礫なし。粘性有り。軟い。真砂なし。	4	10YR4/3にぶい黄褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫有り。粘性有り。やや固い。真砂なし。

GA24-1ピット

GA24の地山面において検出した。半分ほどが未調査区に拡がり、埋土の半分ほどが、水道管の埋設によって撹乱されている。平面形は楕円形を呈していると思われる。壁は、北壁ではほぼ垂直に立ち上がるが、南壁では傾斜をもって立ち上がっている。大きさは、最大幅で148cm、深さは最大で65cmである。埋土は、1層は撹乱で、2～4層は自然堆積である。



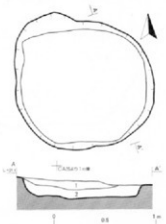
第42図　GA24-1ピット

第29表　GA24－1ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	撹乱		3	10YR3/3暗褐色	炭化物なし、赤緒有り。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂なし。
2	10YR3/3暗褐色	炭化物なし、赤緒有り。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂有り。	4	10YR5/8黄褐色	炭化物なし、赤緒有り。遺物なし。礫有り。粘性少量有り。真砂なし。

GA25-1ピット

GA25の地山面において検出した。平面形は円形を呈する。壁は北壁では緩やかに立ち上がり、南壁ではやや急角度で立ち上がっている。大きさは最大幅150cm、深さは17cmである。埋土は2層からなり、自然堆積である。



第43図　GA25-1ピット

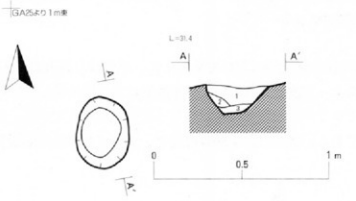
第30表　GA25－1ピット

層No.	土色	性状	層No.	土色	性状
1	10YR 4/3 暗褐色	炭化物なし、赤錆有り。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂なし。	2	10YR 3/3 暗褐色	炭化物なし、赤錆有り。遺物なし。礫なし。粘性有り。真砂なし。

GA25-2ピット

GA25グリットの地山面において検出した。形状は楕円形を呈し、規模は、開口部の長軸41cm、短軸30cm、底部の長軸28cm、短軸22cm、深さ16cmである。壁はゆるやかに傾斜する。埋土は3層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



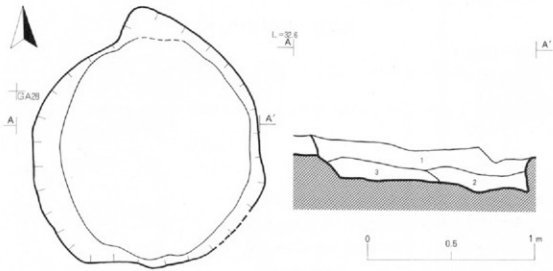
第44図　GA25-2ピット

第31表　GA25－2ピット

層No.	土色	性状	層No.	土色	性状
1	10YR 4/4 褐色	炭化物なし、赤錆微量。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂なし。	3	10YR 4/4 褐色	炭化物なし、赤錆微量。遺物なし。礫なし。粘性有り。真砂なし。
2	10YR 4/3 暗褐色	炭化物なし、赤錆有り。遺物なし。礫なし。粘性有り。真砂なし。			

GA28-1ピット

GA27・GA28グリットの地山直上の3層上面の暗褐色土において検出した。形状は円形で、開口部径137cm、底部径122cm、深さ20cmである。壁は、西壁ではゆるやかに傾斜し、東壁では頸部で締まり、直壁状に底部に至っている。床面は、凸凹が著しい。埋土は3層からなり、自然堆積である。



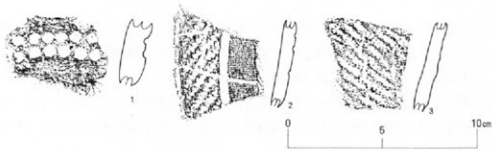
第45図　GA28-1ピット

第32表　GA28－1ピット

層No.	土色	性状	層No.	土色	性状
1	10YR 4/3 暗褐色	炭化物微量、鉄の赤錆多量。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂なし。	3	10YR 4/3 暗褐色	炭化物微量、赤錆有り。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂なし。
2	10YR 5/4 褐色	炭化物なし、赤錆有り。遺物なし。礫有り。粘性有り。真砂なし。			

［出土遺物］

出土した遺物は、劣化の著しい土器片30点がある。3点を図示した。1は、深鉢の頸部片である。半截竹管による刺突文列が2列横位に展開する。胎土には粗砂を多く含む。2・3は、深鉢の体部片である。2では、沈線と磨消縄文によって文様を意匠する。3は、斜縄文（ＬＲ）が施文される。胎土には、ともに細砂を多量に含む。

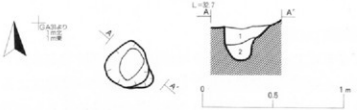


第46図　GA28-1ピット出土遺物

GA30-1ピット

GA30の地山面において検出した。形状は、開口部では円形を呈し、底部では、楕円形を呈している。規模は、開口部径30cm、底部の長軸22cm、短軸15cm、深さ22cmである。壁は、東壁はゆるやかに立ち上がるが、西壁では直壁状である。埋土は2層からなり、自然堆積である。

遺物の出土はない。



第47図　GA30-1ピット

第33表　GA30－1ピット

層No.	土　色	性　状	層No.	土　色	性　状
1	10YR3/4暗褐色	炭化物微量。焼土なし。遺物なし。礫3個有り。粘性強し。真砂なし。	2	10YR4/4褐色	炭化物なし。焼土なし。遺物なし。礫3個有り。粘性強し。

V　遺構外出土遺物

遺構外より出土した遺物は、土器・土製品・石器・石製品・骨角器・動物遺存体があり、大部分はB区からの出土で、A区からの出土は少ない。ここでは、A区・B区を一括し、出土遺物の概要に触れる。

1．土器

土器は、53cm×35cm×13cmのコンテナ100箱程が出土した。土器片の出土は非常に多いが、復元個体は少ない。そのため、土器の分類は文様によっておこなっている。層位的には2層・3層からの出土が多くみられ、特に斜面の標高33m付近に集中していた。

出土した土器の時期は、縄文時代中期・後期である。以下、縄文時代中期のものを第Ⅰ群、後期初頭から前葉のものを第Ⅱ群、後期中葉のものを第Ⅲ群、粗製の土器を第Ⅳ群、ミニチュア土器を第Ⅴ群として取り扱う。

第Ⅰ群土器

本群は、縄文時代中期に属すると思われるものである。形式的には、大木8b式・大木9式・大木10式に相当する。

第1類

大木8b式に相当すると思われるものである。出土点数は少ない。出土層位は2層・3層・4層から出土しているが、特に4層中から多くの出土をみた。文様は渦巻文を主体とし、施文方法により細分が可能である。

A.（第48図1・2、写真図版12-28・29）

隆線と沈線により渦巻文を意匠するもの。1・2は深鉢の口縁部片である。1は波状口縁をなし、口縁部は外反する。波状部から頸部へと隆線が垂下し、その内側には沈線による渦巻文を有する。波頂部の直下には盲孔を有している。2は口縁部に山形状の突起を有するものである。口唇は肥厚し、口唇部には隆線と沈線による渦巻文を有している。山形状の突起下には孔を有している。口縁部には、沈線と充填縄文により文様が意匠される。

B.（第48図3・4、写真図版12-30・31）

沈線によって文様を意匠するもの。3は深鉢の体部片である。沈線と磨消縄文により区画文が意匠される。4は深鉢の口縁部片である。口縁は内湾し口唇部は断面形が三角形状に肥厚している。文様は、頸部に二条の横位沈線が巡り、口縁部無文帯と区画し、体部には、二条の沈線による渦巻文が縄文（RL）施文後に施文される。若干ではあるが、器表面にタールの付着が見られるが、内面には見られない。

C.（第48図5～13、写真図版12-32～40）

隆沈線により渦巻文を意匠するもの。10・11・13は深鉢の口縁部片である。口縁は波状口縁をなし、口縁部は内湾する。文様は口縁に沿って1条の隆線が巡り、体部には2条1組の隆沈線による縦位の文様と、1条の隆沈線による渦巻文が意匠される。10では波頂部が肥厚し口唇部にも渦巻文

を有している。5～9・12は深鉢の体部片である。6・8・9は隆沈線による楕円区画文をもつもので区画文内には渦巻文を有し、5・7・12は1条の隆沈線による渦巻文を有している。

第2類（第48図14～17、写真図版12-41～13-44）

大木式9式に相当すると思われるもの。出土点数は少ない。14・16は深鉢の口縁部資料である。口縁は波状口縁をなし、口縁部は内湾している。文様は、波頂部に隆線による渦巻文を有し、16では渦巻文の下に隆沈線による楕円区画文を有している。15・17は深鉢の体部片である。15は隆沈線、17は隆線による楕円区画文を有する。

第3類

大木10式に相当すると思われるもの。出土点数は多い。出土層位は2層・3層・4層で、特に4層から多く出土している。

A.（第48図18～第49図31、写真図版12-45～13-58）

沈線と充填縄文により曲線文を意匠する深鉢口縁部資料。口縁は18・20・22・25・26では波状口縁をなし、他は平縁である。口縁部は、18・31では外傾、20・30は内湾、21～23では頸部で一度締まり外反、19・24～26・28・29では外反している。文様は、口縁部は無文で、頸部から体部へと曲線文が垂下しており、20・29では口縁部と体部を区画する一条の横位沈線が、21・22では段を有している。26では波頂部直下に孔を有している。

B.（第50図32～34、写真図版13-59～61）

鰭状突起を有するもの。32は平縁深鉢の口縁部片である。口縁部は外反し、口唇部から垂下する鰭状突起を有している。文様は、沈線・隆線・充填縄文により曲線文が意匠される。34は波状口縁をなす口縁部片である。口縁部は外傾し波頂部直下に鰭状突起を有している。33は深鉢の体部片である。文様の接点に鰭状突起を有している。

C.（第50図35～42、写真図版14-62～69）

口縁部に刺突文あるいは列点文を有する深鉢口縁部資料。35・37・39～41が波状口縁、他は平縁をなす。口縁部は37～39・42が外傾、35・36・40・41が外反している。35・37・39は波頂部直下に刺突文を有するものである。波頂部は肥厚し、35・37では弧状の沈線によって刺突文が区画されている。36・38・40～42は列点文を有するものである。40～42は口縁部に沈線によって区画された列点文を、38は口縁に平行する二条の列点文を、36は口縁は無文で頸部から体部にかけて沈線によって区画された列点文を有している。

D.（第50図43・44、第56図127、写真図版14-70・71、17-154）

隆線と充填縄文により文様を意匠するもの。43は深鉢の口縁部資料、44は体部資料である。43は口縁は波状口縁をなし口縁部は外反する。127は深鉢の体部から底部にかけてのものである。二対の穿孔のほどこされた突起を有している。

第II群

本群は縄文時代後期初頭から前葉に属すると思われるものである。出土点数は最も多く、本発掘の

主体をなしている。出土層位は、2・3・4層から出土しているが、圧倒的に3層からの出土が多い。文様は隆線・沈線・刺突・貼付文などの組み合わせによって複雑化している。形式的には、門前式あるいはその前後の土器を中心としている。

1類（第50図45・46、写真図版14-72・73）

口縁部に鍔状の突起を有し、体部には地文のみが施文されるもの。いずれも深鉢の口縁部資料で、45は平縁、46は波状口縁をなす。口縁部は45が外傾、46が内湾している。

2類

隆線によって文様を意匠するものである。

A.（第50図47～第51図52、写真図版14-74・76～79・81）

隆線と充填縄文、あるいは隆線・沈線・充填縄文によって文様を意匠するもの。51・52は波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁部は、51では外傾、52では波状部にひねりのある把手と孔を有している。47～49は平縁をなすものである。口縁部は47では外反、48では外傾、49では内湾している。47では口縁に二個一対の突起を有している。47・48では隆線の内側に部分的に沈線による縁取りがなされている。50は中空の突起である。突起の頂部はねじれ、隆線による渦巻状の模様を有している。

B.（第51図55～58、写真図版14－82～85）

隆線と隆線に平行する列点文を有するもの。54は平縁深鉢、56は波状口縁をなす深鉢の口縁部片、53は深鉢の口縁部突起、55は注口土器の注口部である。54は内湾し口頸部に隆線と列点文を有し、体部には浅い沈線によって文様が意匠される。56は頸部で締まり外反するもので、波頂部直下に径8㎜程の孔を有し、孔の回りに隆線と列点文による「の」の字状の文様が巡る。53・55も、56同様孔を有している。

C.（第51図59・60、写真図版14－86～15-87）

刻みを有する隆線をもつものである。ともに波状口縁をなし内湾している。口縁部は無文で、体部には地文が施文され刻みを有する隆線によって区画されている。60では波頂部より頸部へ隆線が垂下している。

D.（第51図61～第52図72、第56図129・130、写真図版15-88～99、17-156、18-157）

C類同様隆線に刻みを有するが、刻みが2～3個程度のもの。61～72は深鉢の口縁部片である。61・63・64・71は口縁が波状口縁をなすもので、他は平縁である。61・66・69・70・71は二重口縁をなす。71は中空の突起を有するものである。隆線で区画された文様内に刺突文を有している。

129・130は深鉢の口縁部から体部下半にかけてのものである。129は、口縁は波状口縁をなし、口縁部は外傾する。文様は、口縁部は無文で、頸部から体部にかけて沈線が垂下し、部分的に沈線上に刻みを施した隆線が貼付されている。体部中央部には横位の隆線が巡り、体部上半と下半を区画している。130は平縁をなすもので、口縁部は外反する。文様は、口縁部は無文で頸部から体部にかけて隆線が垂下し、区画文を意匠している。体部中央部には129同様に横位の隆線が巡っている。

3類

ボタン状貼付文、連鎖状浮線文を有するものである。

A.（第52図73〜76、写真図版15－100〜105）

ボタン状貼付文と隆線あるいは沈線を有するもの。71〜73は深鉢の口縁部片である。71・72は平縁をなし73は突起を有する。71は沈線、72は隆線、73は隆線と沈線により文様が意匠される。74は中空突起である。ボタン状貼付文と孔を有している。75・76は深鉢の体部片である。75は隆線により縦位の波状の文様が描かれている。

B.（第52図77〜第53図81、写真図版15-106〜110）

ボタン状貼付文あるいは刺突文が、隆線や沈線によって連結するもの。78は深鉢の口縁部片である。口縁は外反し二重口縁をなしている。ボタン状貼付文は二条の隆線によって連結する。80・81は同一個体と思われるものである。81は口縁部突起、80は突起から体部にかけてのもので、突起下には注口を有している。文様は、突起には沈線によって連結した三個の刺突文と、周囲に円形に巡る沈線によって縁取りされた孔を有している。口縁部は二重口縁をなし、体部には隆線が垂下し文様を意匠する。77は深鉢の体部片である。二条の沈線によりボタン状貼付文が連結している。79は注口土器の注口部である。注口部には、ひねりの入った中空の突起を有し、ボタン状貼付文は隆線によって連結している。

C.（第53図82〜85、写真図版16-111〜115）

ボタン状貼付文あるいは刺突文と、「の」の字状の文様を有するもの。82・83は深鉢の口縁部片で、82は波状口縁、83は平縁をなす。口縁は82では内湾、83では外傾する。ともに口唇部に一条の沈線を有している。84・85は深鉢の口縁部突起である。84は中空突起、85は孔を有している。

D.（第53図86〜95、第56図131、写真図版14－75・80、16-116〜123）

連鎖状浮線文を有するもの。89〜93・95は深鉢の口縁部片である。90・91・93・95は二重口縁をなし、口縁は内湾し、89・92は外傾している。86は中空の突起である。ひねりが見られ、両面に孔を有している。131は口縁部から底部にかけてのものである。断面は、頸部で締まり、口縁は外反している。口縁部は無文で四個の山形突起を有し、体部上半には隆線により区画文が意匠されている。

E.（第53図96・97、写真図版16－124・126）

連鎖状浮線文と列点文を有するもの。97は深鉢の口縁部片である。口縁は波状口縁をなし、頸部で締まり外反している。列点文は波頂部から斜めに頸部に下がり、頸部において連鎖状浮線文と連結している。96は深鉢の口縁部から体部にかけてのものである。口縁部に縦位に列点文が施文され、頸部には横位の連鎖状浮線文が巡り、口縁部と体部とを区画している。

F.（第54図98〜101、写真図版16-125、127〜129）

ボタン状貼付文と、刻みの施された隆線を有するもの。98は深鉢の口縁部片で二重口縁をなすものである。口縁は内湾し中空突起を有している。99は口縁に小突起を有するものである。小突起にはボタン状貼付文を有し、ボタン状貼付文から刻みを有する隆線が垂下し、隆線間には渦巻き文が意匠される。100は波状口縁、101は平縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁はともに外傾している。

G.（第54図102〜第55図116、写真図版16-130〜17-143）

ボタン状貼付文と連鎖状浮線文を有するもの。102〜106・110・111・114・116は二重口縁をなす深鉢の口縁部片である。102・104・106・111・116は波状口縁、103は中空突起を有し、ともに内湾している。108は平縁をなす深鉢の口縁部片で、口縁は外反する。114は深鉢の口縁から体部下半にかけてのものである。口縁は二重口縁をなし、口縁部は内湾している。口唇部には孔を有する山形突起と、孔の無い山形突起が交互に繰り返されている。文様は、口縁部は、孔を有する山形突起下には、沈線によって縁取りされた隆線が頸部へと垂下しているが、他は無文で、頸部の段によって体部文様帯と区画されている。体部上半には連鎖状浮線文と隆線によって区画文が描かれ、下半には地文のみ施文されている。

4類（第55図117〜119、写真図版17-144〜146）

区画された部分に刺突を有するもの、あるいは巾の広い刺突文帯を有するもの。117・119は隆線による区画文の内側に刺突文を有するものである。117は、波状口縁をなす深鉢の口縁部片である。口縁は内湾し、頸部で段を有し口縁部と体部が区画される。口縁部は無文で、波頂部直下のみに孔と波頂部から垂下する内側に刺突の施された隆線を有し、隆線は頸部においてボタン状貼付文と連結している。体部上半には隆線による区画文が描かれ、区画文内には刺突が施されるが、体部下半は地文のみである。119は深鉢の体部片である。区画文内に刺突が施されるが、一部隆線上にも刺突が施されている。118は体部上半に刺突文帯を有するものである。口縁は波状口縁をなし内湾している。文様は、口縁部は無文であるが、波頂部直下のみに波頂部から垂下する刺突の施された一条の隆線を有し、波頂部の口唇部のみに2個の刺突文と刺突文間に沈線が施文されている。

5類（第55図120〜123、第56図128、写真図版17-147〜150）

沈線によって文様を意匠するもの。120・121は口縁に突起を有する深鉢の口縁部片である。口縁はともに内湾する。120は二重口縁をなし、突起にはひねりが見られ、隆線による渦巻き文が貼付される。貼付文の下側には盲孔を有し、盲孔より体部に沈線が垂下している。121は中空の突起で、突起の下面より沈線が体部に垂下している。122は波状口縁をなす深鉢の口縁部から体部にかけてのものである。口縁は内湾する。文様は、波状部直下に刺突文を有し、刺突文より体部に沈線が垂下し、区画文を意匠している。胎土には、非常に多くの金雲母を含んでいる。123は深鉢の体部片である。沈線による渦巻き文を有している。128は、波状口縁をなす深鉢の、口縁部から体部にかけてのものである。口縁部は外傾する。文様は、波状部直下に「の」の字状の文様をもち、口縁部には横位の刺突文列が施文される。体部には、「の」の字状の文様から垂下する縦位の刺突文列と、沈線による区画文が描かれる。

第Ⅲ群（第55図123〜125、写真図版17-149・151・152）

縄文時代後期中葉に属すると思われるもの。出土点数は少ない。124は深鉢の体部片である。沈線と充填縄文により文様が意匠される。125は壺の口縁部から体部上半にかけてのものである。横位の隆線と沈線により、口縁部と体部が区画されている。

第Ⅳ群（第55図126、第56図132、第57図135〜146、写真図版17-153、18-159・162〜173）

粗製の土器を一括した。126・146は、横位の隆線によって口縁部無文帯と体部地文部が区画される

ものである。口縁部は、126は外傾し、146は内湾している。126は口縁に山形の突起を有している。135～145は平縁深鉢の口縁部片である。135～137・139・145は口縁が外反、140・142・143は内湾、138・141・144は外傾する。文様は、ほとんどが口縁部は無文で、体部に地文が施されているが、138・140は口唇部直下まで地文が施文されている。159は、ほぼ完形の小形の深鉢である。口縁は平縁をなし、頸部で段を有し、口縁部で外反している。文様は、口縁部は無文で、体部には地文が施文される。

第Ⅴ群（第56図133・134、写真図版18－160・161）

ミニチュア土器である。出土点数は少ない。133は、体部上半で最大巾を図る深鉢形のものである。口縁は平縁をなし、櫛目による文様が口唇部直下から底部直上まで施文されている。134は鉢形のものである。口縁は平縁をなし、内反している。文様は無文である。胎土中に粗砂を多量に含む。

2、土製品（第57図147～第58図196、写真図版18－174～184、第34表）

出土した土製品は、斧状土製品2点、器種不明のもの6点、耳飾り2点、垂飾品1点、土製円盤143点である。

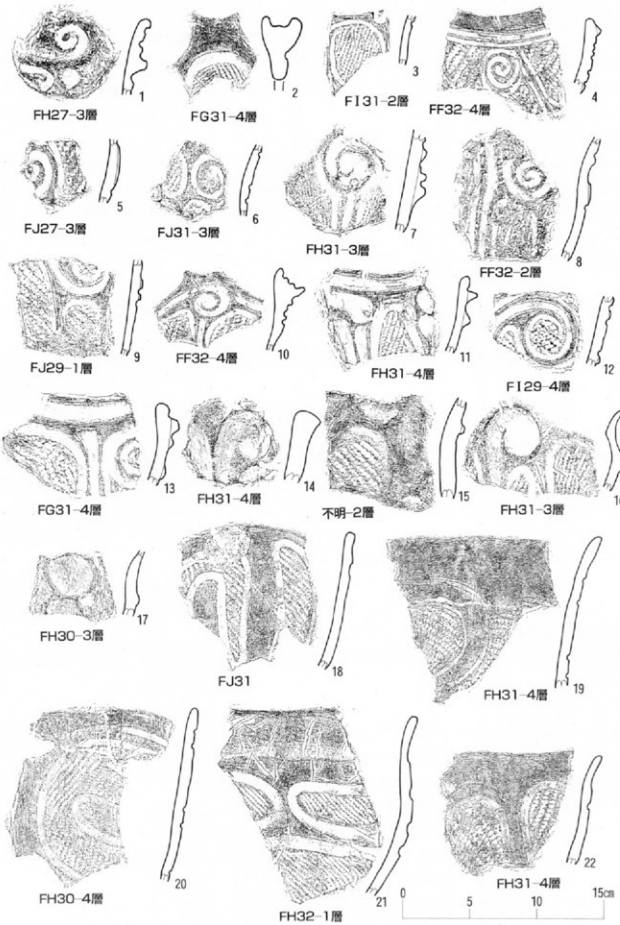
147・148は斧状土製品である。ともに表裏に縄文が施文してあり、148では側面に両面穿孔による孔を有している。

149～154は器種不明のものである。149・152は、形状が円錐状をなすものである。149は、径3㎜程の竹管による波状の刺突文列を有し、波底部には径5㎜程の刺突文を有している。152は、一条の横位沈線を有している。150は楕円形を呈するものである。片面にのみ径6㎜程の盲孔を有する。151は棒状のものである。土偶の一部である可能性がある。153は土版状のものである。欠損品ではあるが円形を呈すると思われ、最大巾17㎝・厚さ3.5㎝を測る。片面の一部にアスファルトが付着する。154は、沈線・刺突文によって文様を意匠するもので、表裏にかけて貫通する孔を1個、頂部から底部に向かって2㎝程入り込む、貫通しない孔を有している。

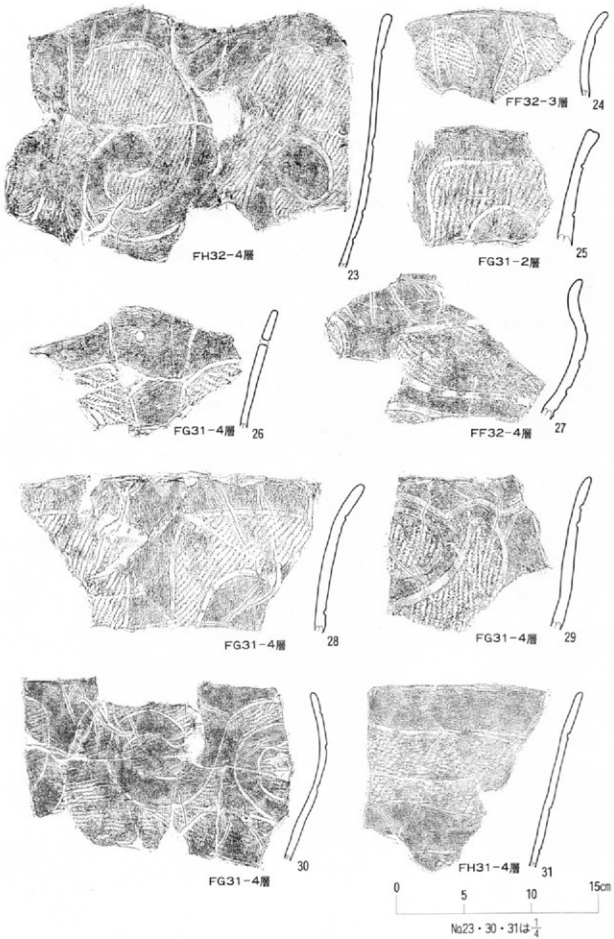
155・156は耳飾りである。155は表裏ともに周縁に沿って巡る刺突文列と、十字状の刺突文列を有している。156は片面のみに楕円形の盲孔を2個有しており、盲孔にはアスファルトが充填されている。157は垂飾品である。勾玉状を呈しており、孔を有している。

土製円盤は143点出土した。側縁の調整及び形状によって細分が可能である。土製円盤の細分は以下の通りである。

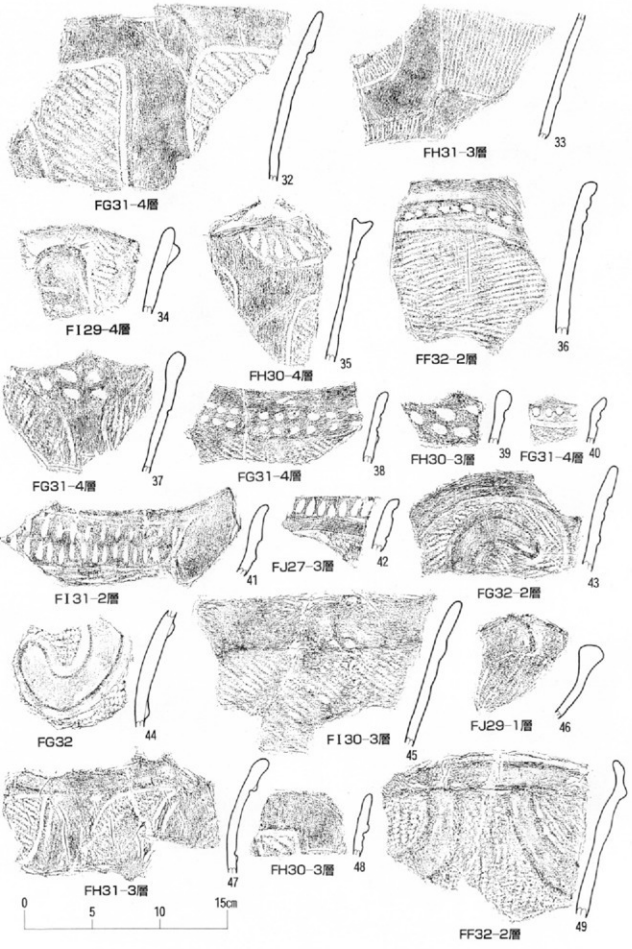
1類　打ち欠きのみによって整形しているもの。
　A　形状が円形を呈するもの。22点（第58図160～164）
　B　形状が楕円形を呈するもの。9点（第58図165・166）
2類　打ち欠き後、周縁の一部を磨いているもの。
　A　形状が円形を呈するもの。25点（第58図167～171）
　B　形状が楕円形を呈するもの。6点（第58図172～175）
3類　側縁の全周を磨いているもの。
　A　形状が円形を呈するもの。60点（第58図176～188）
　B　形状が楕円形を呈するもの。15点（第58図189～194）
　C　六角形を呈するもの。2点（第58図195・196）



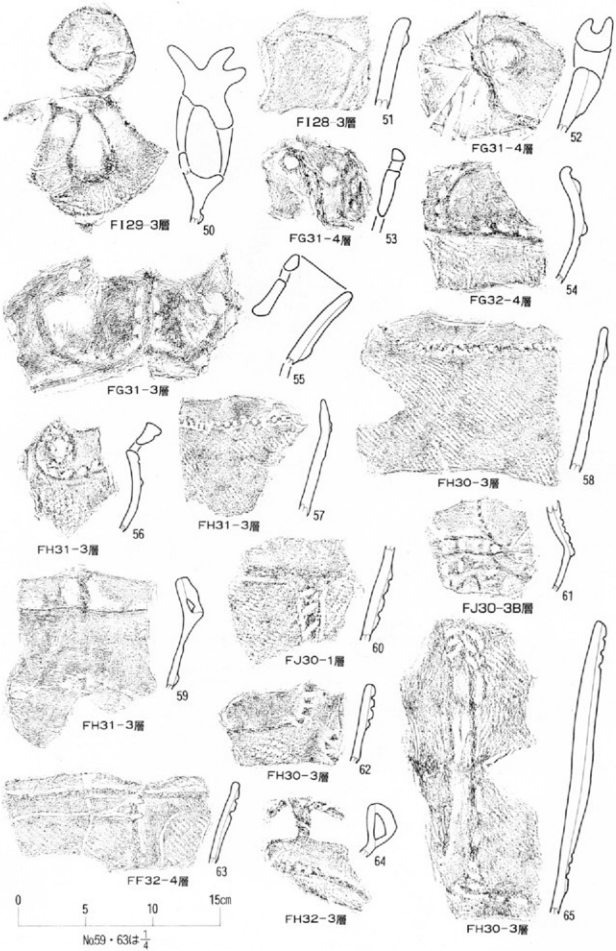
第48図　遺構外出土土器



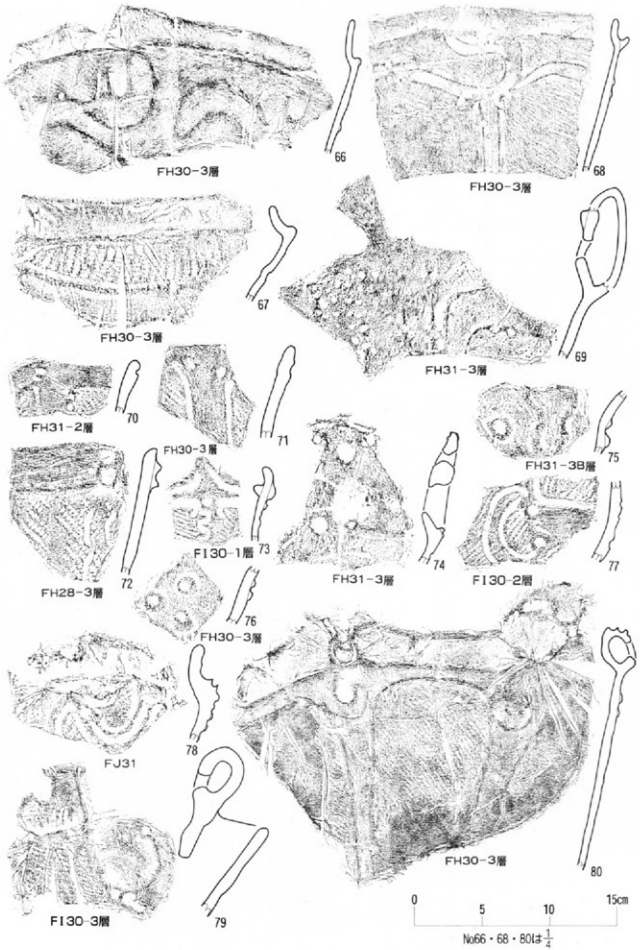
第49図　遺構外出土土器



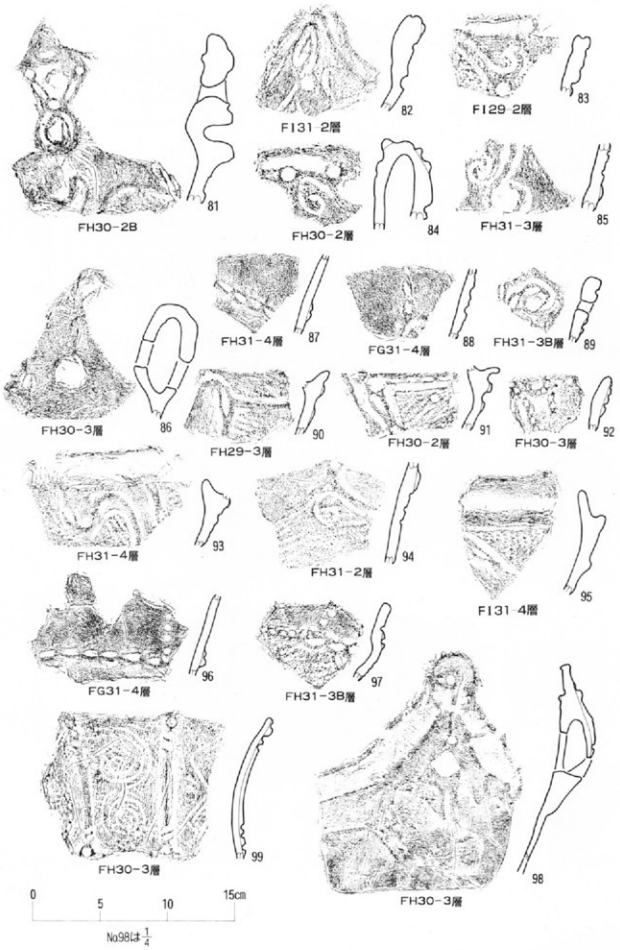
第50図　遺構外出土土器



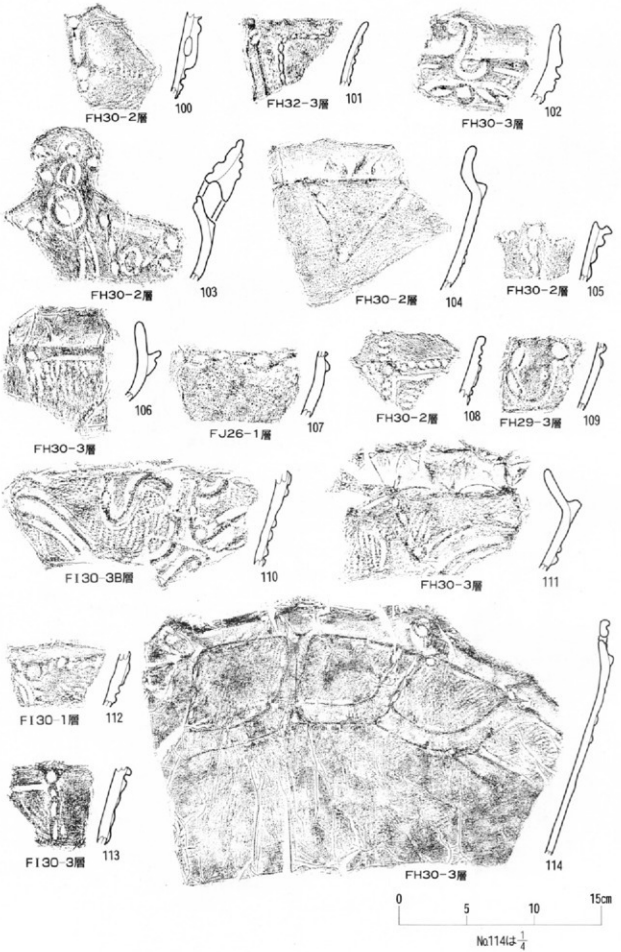
第51図　遺構外出土土器



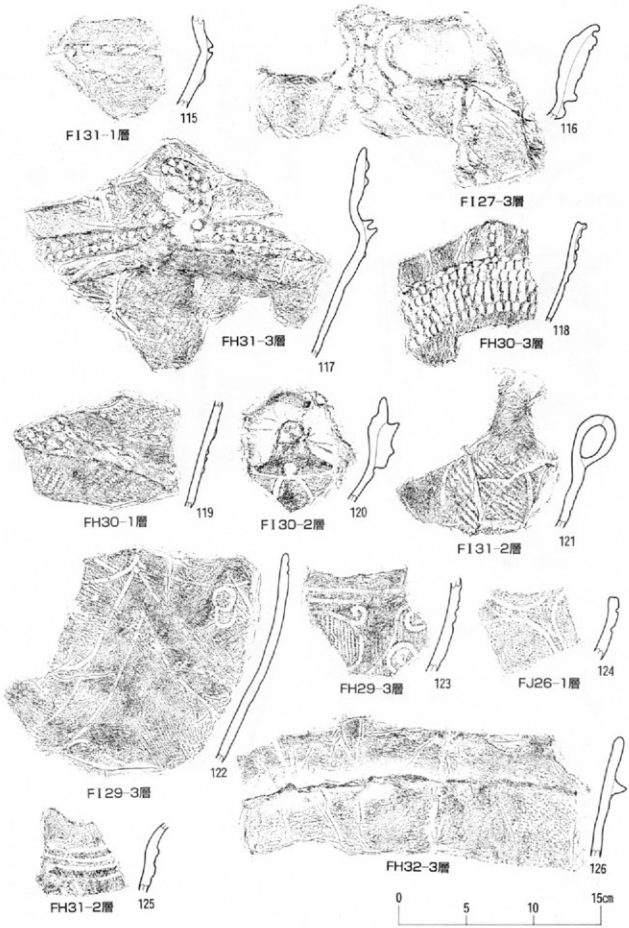
第52図　遺構外出土土器



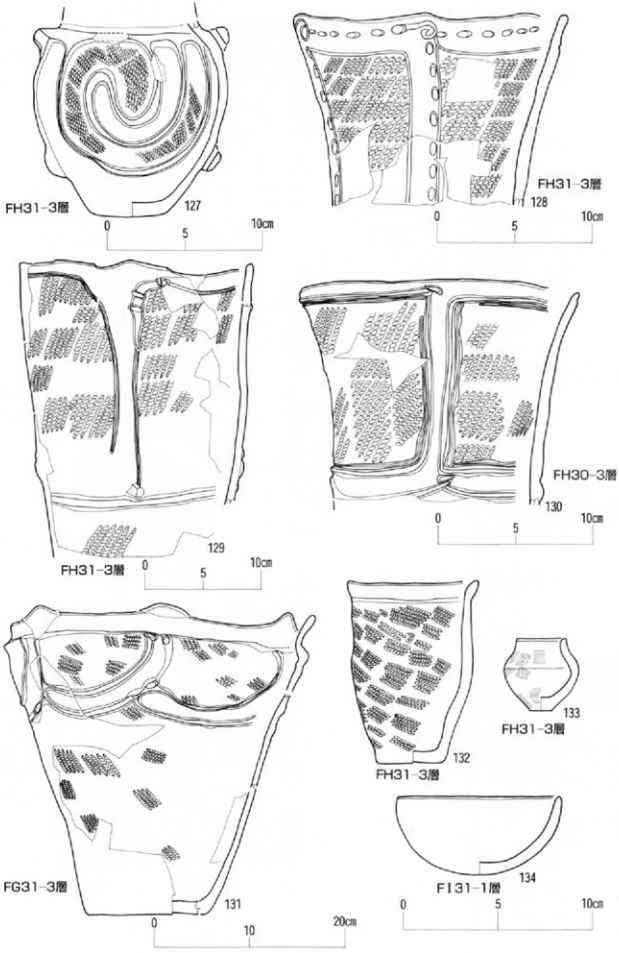
第53図　遺構外出土土器



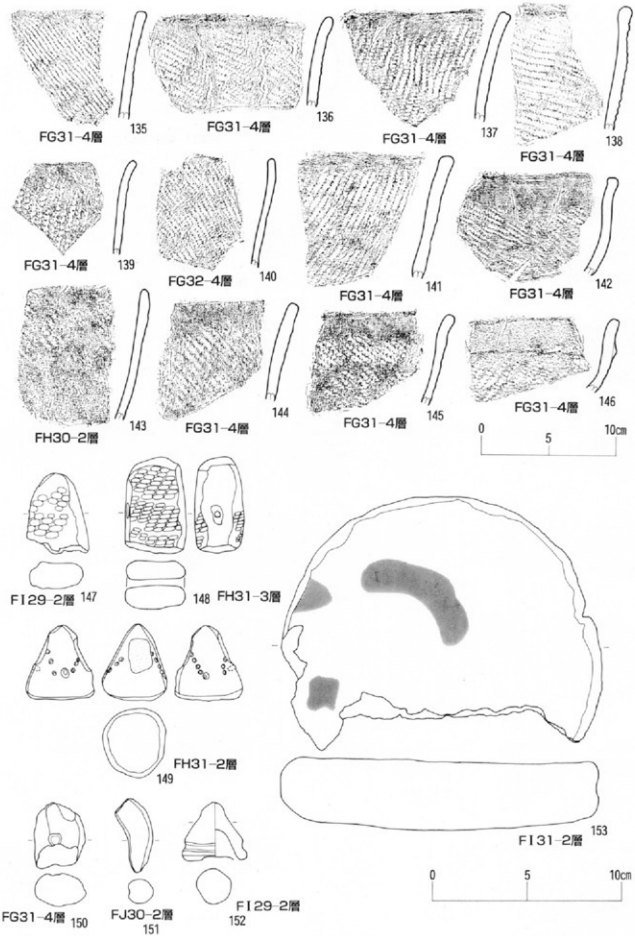
第54図　遺構外出土土器



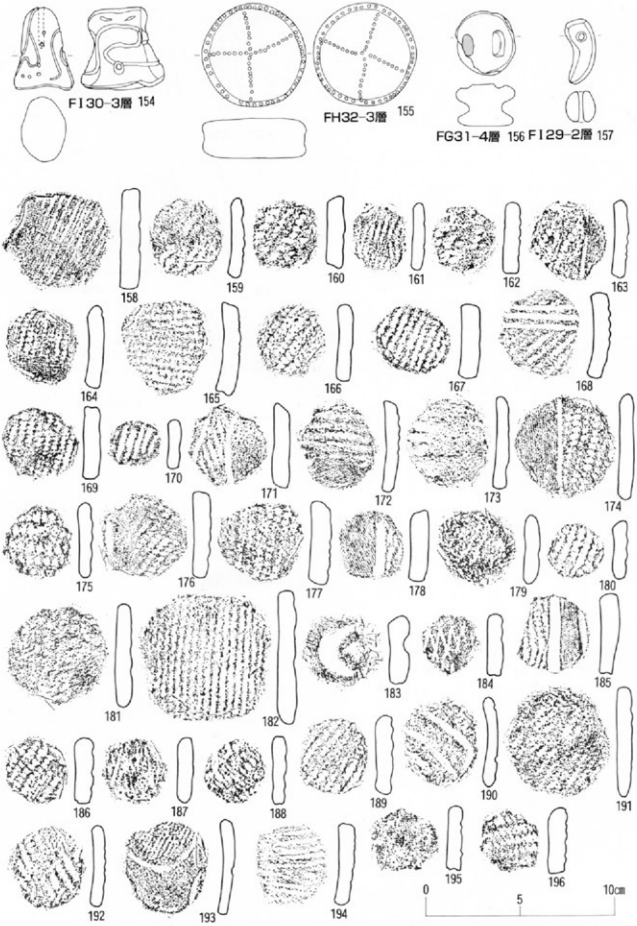
第55図　遺構外出土土器



第56図　遺構外出土土器



第57図　遺構外出土土器・土製品



第58図　遺構外出土土製品

第34表　出土土製品一覧表

図版	地点・層	器種	分類	高さ	幅	厚さ	重さ	備考	登録番号
第57図147、写真図版18-180	FI29-2	斧状土製品		4.2	3.3	1.6	19.9		65
第57図148、写真図版18-181	FH31-3	斧状土製品		4.9	3.3	2.5	47.6	側面に穿孔有り	64
第57図149、写真図版18-183	FH31-2	器種不明		3.86	3.66	3.4	36.2		888
第57図150	FG31-4	器種不明		3.5	2.7	1.8	15.6		68
第57図151、写真図版18-176	FJ30-2	器種不明		4.0	1.5	1.6	7.7		224
第57図152、写真図版18-182	FI29-2	器種不明		2.96	3.36	0.7	12.6		952
第57図153、写真図版18-184	FI31-2	器種不明		11.7	17.0	3.8	851.5	アスファルト付着	957
第58図154、写真図版18-178	FI30-3	器種不明		4.16	4.3	3.1	38.6	穿有り	66
第58図155、写真図版18-177	FH32-3	耳飾り		5.3	5.36	2.1	59.5		63
第58図156、写真図版18-175	FG31-4	耳飾り		3.2	3.0	2.2	20.5	孔にアスファルト充填	2
第58図157、写真図版18-174	FI29-1	垂飾品		3.3	1.3	1.44	6.3	穿有り	171
第58図158	FH30	土製円盤		5.74	5.26	1.13	43.2	円形、打ち欠き	98
第58図159	FH30-3	土製円盤		4.18	3.63	0.82	12.7	円形、打ち欠き	103
	FH31-4	土製円盤		2.73	2.86	0.62	5.5	円形、打ち欠き	121
第58図160	FI30-2	土製円盤		3.72	3.44	1.02	18.2	円形、打ち欠き	142
第58図161	FI30-3	土製円盤		3.6	3.03	0.64	8.2	円形、打ち欠き	144
	FI30-3	土製円盤		4.07	4.21	0.80	12.5	円形、打ち欠き	146
第58図162	FI30-2	土製円盤		3.65	3.38	0.82	12.5	円形、打ち欠き	149
	FG32-1	土製円盤		2.38	2.45	0.92	5.5	円形、打ち欠き	172
	FI27-1	土製円盤		2.80	2.78	0.68	5.5	円形、打ち欠き	176
	FI28-4	土製円盤		2.29	2.03	0.75	3.2	円形、打ち欠き	178
	FI28-4	土製円盤		3.04	2.84	0.75	6.0	円形、打ち欠き	181
	FI30-1	土製円盤		3.80	3.23	0.85	10.2	円形、打ち欠き	187
	FI30-1	土製円盤		4.14	3.95	0.69	13.0	円形、打ち欠き	189
第58図163	FI30-3	土製円盤		4.26	3.84	0.67	14.2	円形、打ち欠き	190
	FI30	土製円盤		2.86	2.99	0.69	8.0	円形、打ち欠き	191
	FI30-1	土製円盤		3.60	3.66	0.91	14.0	円形、打ち欠き	192
	FI31-3	土製円盤		3.64	3.78	0.92	6.0	円形、打ち欠き	195
	FH31-2	土製円盤		2.90	2.72	0.88	8.6	円形、打ち欠き	199
	FJ27-1	土製円盤		3.06	3.17	0.72	7.5	円形、打ち欠き	207
	FJ28-1	土製円盤		2.90	2.93	0.84	7.8	円形、打ち欠き	208
第58図164	FJ29-2	土製円盤		4.21	3.74	0.8	14.6	円形、打ち欠き	210
	GA30-2	土製円盤		2.87	2.52	0.64	5.2	円形、打ち欠き	229
第58図165	FG31-3	土製円盤		5.0	4.82	0.91	24.2	楕円形、打ち欠き	74
	FG31-4	土製円盤		2.24	2.87	0.97	8.2	楕円形、打ち欠き	83
	FH31-3	土製円盤		2.61	2.33	0.73	5.0	楕円形、打ち欠き	114
	FH31-4	土製円盤		4.94	4.39	0.75	18.2	楕円形、打ち欠き	123
	FH31-2	土製円盤		3.56	3.12	1.26	13.0	楕円形、打ち欠き	132
第58図166	FI30-3	土製円盤		4.0	3.36	0.75	12.5	楕円形、打ち欠き	147
	FI27-3	土製円盤		4.18	3.87	0.84	13.5	楕円形、打ち欠き	177
	FI29	土製円盤		4.98	4.51	0.70	15.7	楕円形、打ち欠き	184
	GA30-2	土製円盤		3.5	3.0	0.88	10.0	楕円形、打ち欠き	228
	FG31-2	土製円盤		2.64	2.44	0.61	3.9	円形、一部磨き	72
	FG31-3	土製円盤		5.20	4.82	0.90	24.5	円形、一部磨き	73
第58図167	FG31-4	土製円盤		4.12	3.76	1.08	20.2	円形、一部磨き	78
	FG31-4	土製円盤		3.0	2.81	0.95	8.7	円形、一部磨き	81
	FG32-4	土製円盤		3.04	3.12	0.75	6.5	円形、一部磨き	89
第58図168	FG33	土製円盤		4.44	4.14	0.81	17.0	円形、一部磨き	91
	FH29-2	土製円盤		3.78	3.62	0.91	13.2	円形、一部磨き	93
	FH30-3	土製円盤		2.88	2.74	0.94	8.2	円形、一部磨き	96
	FH31-3	土製円盤		2.98	2.85	0.95	9.0	円形、一部磨き	115
	FH31-3	土製円盤		3.22	2.95	0.92	10.3	円形、一部磨き	118
	FH32-2	土製円盤		3.55	3.26	0.79	11.4	円形、一部磨き	127
	FH31-3	土製円盤		3.74	3.30	0.71	9.5	円形、一部磨き	129
	FH31-2	土製円盤		3.49	3.20	0.88	11.2	円形、一部磨き	131
	FH32-2	土製円盤		3.24	3.29	0.95	9.2	円形、一部磨き	133
	FF32-2	土製円盤		3.57	3.66	0.86	11.5	円形、一部磨き	135
	FI29-3	土製円盤		3.58	3.40	0.76	12.0	円形、一部磨き	137
	FI29-3	土製円盤		4.12	3.76	0.76	11.7	円形、一部磨き	141
	FI30-3	土製円盤		2.68	2.48	0.72	5.7	円形、一部磨き	143
	FJ30	土製円盤		2.60	2.58	0.80	5.5	円形、一部磨き	164
第58図169	FH30-5	土製円盤		4.06	3.93	0.88	16.5	円形、一部磨き	173
	FI28-4	土製円盤		3.98	3.86	1.0	17.0	円形、一部磨き	180
第58図170	FI29-5	土製円盤		2.65	2.45	0.62	5.2	円形、一部磨き	182
	FI30-2	土製円盤		2.64	2.88	0.86	8.3	円形、一部磨き	201
	FI31-1	土製円盤		3.02	2.69	0.72	6.2	円形、一部磨き	203
第58図171	FI31-3	土製円盤		4.34	4.26	0.91	19.2	円形、一部磨き	206
第58図172	FG31-4	土製円盤		4.68	4.36	0.7	15.3	楕円形、一部磨き	76
	FH29-2	土製円盤		3.84	3.17	0.89	11.0	楕円形、一部磨き	94
第58図173	FH30-3	土製円盤		4.72	4.68	0.81	17.0	楕円形、一部磨き	104
	FH30-3	土製円盤		3.14	2.63	0.79	7.4	楕円形、一部磨き	109
第58図174	FH31-3	土製円盤		5.46	5.18	0.78	26.0	楕円形、一部磨き	116
第58図175	FJ30-3	土製円盤		3.9	3.48	0.64	10.0	楕円形、一部磨き	168

	FI31-2	土製円盤		3.30	(3.12)	0.77	(8.6)	不明、一部磨き	204
	FF32-4	土製円盤		3.10	2.86	0.98	10.5	円形、全周磨き	70
	FF32-4	土製円盤		4.10	3.72	0.91	15.0	円形、全周磨き	71
	FG31-4	土製円盤		3.54	3.24	1.0	14.5	円形、全周磨き	75
第58図176	FG31-4	土製円盤		4.57	4.34	1.06	22.5	円形、全周磨き	77
	FG31-4	土製円盤		3.02	2.77	0.87	8.2	円形、全周磨き	79
第58図177	FG31-4	土製円盤		4.44	4.43	1.1	26.1	円形、全周磨き	80
	FG31-4	土製円盤		2.58	2.54	0.75	5.8	円形、全周磨き	82
第58図178	FG31-4	土製円盤		3.86	3.58	0.97	17.2	円形、全周磨き	85
	FG31-4	土製円盤		3.60	3.78	0.96	14.7	円形、全周磨き	86
	FG32-4	土製円盤		2.8	2.51	0.8	6.0	円形、全周磨き	90
	FG32-2	土製円盤		2.84	2.8	0.95	8.8	円形、全周磨き	94
	FI29-2	土製円盤		3.37	3.30	0.77	8.4	円形、全周磨き	95
	FH30-3	土製円盤		4.44	4.14	0.78	16.0	円形、全周磨き	97
	FH30-3	土製円盤		3.72	3.95	0.83	13.0	円形、全周磨き	99
	FH30-3	土製円盤		3.22	3.04	0.94	8.8	円形、全周磨き	101
	FH30-3	土製円盤		2.54	2.40	0.79	5.2	円形、全周磨き	102
	FH30-2	土製円盤		3.98	3.81	0.74	12.7	円形、全周磨き	106
	FH31-3	土製円盤		2.55	2.50	0.97	6.5	円形、全周磨き	108
第58図179	FH31-2	土製円盤		3.94	3.72	0.81	12.2	円形、全周磨き	111
	FH31-2	土製円盤		3.07	2.94	0.99	9.2	円形、全周磨き	112
	FH31-3	土製円盤		4.71	4.38	0.98	23.5	円形、全周磨き	117
	FH31-3	土製円盤		3.81	3.92	1.02	18.0	円形、全周磨き	119
	FH31-4	土製円盤		2.79	2.55	0.77	6.2	円形、全周磨き	122
	FH32-1	土製円盤		3.32	3.29	0.98	12.0	円形、全周磨き	124
第58図180	FH32-2	土製円盤		3.02	2.92	0.73	7.7	円形、全周磨き	126
	FH32-3	土製円盤		3.22	3.16	0.65	8.0	円形、全周磨き	128
	FH31-3	土製円盤		3.35	3.30	0.76	8.2	円形、全周磨き	130
	FF32-2	土製円盤		3.24	3.15	0.82	7.5	円形、全周磨き	134
第58図181	FI29-1	土製円盤		5.42	5.18	0.79	26.5	円形、全周磨き	138
	FI30-3	土製円盤		2.76	2.75	0.66	5.2	円形、全周磨き	139
	FI30-3	土製円盤		3.40	3.34	0.63	8.0	円形、全周磨き	140
	FI30-4	土製円盤		3.51	3.23	0.73	9.7	円形、全周磨き	145
	FI30-3	土製円盤		2.80	2.70	1.03	8.5	円形、全周磨き	148
	FI31-1	土製円盤		2.72	2.71	0.72	6.0	円形、全周磨き	151
第58図182	FI31-1	土製円盤		6.8	6.72	0.92	56.5	円形、全周磨き	150
	FI31-4	土製円盤		3.07	3.15	0.86	8.5	円形、全周磨き	154
	FH31-3	土製円盤		3.90	(3.42)	0.79	(12.5)	円形、全周磨き	155
	FH30-3	土製円盤		3.07	3.03	0.79	8.2	円形、全周磨き	157
第58図183	FH31-3	土製円盤		3.32	3.07	1.0	12.2	円形、全周磨き	159
	FI29-4	土製円盤		2.91	2.95	0.51	4.0	円形、全周磨き	162
第58図184	FJ30-2	土製円盤		3.23	3.02	0.82	10.0	円形、全周磨き	163
	FJ30-3	土製円盤		3.46	3.53	0.95	14.5	円形、全周磨き	165
	FJ30	土製円盤		2.85	2.91	0.69	6.5	円形、全周磨き	166
	FJ30	土製円盤		3.28	2.97	0.75	7.5	円形、全周磨き	167
第58図185	FJ30	土製円盤		4.27	3.86	0.88	(19.5)	円形、全周磨き	169
	不明	土製円盤		3.15	2.82	0.90	9.5	円形、全周磨き	170
	FH31-3	土製円盤		2.94	2.68	0.78	7.0	円形、全周磨き	174
	FH31-3	土製円盤		2.34	2.12	0.68	3.7	円形、全周磨き	175
	FI28-4	土製円盤		2.03	1.94	0.7	2.8	円形、全周磨き	179
	FI29-5	土製円盤		3.55	3.33	0.93	12.8	円形、全周磨き	183
第58図186	FI29-4	土製円盤		3.55	3.35	0.85	11.9	円形、全周磨き	185
第58図187	FI29-4	土製円盤		3.66	3.32	0.76	8.5	円形、全周磨き	186
	FI30-1	土製円盤		3.96	3.78	0.73	11.5	円形、全周磨き	188
	FI30-5	土製円盤		3.4	3.30	0.72	13.0	円形、全周磨き	194
	FJ24	土製円盤		3.45	3.12	0.88	(10.5)	円形、全周磨き	196
	FJ30	土製円盤		3.33	3.14	1.29	16.0	円形、全周磨き	197
第58図188	FH30-1	土製円盤		3.28	3.16	0.76	9.5	円形、全周磨き	198
	FI31-2	土製円盤		2.86	2.69	0.72	5.3	円形、全周磨き	205
	FJ29-2	土製円盤		2.84	2.73	0.81	7.6	円形、全周磨き	209
	FJ30-2	土製円盤		4.52	4.32	1.14	21.6	円形、全周磨き	227
第58図189	FG31-4	土製円盤		4.18	3.79	0.93	18.5	楕円形、全周磨き	87
	FG32-1	土製円盤		4.32	3.16	0.74	10.0	楕円形、全周磨き	88
	FH30-3	土製円盤		3.83	3.52	0.78	12.0	楕円形、全周磨き	105
第58図190	FH30-2	土製円盤		4.63	4.18	0.63	12.0	楕円形、全周磨き	107
	FH30	土製円盤		2.65	2.26	0.84	5.0	楕円形、全周磨き	110
	FH31-3	土製円盤		4.21	3.57	0.89	17.8	楕円形、全周磨き	113
	FF32-2	土製円盤		2.53	2.16	0.85	5.2	楕円形、全周磨き	136
第58図191	FI31-2	土製円盤		5.81	5.28	0.84	29.5	楕円形、全周磨き	152
第58図192	FI31-2	土製円盤		4.32	3.86	0.67	13.0	楕円形、全周磨き	153
	3	土製円盤		5.46	5.10	0.94	26.0	楕円形、全周磨き	156
第58図193	FG31-4	土製円盤		5.02	4.66	0.56	16.0	楕円形、全周磨き	158
	FI30-3	土製円盤		3.44	2.90	0.88	10.0	楕円形、全周磨き	160
	FJ29-4	土製円盤		2.42	2.14	0.7	4.0	楕円形、全周磨き	161
	FI31-2	土製円盤		3.84	3.56	0.79	11.6	楕円形、全周磨き	200
第58図194	FI30-2	土製円盤		4.68	3.94	0.8	18.3	楕円形、全周磨き	202
第58図195	FH30-3	土製円盤		3.66	3.44	0.87	11.9	六角形、全周磨き	958
第58図196	FG31-4	土製円盤		3.45	3.40	1.02	13.1	六角形、全周磨き	84
	FF32-2	土製円盤		4.85	(3.13)	0.90	14.0	不明、全周磨き	69
	FH32-1	土製円盤		3.61	(2.65)	0.99	(10.7)	不明、全周磨き	125
	FI30-5	土製円盤		2.54	(2.35)	0.68	(3.7)	不明、全周磨き	193

3、石器（第59図・60図、写真図版19～22、第35表）

出土した石器は、石鏃167点・尖頭器13点・石錐９点・石匙３点・不定形石器95点・打製石斧１点・磨製石斧５点・石斧未製品１点・石皿１点・敲石２点・石製円盤５点・礫石器１点・凹石５点・石棒４点・石剣１点・石製品１点の、総計314点である。以下、器種ごとに説明を行う。

（１）石鏃（第59図167～232、写真図版19-185～20-348・351）

石鏃は未製品を含めて167点出土した。石質は、チャート100点(58.88%)・珪質頁岩32点(19.16%)・黒曜石22点(13.17%)・流紋岩７点(4.19%)で、他に蛋白石・頁岩等があるが、いずれも出土は１点である。茎部の有無、基部の形状、側縁の形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群（第59図197～202、写真図版19-185～194）

有茎の石鏃である。10点が出土したが、無茎の石鏃に比べると数は少ない。

第１類（第59図197、写真図版19-185）

基部が平基をなすもの。１点出土した。身部は二等辺三角形をなし、側縁が外弧をなす。

第２類（第59図198、写真図版19-186・188）

基部が凹基をなすもの。２点出土した。１点は欠損のため側縁形状は不明であるが、他は直線的である。

第３類（第59図199～201、写真図版19-187・189～193）

基部が尖基をなすもの。５点出土した。身部は二等辺三角形状で、側縁は、外弧をなすもの(200)・直線的なもの(201)・基部付近で膨らむもの(写真193)がある。

第４類（第59図202、写真図版19-194）

基部が円基をなすもの。１点出土した。身部は二等辺三角形状をなし、身部は直線的である。

第Ⅱ群（第59図203～231、写真図版19-195～20-327）

無茎の石鏃である。135点出土した。３層より最も多く出土している。

第１類（第59図203～208、写真図版19-205～19-223）

基部が平基をなすもの。

Ａ、（第59図203、写真図版19-205・206）

身部が正三角形状のもの。２点出土した。側縁は外弧をなす。

Ｂ、（第59図204～208、写真図版19-207～19-223）

身部が二等辺三角形状のもの。17点出土した。側縁は、外弧をなすもの（204・205、写真208～215）と、直線的なもの（206～208、写真216～223）がある。

第２類（第59図209～225、写真図版19-224～20-315）

基部が凹基のもの。

Ａ、（第59図209、写真図版19-231）

身部が正三角形状のもの。1点出土した。側縁は、外弧をなす。

B、(第59図210～225、写真図版19-232～315)

身部が二等辺三角形状のもの。85点出土した。側縁は、外弧をなすもの(211～214、写真251～271)、直線的なもの(215～218、写真272～299)、内弧のもの(219～223、写真300～311)、基部付近が膨らむもの(写真312・313)、身部中央付近で最大巾を測るもの(224・225、写真314・315)がある。

第3類(第59図226・227、写真図版20-316・317)

基部が尖基をなすもの。2点出土した。身部は二等辺三角形状で、側縁は外弧をなす。

第4類(第59図228～231、写真図版20-318～327)

基部が円基をなすもの。10点出土した。身部は二等辺三角形状を呈し、側縁は、外弧をなすもの(228、写真320～323)、直線的なもの(229・230、写真324～326)、内弧をなすもの(232、写真328)がある。

第Ⅲ群(第59図232、写真図版20-328)

柳葉型の石鏃である。1点出土した。先端部と基部は欠損する。

第Ⅳ群(写真図版20-329～354)

欠損により形状の不明のもの(A)、未製品(B)を一括した。

(2)尖頭器(第59図233～237、写真図版20-349～353・355～362)

尖頭器は13点出土した。基部の形状は、平基をなすもの(Ⅰ)、尖基をなすもの(Ⅱ)、円基をなすもの(Ⅲ)がある。身部の形状は、234が正三角形状をなし(1)、他は二等辺三角形状(2)である。側縁は、外弧をなすもの(A)が多く見られ、他に直線的なもの(B)、内弧をえがくもの(C)がある。

(3)石錐(第59図238～241、写真図版20-363～371)

石錐は9点出土した。頭部と身部が明瞭に区分されるもの(1)、頭部をもたないもの(2)、頭部と身部の境界が不明瞭なもの(3)に細分が可能である。

(4)石匙(第59図242～244、写真図版20-372～374)

石匙は3点出土した。すべて縦長のもので、242は柄を欠損する。242は両刃の刃を2辺にもち、243・244は片刃の刃を1辺にもっている。

(5)**不定形石器**（第59図245～60-255、写真図版20-375～21-466）

不定形石器は95点出土し、石鏃に次いで数が多い。刃の数・形状によって細分が可能である。

第Ⅰ群（第59図245～249、写真図版20-377～437）

1辺に刃を有するもの。63点出土した。刃には、片刃のもの(1)・両刃のもの(2)が見られ、形状は、丸みを帯びるもの(A)・直線的なもの(B)・ノッチを有するもの(C)がある。

第Ⅱ群（第60図250～252、写真図版21-438～454）

2辺に刃を有するもの。19点出土した。刃には、片刃のもの(1)・両刃のもの(2)・1辺が片刃で他は両刃のもの(3)がある。刃の形状は、丸みを帯びるもの(A)・直線的なもの(B)・ノッチを有するもの(C)・1辺が丸みをおび他は直線的なもの(D)・1辺にノッチを有し他は丸みを帯びるもの(E)がある。

第Ⅲ群（写真図版21-455）

3辺に刃を有するものである。1点出土した。直線的な両刃の刃を有している。

第Ⅳ群（第50図253、写真図版21-456～460）

両極剥離によるもの。

第Ⅴ群（第50図254・255、写真図版21-461～466）

マイクロフレーキングを有するも。

(6)**打製石斧・磨製石斧**（第60図256・257、写真図版21-467～22-476）

石斧は、打製石斧1点（写真467）・磨製石斧5点（第60図256・257、写真21-468～472）・磨製石斧の未製品1点（写真476）が出土した。打製石斧は、片面のみ剥離が行われている。磨製石斧は、すべて欠損品である。未製品は、側面のみ面取りが施されている。

(7)**石皿**（写真図版22-473）

1点出土した。大型の石皿の一部が残存する。風化による劣化が著しい。

(8)**敲石**（第60図258、写真図版474・475）

2点出土した。自然礫を利用したもので、先端の面に敲打痕を残すものである。

(9)**石製円盤**（第60図260・261、写真図版22-478～481）

5点出土した。扁平な礫の側面を打ち欠き、円形・楕円形に整形したものである。研磨は施されていない。

(10)**礫石器**（第60図262、写真図版22-482）

1点出土した。扁平な礫の側縁の両面を打ち欠き、刃を設けたものである。

(11)凹石（第60図263、写真図版22-483～487）

5点出土した。自然礫に凹みを有するものである。写真483～485は、表裏に1～2個の対をなす凹みがみられる。

(12)石棒（写真図版22-488～490・492）

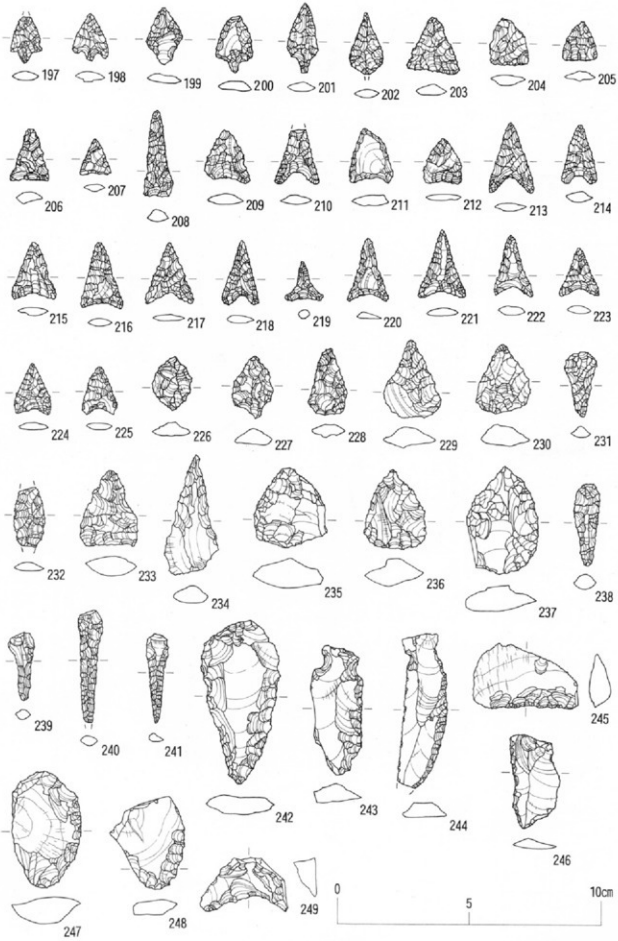
4点出土した。縦長の礫の一部に、磨きを入れたものである。

(13)石剣（第60図264、写真図版22-491）

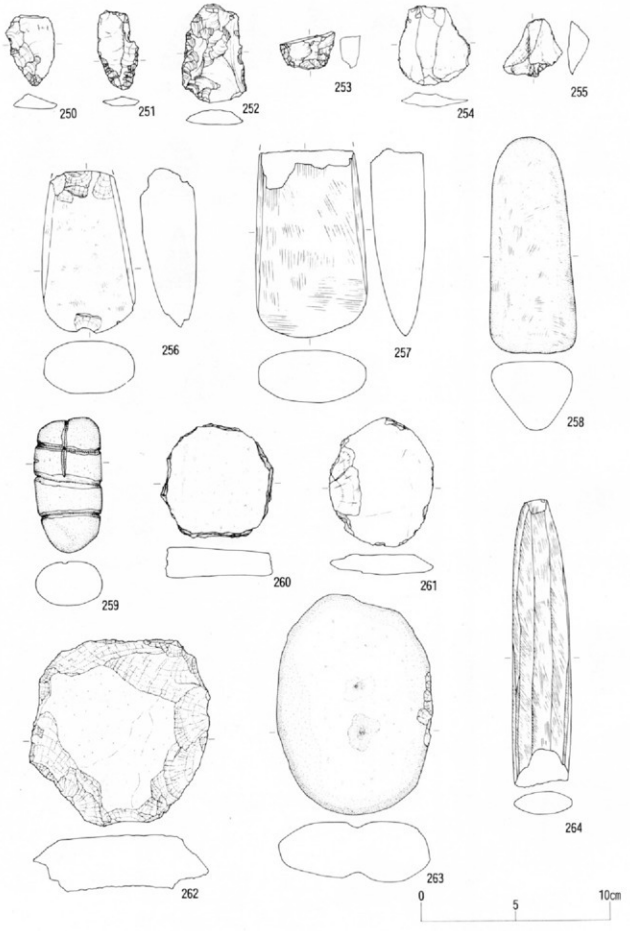
1点出土した。全体が丁寧に研磨されている。

(14)石製品（第60図259、写真図版22-477）

1点出土した。楕円形の礫に、横位の線刻3条と、縦位の線刻1条を有するものである。研磨はされていない。



第59図　遺構外出土石器



第60図　遺構外出土石器

第35表　出土石器一覧表

図版	地点・層	器種	分類	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第59図197、写真図版19-185	EG37-3	石鏃	I-1	チャート	(1.74)	1.19	0.28	0.50	9078
写真図版19-186	FH31-2	石鏃	I-2	チャート	(1.22)	1.20	0.30	0.40	9365
第59図198、写真図版19-188	FJ29-1	石鏃	I-2	チャート	1.78	1.39	0.40	0.70	9057
第59図199、写真図版19-187	FH30-4	石鏃	I-3	珪質頁岩	2.15	1.40	0.34	0.85	9225
写真図版19-189	EJ27-1	石鏃	I-3	チャート	(2.10)	1.95	0.30	1.05	9111
第59図200、写真図版19-190	FI31-4	石鏃	I-3	チャート	(2.12)	1.40	0.36	1.00	9223
写真図版19-191	FI32-1	石鏃	I-3	チャート	(2.81)	1.17	0.39	1.00	9320
第59図201、写真図版19-192	FJ30-1	石鏃	I-3	チャート	2.64	1.20	0.36	0.80	9068
写真図版19-193	FJ28-1	石鏃	I-3	チャート	1.91	1.06	0.26	0.40	9219
第59図202、写真図版19-194	FI32-2	石鏃	I-4	流紋岩	(2.40)	1.30	0.38	0.80	9075
写真図版19-195	FH31-3	石鏃	II	チャート	(1.90)	(1.50)	0.50	1.45	9107
写真図版19-196	FI30-2	石鏃	II	チャート	(2.52)	(1.28)	0.57	1.40	9224
写真図版19-197	FJ28-1	石鏃	II	チャート	(1.95)	(1.52)	0.38	0.85	9218
写真図版19-198	FH30-3	石鏃	II	珪質頁岩	(2.00)	(1.25)	0.30	0.65	9192
写真図版19-199	FI32-1	石鏃	II	チャート	(2.56)	2.16	0.68	3.40	9080
写真図版19-200	FH31-3	石鏃	II	珪質頁岩	(2.13)	(1.32)	0.40	0.88	9166
写真図版19-201	FG32-1	石鏃	II-1	黒曜石	(1.14)	1.26	0.28	0.25	9138
写真図版19-202	FI30-1	石鏃	II-1	黒曜石	(1.51)	1.26	1.17	0.46	9100
写真図版19-203	FI30-1	石鏃	II-1	チャート	(1.14)	1.41	0.31	0.55	9243
写真図版19-204	FH31-3	石鏃	II-1	チャート	(2.14)	1.75	0.52	1.95	9158
	FH32-1	石鏃	II-1	黒曜石	1.57	1.10	0.27	0.24	9239
第59図203、写真図版19-205	FI30-1	石鏃	II-1-A	チャート	2.60	1.92	0.43	0.25	9094
写真図版19-206	FH30-3	石鏃	II-1-A	チャート	(1.38)	1.22	0.26	0.30	9108
写真図版19-207	FH31-3	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	1.72	1.54	0.46	1.20	9163
第59図204、写真図版19-208	FH31-3	石鏃	II-1-B	黒曜石	1.83	1.46	0.44	1.00	9157
写真図版19-209	GA30-2	石鏃	II-1-B	黒曜石	1.80	1.54	0.76	1.75	9269
写真図版19-210	FI31-3	石鏃	II-1-B	黒曜石	1.70	1.21	0.28	0.30	9246
第59図205、写真図版19-211	FH30-4	石鏃	II-1-B	チャート	0.50	1.02	1.30	0.32	9276
写真図版19-212	FH31-3	石鏃	II-1-B	チャート	2.05	1.42	0.48	0.15	9231
写真図版19-213	FH30-2	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	2.44	(1.96)	0.55	2.15	9275
写真図版19-214	FJ31-1	石鏃	II-1-B	チャート	2.86	(1.52)	0.38	1.35	9355
写真図版19-215	FH31	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	2.10	1.60	0.58	2.10	9346
写真図版19-216	FG31-3	石鏃	II-1-B	チャート	1.96	1.43	0.35	0.60	9186
写真図版19-217	FJ31-1	石鏃	II-1-B	黒曜石	2.00	(1.47)	0.45	1.10	9065
写真図版19-218	FH30-3	石鏃	II-1-B	チャート	2.08	1.44	0.38	1.00	9152
写真図版19-219	FH31-3	石鏃	II-1-B	チャート	2.00	1.44	0.39	0.90	9165
第59図206、写真図版19-220	FH31-3	石鏃	II-1-B	チャート	2.03	1.46	0.51	0.77	9164
第59図207、写真図版19-221	FH30-3	石鏃	II-1-B	黒曜石	1.36	1.17	0.23	0.25	9154
第59図208、写真図版19-222	FH30-3	石鏃	II-1-B	チャート	(3.25)	1.05	0.50	1.40	9274
写真図版19-223	FJ30-3	石鏃	II-1-B	珪質頁岩	(1.96)	1.96	0.60	2.05	9207
写真図版19-224	FH32-3	石鏃	II-2	珪質頁岩	(2.29)	(0.66)	0.33	0.45	9348
写真図版19-225	FI31-2	石鏃	II-2	黒曜石	(1.30)	1.16	0.30	0.50	9083
写真図版19-226	FJ30-4	石鏃	II-2	チャート	(1.91)	1.46	0.40	0.90	9339
写真図版19-227	不明	石鏃	II-2	珪質凝灰岩	(1.32)	1.38	0.23	0.50	9368
写真図版19-228	FI30-1	石鏃	II-2	黒曜石	1.59	1.40	0.27	0.45	9245
写真図版19-229	FI32-1	石鏃	II-2	チャート	(1.90)	(1.69)	0.23	0.60	9321
写真図版19-230	FH36-1	石鏃	II-2	チャート	1.32	1.31	0.26	0.30	9351
第59図209、写真図版19-231	FJ30-3	石鏃	II-2-A	チャート	(2.15)	(1.74)	0.43	1.10	9208
写真図版19-232	FI31-1	石鏃	II-2-B	チャート	(1.94)	1.50	0.27	0.80	9233
写真図版19-243	GA25-1	石鏃	II-2-B	チャート	(2.12)	1.85	0.42	1.45	9050
写真図版19-233	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	(1.80)	1.73	0.28	0.65	9155
写真図版19-234	FG31-3	石鏃	II-2-B	チャート	(1.89)	1.56	0.30	0.60	9185
写真図版19-235	FG31-4	石鏃	II-2-B	チャート	(1.75)	1.55	0.32	0.70	9204
写真図版20-236	FH31-3	石鏃	II-2-B	頁岩	(1.46)	1.38	0.31	0.50	9150
写真図版20-237	FJ30-3	石鏃	II-2-B	黒曜石	(1.44)	1.20	0.30	0.50	9210
写真図版20-238	FH31-2	石鏃	II-2-B	チャート	(2.04)	1.74	0.55	1.60	9125
写真図版20-239	FH30-4	石鏃	II-2-B	黒曜石	(1.60)	1.26	0.30	0.45	9227
写真図版20-240	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	(1.58)	1.46	0.34	0.55	9109
写真図版20-241	FH30-1	石鏃	II-2-B	黒曜石	(1.49)	1.44	0.30	0.45	9350
写真図版20-242	FH31-2	石鏃	II-2-B	チャート	(2.05)	1.99	0.38	1.40	9309
写真図版20-244	FI31-1	石鏃	II-2-B	チャート	(2.28)	1.50	0.40	0.90	9141
第59図210、写真図版20-245	FI30-5	石鏃	II-2-B	チャート	(2.40)	1.69	0.34	0.90	9119
写真図版20-246	FF32-2	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	(1.79)	1.72	0.36	0.70	9170
写真図版20-247	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	(1.40)	1.40	0.30	0.40	9257
写真図版20-248	FJ30-2	石鏃	II-2-B	流紋岩	(1.57)	1.57	0.30	0.60	9216
写真図版20-249	FH31-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	(2.11)	(0.88)	0.30	0.60	9230
写真図版20-250	FI30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.41	1.21	0.35	0.60	9323
写真図版20-251	FI31-4	石鏃	II-2-B	流紋岩	2.40	(1.18)	0.45	0.75	9220
第59図211、写真図版20-252	FH31-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	(2.04)	1.64	0.46	1.50	9217
写真図版20-253	FH31-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	1.78	1.23	0.30	0.50	9104
写真図版20-254	FH30-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.36	(1.50)	0.50	1.40	9173
写真図版20-255	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.39	(1.13)	0.37	0.65	9130
第59図212、写真図版20-256	FI31-4	石鏃	II-2-B	黒曜石	1.71	1.47	0.25	0.60	9298
写真図版20-257	FI31-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	1.74	1.17	0.23	0.30	9327
写真図版20-258	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.85	1.40	0.40	1.00	9343
写真図版20-259	FI32-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.14	1.35	0.29	0.60	9322
写真図版20-260	FJ29-1	石鏃	II-2-B	黒曜石	(1.56)	1.46	0.26	0.36	9238

	写真図版20-261	FI29-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.06	(1.24)	0.24	0.45	9102
	写真図版20-262	FJ30-2	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	1.52	(1.30)	0.28	0.25	9067
	写真図版20-263	FH31-2	石鏃	II-2-B	黒曜石	1.88	(0.84)	0.34	0.45	9136
	写真図版20-264	FH30-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.00	1.27	0.44	0.75	9271
第59図213、	写真図版20-265	FJ30-2	石鏃	II-2-B	チャート	2.72	1.67	0.26	0.85	9215
第59図214、	写真図版20-266	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	2.24	1.36	0.40	0.80	9174
	写真図版20-267	FH30-4	石鏃	II-2-B	チャート	1.75	1.30	0.39	0.50	9226
	写真図版20-268	FG32-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.13	1.46	1.39	0.95	9261
	写真図版20-269	FH31-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.84	1.45	0.25	0.50	9106
	写真図版20-270	表採	石鏃	II-2-B	チャート	(1.66)	1.53	0.25	0.60	9088
	写真図版20-271	FI31-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	1.51	(1.13)	0.25	0.30	9317
	写真図版20-272	FI30-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	3.87	(1.60)	0.40	1.80	9242
	写真図版20-273	FG31-4	石鏃	II-2-B	チャート	2.06	1.26	0.39	0.85	9179
	写真図版20-274	FG32-3	石鏃	II-2-B	チャート	2.32	1.23	0.30	0.55	9228
	写真図版20-275	FH31-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.20	(1.62)	0.36	0.88	9162
第59図215、	写真図版20-276	FI30-3	石鏃	II-2-B	細粒砂岩	2.24	1.66	0.28	0.65	9176
	写真図版20-277	FI31-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.20	1.92	0.73	3.20	9316
第59図216、	写真図版20-278	FI31-1	石鏃	II-2-B	チャート	(2.53)	1.57	0.34	0.90	9315
	写真図版20-279	FJ29-1	石鏃	II-2-B	流紋岩	2.27	1.83	0.54	1.95	9054
	写真図版20-280	FH31-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.83	1.33	0.32	0.52	9105
	写真図版20-281	FJ29-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.60	(1.24)	0.30	0.50	9055
	写真図版20-282	FH31-3	石鏃	II-2-B	チャート	2.34	1.32	0.28	0.50	9116
	写真図版20-283	FJ29-1	石鏃	II-2-B	チャート	1.68	1.34	0.30	0.50	9056
	写真図版20-284	FH31-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.95	1.44	0.28	0.62	9156
	写真図版20-285	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.58	1.38	0.25	0.35	9172
	写真図版20-286	FI30-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.10	1.28	0.34	0.50	9092
	写真図版20-287	FH29-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.48	(1.00)	0.30	0.50	9143
	写真図版20-288	FI32-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.17	1.40	0.26	0.55	9070
第59図217、	写真図版20-289	FH30-4	石鏃	II-2-B	チャート	2.22	1.84	0.24	0.60	9278
	写真図版20-290	表採	石鏃	II-2-B	チャート	(1.74)	1.38	0.30	0.50	9087
	写真図版20-291	FJ21-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.43	1.71	0.54	1.60	9236
	写真図版20-292	FI32-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.19	(1.46)	0.28	0.65	9079
	写真図版20-293	FI31-2	石鏃	II-2-B	チャート	1.86	1.36	0.26	0.40	9074
	写真図版20-294	GB28-2	石鏃	II-2-B	黒曜石	1.45	0.86	0.22	0.20	9049
	写真図版20-295	FG31-4	石鏃	II-2-B	チャート	1.86	1.38	0.23	0.35	9303
	写真図版20-296	FH30-4	石鏃	II-2-B	流紋岩	1.88	1.39	0.26	0.42	9272
第59図218、	写真図版20-297	FF32-4	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.42	1.38	0.29	0.65	9269
	写真図版20-298	FI30-1	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.32	(1.42)	0.32	0.75	9093
	写真図版20-299	-3	石鏃	II-2-B	チャート	(1.70)	1.25	0.24	0.25	9294
	写真図版20-300	FJ30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.83	1.44	0.42	0.70	9209
第59図219、	写真図版20-301	FI31-2	石鏃	II-2-B	チャート	1.48	1.44	0.38	0.45	9073
	写真図版20-302	FH30-3	石鏃	II-2-B	�灰緑岩	1.80	1.38	0.48	0.65	9128
	写真図版20-303	FJ29-1	石鏃	II-2-B	チャート	2.53	(1.77)	0.29	0.70	9237
第59図220、	写真図版20-304	FI30-3	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	2.36	1.56	0.31	0.80	9264
第59図221、	写真図版20-305	FI30-5	石鏃	II-2-B	チャート	2.57	1.78	0.35	1.05	9335
	写真図版20-306	FI29-2	石鏃	II-2-B	黒曜石	(1.70)	1.35	0.40	0.55	9258
	写真図版20-307	FH30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.88	1.37	0.28	0.50	9131
	写真図版20-308	FI30-3	石鏃	II-2-B	チャート	2.82	(1.06)	0.28	0.60	9265
第59図222、	写真図版20-309	FJ30-3	石鏃	II-2-B	チャート	(2.44)	1.48	0.38	0.70	9206
	写真図版20-310	FH31-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.95	1.77	0.26	0.74	9129
第59図223、	写真図版20-311	FI30-3	石鏃	II-2-B	チャート	1.80	1.53	0.29	0.50	9324
	写真図版20-312	FI30-1	石鏃	II-2-B	流紋岩	(1.18)	1.23	0.38	0.53	9248
	写真図版20-313	FI30	石鏃	II-2-B	チャート	1.56	1.53	0.25	0.30	9180
		EG37	石鏃	II-2-B	チャート	2.27	1.34	0.28	0.70	9235
第59図224、	写真図版20-314	FG31-3	石鏃	II-2-B	チャート	(1.90)	1.40	0.25	0.65	9117
第59図225、	写真図版20-315	FI31-2	石鏃	II-2-B	珪質頁岩	1.82	1.32	0.25	0.48	9082
第59図226、	写真図版20-316	EG37	石鏃	II-3	チャート	1.96	1.48	0.56	1.55	9085
第59図227、	写真図版20-317	FH30-3	石鏃	II-3	チャート	(2.30)	1.57	0.55	1.75	9153
	写真図版20-318	FJ31-1	石鏃	II-4	チャート	(1.82)	1.70	0.50	1.30	9066
	写真図版20-319	-1	石鏃	II-4	チャート	1.53	(1.93)	0.30	0.65	9304
	写真図版20-320	FI31-2	石鏃	II-4	チャート	2.32	(1.44)	0.50	1.30	9076
	写真図版20-321	FI29-1	石鏃	II-4	チャート	2.50	2.00	0.56	2.90	9103
第59図228、	写真図版20-322	FH30-3	石鏃	II-4	チャート	2.52	1.51	0.51	1.50	9254
	写真図版20-323	FJ28-1	石鏃	II-4	チャート	2.40	1.55	0.98	1.80	9344
第59図229、	写真図版20-324	FI30-3	石鏃	II-4	珪質頁岩	2.95	2.18	0.84	3.20	9262
第59図230、	写真図版20-325	FH30-2	石鏃	II-4	珪質頁岩	2.60	1.96	0.80	3.25	9273
	写真図版20-326	FH30-3	石鏃	II-4	チャート	1.83	1.30	0.30	0.50	9255
第59図231、	写真図版20-327	FJ31-2	石鏃	II-4	チャート	2.51	1.27	1.30	0.64	9361
第59図232、	写真図版20-328	FI30-1	石鏃	III	チャート	2.26	(1.17)	0.34	1.00	9247
	写真図版20-329	FI30-3	石鏃	IV-A	チャート	2.04	(0.94)	0.43	0.87	9250
	写真図版20-330	GB30-3	石鏃	IV-A	チャート	2.11	(1.92)	0.54	2.35	9052
	写真図版20-331	FI31-2	石鏃	IV-A	チャート	(1.46)	(1.20)	0.38	0.68	9063
	写真図版20-332	FI30-1	石鏃	IV-A	チャート	(1.40)	(1.03)	0.30	1.03	9244
	写真図版20-333	FG31-4	石鏃	IV-A	黒曜石	(1.55)	(1.26)	0.31	0.40	9181
	写真図版20-334	FG31-4	石鏃	IV-A	珪質頁岩	(2.00)	(1.78)	0.32	0.60	9202
	写真図版20-335	FH32-1	石鏃	IV-A	チャート	(1.36)	(0.70)	0.24	0.30	9084
	写真図版20-336	GB28-3	石鏃	IV-A	チャート	(1.64)	(1.12)	0.36	0.50	9051
	写真図版20-337	FH31-3	石鏃	IV-A	黒曜石	(0.95)	(0.48)	0.36	0.40	9184
	写真図版20-338	FJ31-1	石鏃	IV-A	黒曜石	(1.40)	(1.00)	0.20	0.25	9064
	写真図版20-339	GA25	石鏃	IV-A	珪質頁岩	(2.22)	(1.26)	0.32	0.85	9072
	写真図版20-340	FH31-2	石鏃	IV-A	珪質頁岩	(1.96)	(1.82)	0.44	1.25	9135

	写真図版20-341	FI30-1	石鏃	IV-A	チャート	(1.54)	(0.80)	0.27	0.10	9099
	写真図版20-342	FG31-2	石鏃	IV-A	チャート	(1.04)	(0.90)	0.23	0.15	9137
	写真図版20-343	FJ31-1	石鏃	IV-A	チャート	(1.66)	(1.12)	0.40	0.30	9053
	写真図版20-344	FI31-1	石鏃	IV-A	黒曜石	(1.78)	(0.62)	0.27	0.30	9314
	写真図版20-345	FJ31-2	石鏃	IV-A		1.62	(1.43)	0.46	0.75	9349
	写真図版20-346	FI31-3	石鏃	IV-B	チャート	(2.72)	1.90	0.78	3.00	9175
	写真図版20-347	FH30-3	石鏃	IV-B	流紋岩	(2.48)	1.78	0.56	1.00	9256
	写真図版20-348	EF37	石鏃	IV-B	黒曜石	1.75	1.17	0.66	0.80	9305
	写真図版20-354	GA30-2	石鏃	IV-B	チャート	(2.42)	1.76	0.68	2.50	9362
	写真図版20-349	FH31-3	尖頭器	I-2-A	チャート	2.54	2.03	0.82	3.35	9182
第59図234、	写真図版20-350	FI29-3	尖頭器	I-2-B	チャート	2.90	2.14	0.76	4.00	9249
	写真図版20-351	FH31-3	尖頭器	I-2-C	珪質頁岩	2.96	2.76	1.12	7.55	9110
	写真図版20-352	FH31-3	尖頭器	II-2-A	チャート	2.70	2.41	1.31	6.15	9168
第59図234、	写真図版20-359	FH31-2	尖頭器	III-1-A	珪質頁岩	4.55	2.02	0.80	5.25	9126
第59図235、	写真図版20-353	FG31-4	尖頭器	III-2-A	チャート	3.00	2.72	1.08	8.35	9280
第59図236、	写真図版20-361	FJ30-5	尖頭器	III-2-A	珪質頁岩	2.94	2.33	1.07	5.35	9191
	写真図版20-355	FI30-3	尖頭器	III-2-A	チャート	3.75	2.27	1.17	9.25	9253
	写真図版20-356	FI30-3	尖頭器	III-2-A	チャート	2.95	2.12	0.88	5.35	9252
	写真図版20-357	FJ30-2	尖頭器	III-2-A	珪質頁岩	3.19	2.03	1.04	5.40	9214
第59図237、	写真図版20-358	FG31-2	尖頭器	III-2-A	珪質頁岩	4.08	2.70	1.00	9.70	9118
	写真図版20-360	FH31-3	尖頭器	III-2-B	チャート	3.04	2.28	0.52	2.94	9167
	写真図版20-362	FH30-1	尖頭器	III-2-C	珪質頁岩	6.50	2.67	0.88	6.50	9277
	写真図版20-363	FG31-4	石錐		珪質頁岩	1.98	0.76	0.47	0.70	9199
	写真図版20-364	FF32	石錐	I	チャート	2.26	1.12	0.31	0.60	9268
第59図238、	写真図版20-365	FG31-4	石錐	II	珪質頁岩	3.10	0.96	0.70	1.90	9200
	写真図版20-366	FH30-1	石錐	II	珪質頁岩	1.97	1.13	0.48	0.85	9120
第59図239、	写真図版20-367	FG31-3	石錐	III	珪質頁岩	2.58	1.04	0.46	0.85	9115
第59図240、	写真図版20-368	FI31-4	石錐	III	チャート	4.22	0.93	0.52	1.55	9201
	写真図版20-369	FG31-4	石錐	III	珪質頁岩	3.72	1.19	0.65	2.25	9279
第59図241、	写真図版20-370	FI30-3	石錐	III	珪質頁岩	3.34	0.82	0.50	1.05	9263
	写真図版20-371	FF32-2	石錐	III	珪質頁岩	3.10	0.88	0.64	1.35	9299
第59図242、	写真図版20-372	FI31-1	石匙		珪質頁岩	6.20	2.97	1.00	17.1	9318
第59図243、	写真図版20-373	FJ29-1	石匙		流紋岩	4.90	1.94	0.80	6.95	9058
第59図244、	写真図版20-374	FI30-4	石匙		珪質頁岩	5.88	1.55	1.12	6.30	9325
	写真図版20-375	FH31-3	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	2.46	1.92	0.98	4.90	9159
	写真図版20-376	FH31-1	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	2.38	1.12	0.44	0.95	9132
	写真図版20-379	FI30-1	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	2.74	2.10	0.82	6.20	9095
	写真図版20-380	FI31-1	不定形石器	I-1-A	チャート	2.74	2.16	0.80	3.60	9061
	写真図版20-381	FH31-3	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	1.57	1.56	0.32	0.50	9160
	写真図版20-382	FI30-1	不定形石器	I-1-A	チャート	2.06	1.98	0.73	2.85	9147
	写真図版20-378	FI31-1	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	2.13	1.72	0.48	1.55	9060
	写真図版20-383	FG31-4	不定形石器	I-1-A	流紋岩	3.18	2.10	1.02	4.50	9281
	写真図版20-384	FJ29-2	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	3.88	1.67	4.60	3.10	9291
	写真図版20-376	FI29-2	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	5.38	1.67	0.74	5.60	9259
	写真図版20-385	FH30-3	不定形石器	I-1-A	頁岩	4.10	2.46	0.75	6.20	9193
	写真図版20-386	FG31-3	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	2.49	1.54	0.42	1.34	9190
	写真図版20-387	FI31-1	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	2.40	1.72	0.40	1.40	9313
	写真図版20-388	GA30-2	不定形石器	I-1-A	チャート	2.31	1.40	0.84	2.60	9363
	写真図版20-389	FJ28-1	不定形石器	I-1-A	珪質頁岩	3.59	2.50	0.52	4.35	9345
	写真図版20-391	FI31-1	不定形石器	I-1-B	チャート	0.86	1.44	0.62	0.70	9311
	写真図版20-392	EG37-3	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	2.29	1.66	0.82	3.30	9358
	写真図版20-393	FH36-1	不定形石器	I-1-B	流紋岩	2.50	2.15	0.46	2.25	9354
	写真図版20-390	FF32-2	不定形石器	I-1-B	ホルンフェルス	3.21	1.97	0.98	4.55	9300
	写真図版20-403	FJ30-3	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	2.75	2.33	1.04	7.35	9169
	写真図版20-394	FG32-1	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	2.62	2.46	0.38	2.00	9113
	写真図版20-396	FH30-3	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	2.54	1.66	1.50	7.00	9194
	写真図版20-397	FH31-3	不定形石器	I-1-B	チャート	2.50	1.58	0.48	1.78	9183
第59図245、	写真図版20-399	FG31-3	不定形石器	I-1-B	チャート	4.17	2.49	0.84	7.30	9187
第59図246、	写真図版20-400	FI31-2	不定形石器	I-1-B	チャート	3.56	1.82	0.56	2.73	9062
	写真図版20-402	FH29-3	不定形石器	I-1-B	チャート	2.24	1.55	0.66	1.85	9145
	写真図版20-395	FF32-2	不定形石器	I-1-B	蛋白石	3.30	2.10	0.96	3.72	9196
	写真図版20-398	FG31-4	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	7.14	2.64	1.28	30.0	9197
	写真図版20-404	FI30-1	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	2.27	2.12	0.74	2.90	9146
	写真図版20-405	FH31-3	不定形石器	I-1-B	チャート	7.20	4.94	1.83	65.0	9287
	写真図版20-401	FJ30-3	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	2.56	1.44	0.96	2.80	9211
	写真図版20-406	FI31-4	不定形石器	I-1-B	珪質頁岩	4.10	2.90	1.01	9.60	9221
	写真図版20-407	FG31-3	不定形石器	I-1-B	チャート	2.57	1.06	0.55	1.25	9188
	写真図版20-408	FH31-3	不定形石器	I-1-B	珪質凝灰岩	1.86	1.67	0.47	1.55	9149
	写真図版20-409	GA25-2	不定形石器	I-1-B	チャート	2.50	1.60	0.50	0.18	9357
	写真図版20-410	FH32-1	不定形石器	I-1-B	チャート	3.68	2.58	1.12	8.90	9359
	写真図版20-411	FI31-4	不定形石器	I-1-B	珪質凝灰岩	2.48	1.55	0.95	3.20	9297
	写真図版20-412	FH32-1	不定形石器	I-1-B	チャート	1.44	1.44	0.28	0.50	9333
	写真図版21-413	FH30-3	不定形石器	I-1-C	珪質頁岩	2.17	1.40	0.53	1.40	9151
	写真図版21-414	GA25	不定形石器	I-1-C	珪質頁岩	2.40	2.18	0.68	2.80	9356
	写真図版21-415	FH31	不定形石器	I-1-C	珪質頁岩	1.86	1.40	0.30	0.45	9347
	写真図版21-416	FJ30-3	不定形石器	I-2-A	珪質頁岩	3.54	2.50	0.90	4.20	9213
第59図247、	写真図版21-417	GA31-2	不定形石器	I-2-A	チャート	4.45	2.68	1.10	13.5	9069
	写真図版21-418	FJ30-3	不定形石器	I-2-A	珪質頁岩	3.62	2.14	1.05	3.95	9212
	写真図版21-419	FI30-1	不定形石器	I-2-A	チャート	2.66	1.70	0.88	3.35	9240
第59図248、	写真図版21-420	FH32-1	不定形石器	I-2-A	珪質頁岩	3.44	2.88	0.92	8.10	9340
	写真図版21-421	FH30-3	不定形石器	I-2-A	チャート	1.90	1.32	0.37	0.90	9307

	写真図版21-422	FJ27-1	不定形石器	I-2-A	流紋岩	3.30	1.56	0.62	2.40	9331
	写真図版21-423	FI31-1	不定形石器	I-2-A	チャート	2.72	2.11	1.10	5.10	9330
	写真図版21-424	FI28-1	不定形石器	I-2-A	流紋岩	4.41	1.45	1.02	5.70	9329
	写真図版21-425	FG31-3	不定形石器	I-2-B	珪質頁岩	2.72	1.40	1.05	2.60	9293
	写真図版21-426	FH31-3	不定形石器	I-2-B	黒曜石	1.53	1.06	0.42	0.70	9127
	写真図版21-427	FI30-1	不定形石器	I-2-B	珪質頁岩	3.33	2.26	0.66	4.65	9096
	写真図版21-428	FI30-3	不定形石器	I-2-B	チャート	2.72	2.02	0.72	0.40	9260
	写真図版21-429	FH31-3	不定形石器	I-2-B	珪質頁岩	1.57	1.68	0.67	1.65	9229
	写真図版21-430	FI30-3	不定形石器	I-2-B	珪質頁岩	2.92	1.82	0.46	2.18	9251
	写真図版21-431	FI27-1	不定形石器	I-2-B	流紋岩	3.02	1.46	1.78	4.45	9112
	写真図版21-432	FG31-3	不定形石器	I-2-B	珪質頁岩	1.87	2.35	1.01	7.85	9189
	写真図版21-433	FI31-5	不定形石器	I-2-B	黒曜石	1.25	0.94	0.36	0.45	9267
	写真図版21-434	FJ30-3	不定形石器	I-2-B	チャート	2.18	1.45	0.99	1.65	9296
第59図249、	写真図版21-435	FI30-1	不定形石器	I-2-C	チャート	3.24	2.81	0.84	4.40	9241
	写真図版21-436	FI31-1	不定形石器	I-2-C	チャート	3.14	1.32	0.80	2.70	9312
	写真図版21-437	FI31-3	不定形石器	I-3-B	チャート	4.03	1.50	1.08	5.40	9232
第60図250、	写真図版21-438	FI30-3	不定形石器	II-1-A	チャート	3.70	2.53	0.81	6.90	9266
	写真図版21-439	GA29-1	不定形石器	II-1-A	チャート	5.64	4.02	1.15	36	9369
第60図251、	写真図版21-441	EH30-1	不定形石器	II-1-A	珪質頁岩	4.24	2.19	0.59	5.30	9336
	写真図版21-442	FI29-4	不定形石器	II-1-A	珪質頁岩	2.50	2.04	0.61	2.60	9338
	写真図版21-443	FH31-2	不定形石器	II-1-B	珪質頁岩	2.24	2.11	0.65	1.90	9134
	写真図版21-444	FI30-1	不定形石器	II-1-B	珪質凝灰岩	2.42	2.01	0.66	3.50	9205
第60図252、	写真図版21-445	FI31-2	不定形石器	II-1-B	珪質頁岩	5.10	3.36	0.85	16.1	9319
	写真図版21-446	FJ30-3	不定形石器	II-1-B	珪質頁岩	4.30	5.41	0.78	9.70	9295
		FJ30-3	不定形石器	II-1-D	流紋岩	2.54	1.62	0.75	1.30	9195
	写真図版21-447	FH31-4	不定形石器	II-1-D	珪質頁岩	2.71	2.09	0.28	1.50	9342
	写真図版21-448	不明	不定形石器	II-2-A	チャート	2.72	2.42	0.92	5.60	9366
	写真図版21-449	FJ30-1	不定形石器	II-2-A	チャート	3.16	2.32	1.07	8.70	9353
	写真図版21-450	FJ30-1	不定形石器	II-2-B	珪質頁岩	3.00	1.36	0.96	4.70	9352
	写真図版21-451	EG31-1	不定形石器	II-2-C	チャート	3.19	3.02	0.90	6.50	9114
	写真図版21-452	FJ27-1	不定形石器	II-2-D	チャート	2.76	1.94	0.58	2.50	9334
		FH31-3	不定形石器	II-3-B	珪質頁岩	2.57	1.74	0.49	1.85	9161
	写真図版21-453	GA30-2	不定形石器	II-3-B	チャート	2.20	2.03	2.64	0.20	9364
	写真図版21-454	GA28-1	不定形石器	II-3-D	珪質頁岩	1.79	2.22	0.47	1.70	9306
		FH31-2	不定形石器	II-3-E	珪質頁岩	2.70	2.07	0.73	3.55	9177
	写真図版21-455	FI31-1	不定形石器	III-2-B	チャート	2.53	2.23	0.75	3.30	9310
	写真図版21-456	FH31-1	不定形石器	IV	珪質頁岩	2.47	2.02	1.03	4.45	9133
	写真図版21-457	FH30-3	不定形石器	IV	珪質頁岩	2.44	1.83	0.84	3.95	9142
第60図253、	写真図版21-458	FH30-3	不定形石器	IV	珪質頁岩	3.04	1.75	1.12	6.60	9171
	写真図版21-440	FJ30-6	不定形石器	IV	チャート	2.80	2.39	1.21	7.30	9337
	写真図版21-459	FJ31-1	不定形石器	IV	珪質頁岩	1.92	1.89	0.84	2.55	9360
	写真図版21-460	FI28-3	不定形石器	IV	珪質頁岩	3.31	2.46	0.86	6.20	9341
	写真図版21-461	FH29-3	不定形石器	V	チャート	3.10	1.78	0.70	2.70	9292
第60図254、	写真図版21-462	FI31-4	不定形石器	V	珪質頁岩	4.20	3.83	0.77	12.5	9222
	写真図版21-463	FG31-4	不定形石器	V	チャート	3.44	3.30	1.02	7.60	9198
第60図255、	写真図版21-464	FG31-4	不定形石器	V	珪質頁岩	3.47	2.44	1.10	6.55	9178
	写真図版21-465	FH32-2	不定形石器	V	珪質頁岩	5.22	2.48	0.84	9.85	9097
	写真図版21-466	FJ27-1	不定形石器	V	珪質頁岩	2.19	1.72	0.64	2.10	9332
	写真図版21-467	FH31-2	打製石斧		頁岩	10.32	6.60	2.63	248	9375
第60図256、	写真図版22-468	FJ31-1	磨製石斧		凝灰質砂岩	8.70	4.92	2.90	189	9283
	写真図版22-469	表採	磨製石斧		斑糲岩	4.09	4.50	2.32	61	9285
	写真図版22-470	FG32-1	磨製石斧		斑岩	8.97	3.75	1.98	84	9374
第60図257、	写真図版22-471	FI29-3	磨製石斧		細粒砂岩	5.83	9.68	2.80	304	9302
	写真図版22-472	FI29-3	磨製石斧		珪質頁岩	4.33	5.07	1.83	86	9301
	写真図版22-476	FJ31-1	石斧未製品		細粒砂岩	12.00	4.74	1.26	105	9270
	写真図版22-473	FG32-3	石皿		礫岩	12.18	8.30	4.74	544	9376
	写真図版22-474	FJ31-1	敲石		頁岩	11.56	5.93	1.24	315	9284
第60図258、	写真図版22-475	FI28-1	敲石		中粒砂岩	11.38	4.50	3.81	278	9372
	写真図版22-478	FI30-3	石製円盤		溶結凝灰岩	6.00	5.92	1.35	86	9288
第60図260、	写真図版22-479	FH30-3	石製円盤		凝灰質砂岩	4.68	4.30	0.95	34	9286
	写真図版22-480	FI30-1	石製円盤		閃緑岩	3.48	3.30	0.45	7.85	9148
第60図261、	写真図版22-481	FH30-3	石製円盤		粘板岩	6.22	5.55	1.03	58	9326
		FJ29-3	石製円盤		アプライト	5.40	5.31	0.94	40.3	9377
第60図262、	写真図版22-482	FI28-1	礫石器		凝灰質砂岩	10.60	9.82	3.37	406	9371
	写真図版22-483	FI30-2	凹石		中粒砂岩	11.60	8.44	2.52	235	9373
	写真図版22-484	FG29-1	凹石		斑糲岩	12.80	7.68	3.05	460	9370
	写真図版22-486	FH29-2	凹石		ドレライト	15.37	4.56	2.26	325	9308
第60図263、	写真図版22-485	FJ30-2	凹石		ヒン岩	11.60	8.25	3.30	480	9379
	写真図版22-487	FI31-2	凹石		頁岩	22.30	4.59	2.68	408	9381
	写真図版22-488	FJ29-1	石棒		粘板岩	13.70	2.44	0.98	59	9071
	写真図版22-489	FI28-2	石棒		細粒砂岩	12.28	4.45	1.80	135	9367
	写真図版22-490	FG32-3	石棒		頁岩	7.86	3.48	1.08	40.1	9328
	写真図版22-492	FI31-2	石棒		細粒砂岩	15.64	3.87	1.24	121	9380
第60図264、	写真図版22-491	FG30-4	石剣		頁岩	15.08	3.00	12.2	88	9378
第60図259、	写真図版22-477	FJ30-1	石製品		アプライト	7.03	3.51	2.45	90	9282

4　骨角器(第61図265・266)

堂の前貝塚出土動物遺存体に混じって、骨角器2点が出土している。2点とも火を受け白色化している。

265は、FF32グリット2層から出土した、骨針あるいは刺突具の先端部と思われる破片である。先端部に行くに従って細く鋭利になっている。現存長は、20.1mmである。材質は鹿角で、裏面に特徴的な海綿質が見られる。器体はよく研磨されている。

266は、FG31グリット4層から出土した棒状の製品の先端部と思われる破片である。先端部は、やや尖る。現存長13.8mmである。材質は鹿角で、表面中央部にわずかながら自然面の凹凸が見られ、裏面の中央部には海綿質が見られる。

第61図　遺構外出土土骨角器

第36表　遺構外出土骨角器一覧表

図　版	地点・層	器　種	材　質	長さ	幅	厚さ	重さ	登録番号
第61図265	FF32-2	骨針？刺突具？	鹿角	0.1	6.1	3.3	0.3	879
第61図266	FG31-4	棒状製品	鹿角	3.8	5.9	5.1	0.35	880

（単位　mm, g）

5　動物遺存体

堂の前貝塚出土動物遺存体種名

軟骨魚綱		サメ目の一種
硬骨魚綱		アイナメ
哺乳綱	1	イノシシ
	2	シカ

発掘調査では、約350点（骨約250点、貝類約100点）の動物遺存体が出土している。骨は、すべて焼けて白色化した小破片である。関節部の残るものを中心に部位と種の同定を行った。焼けて変形しているため種不明とせざるを得ない資料もあり、種同定できた資料は18点と少ない。

同定の結果、魚類2種（サメ目の一種、アイナメ）、哺乳類2種（イノシシ、シカ）の4種が確認できた。

哺乳類は、イノシシ9点、シカ5点で、出土部位はほとんどが尺骨、中手骨、踵骨などの四肢骨を構成する部位の破片である。イノシシは、9点中3点が骨端の癒着していない若い個体のものであった。

魚類は、サメ目の一種1点、アイナメ3点で、すべて脊椎骨であった。

このほか、フジツボ類、貝類などの出土があったが、すべて撹乱層からの出土であるため割愛した。

今回の調査では、貝層は確認されなかったが、出土した動物遺存体は、FF32埋設土器の周辺の炭化物範囲からの出土がほとんどであった。

出土動物遺存体の内容については、以下の表に示した。

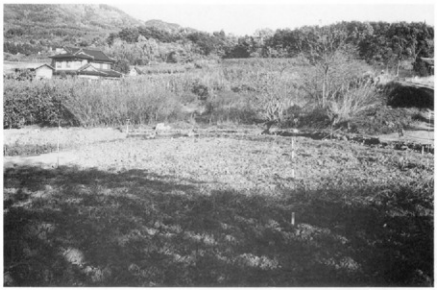
第37表　出土動物遺存体一覧表

グリット	層位	種　名	部　位	数	備　考
FG31	3層	サメ目の一種	脊椎骨	1	小型の種
FG31	3層	シカ	鹿角片	1	
FG31	3層	イノシシ	踵骨（R）	1	近位端（若獣）
FG31	4層	イノシシ	尺骨（R）	1	
FG31	4層	イノシシ	橈側手根骨（R）	1	
FF32	2層	イノシシ	第4中手骨（L）	1	遠位端
FF32	2層	イノシシ	第4中手骨（L）	1	遠位端（若獣）
FH30	2層	シカ	中節骨（L）	1	近位端
FH30	3層	イノシシ	中節骨（L）	1	
FH31	2層	アイナメ	腹椎	3	
FH31	3層	シカ	中節骨（L）	1	近位端
FH31	3層	シカ	鹿角片	1	
FH32	3層	イノシシ	尺骨（R）	1	遠位端（若獣）
FH32	3層	イノシシ	末節骨（R）	1	
FI27	3層	シカ	中節骨（R）	1	遠位端
FI30	5層	イノシシ	胸椎	1	

堂の前貝塚遠景　北より

A区近景　西より

B区近景　西より



写真図版　1

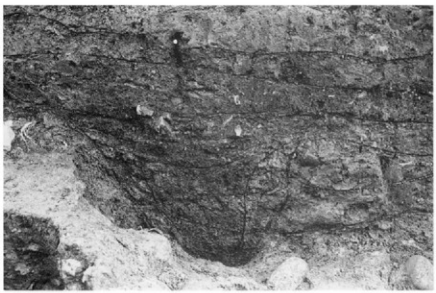
A区遺構検出状況

1号住居，2号住居，3号住居
EF37－6ピット　完掘り状況
北より

1号住居，2号住居，3号住居
EF37－6ピット，
EF37－7ピット，
EF37－8ピット，
南北セクション
西より

写真図版　2

1号住居1ピット半掘状況 北より



1号住居 2ピット 北より

2号住居 1ピット．2ピット
半掘状況 西より

写真図版 3

2号住居 3ピット 半掘状況
北より

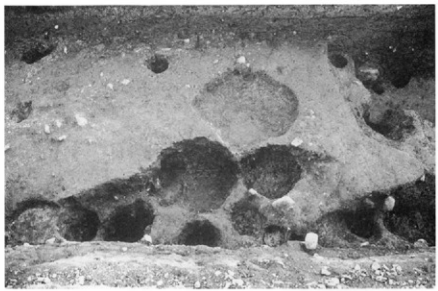
EF37－1ピット 半掘状況
西より

EF37－2ピット 半掘状況
西より

写真図版 4

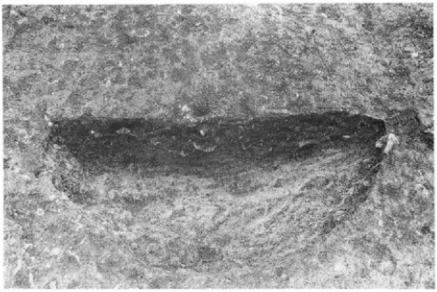
EF38－1ピット 半掘状況
東より

EG37－北壁セクション 南より



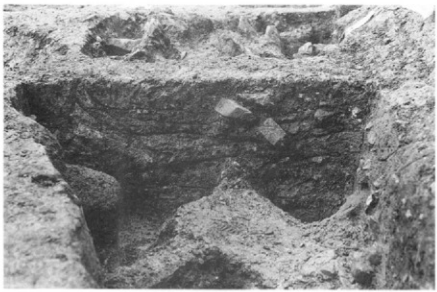
EG37ピット群 完掘状況 西より

写真図版　5



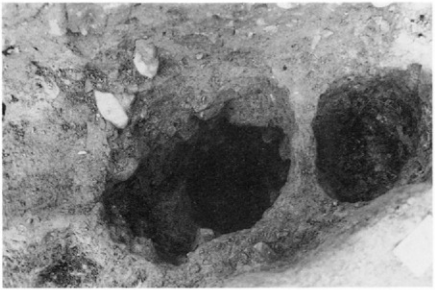
EF37－1ピット 半掘状況

EG37－1ピット 完掘状況



EG37－5ピット，6ピット，
7ピット，11ピットの切り合い
状況　東より

写真図版　6



EF37－7ピット，13ピット
完掘状況　　南から

EG37－2ピット，EG37－1ピット 完掘EH37－2ピット 半掘状況
北より

EH37－2ピット 半掘状況
北より

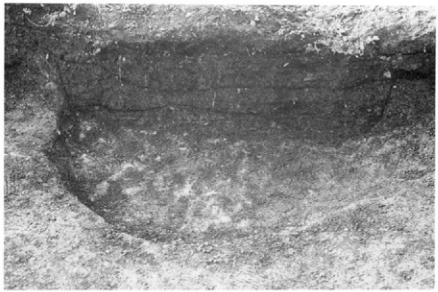
写真図版　7

EI37−1 ピット 半掘状況
南より

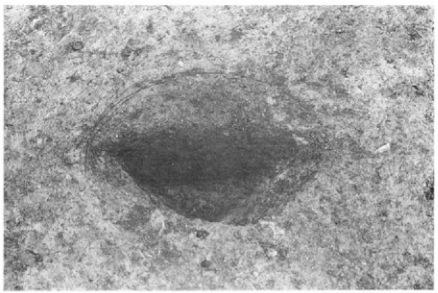
EI37−1 ピット 完掘状況
東より

FF32 埋設土器 完掘状況

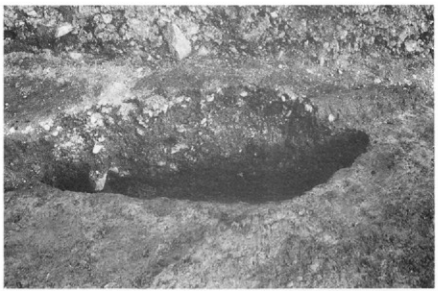
写真図版　8



FI26−1ピット 半掘状況
東より

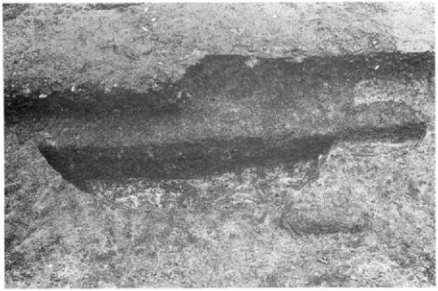


FI27−1ピット 半掘状況
東より



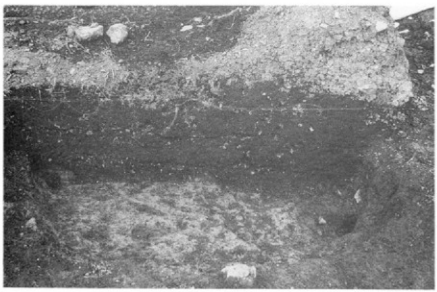
FI27−1ピット 半掘状況
西より

写真図版　9



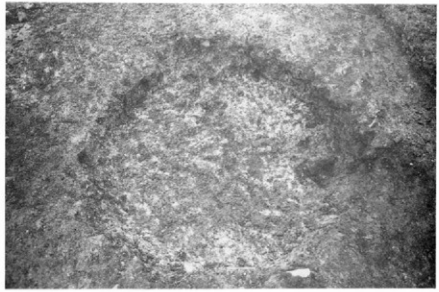
GA25－1ピット 半掘状況

GA25－1ピット 完掘状況



GA28－1ピット 半掘状況

写真図版 10

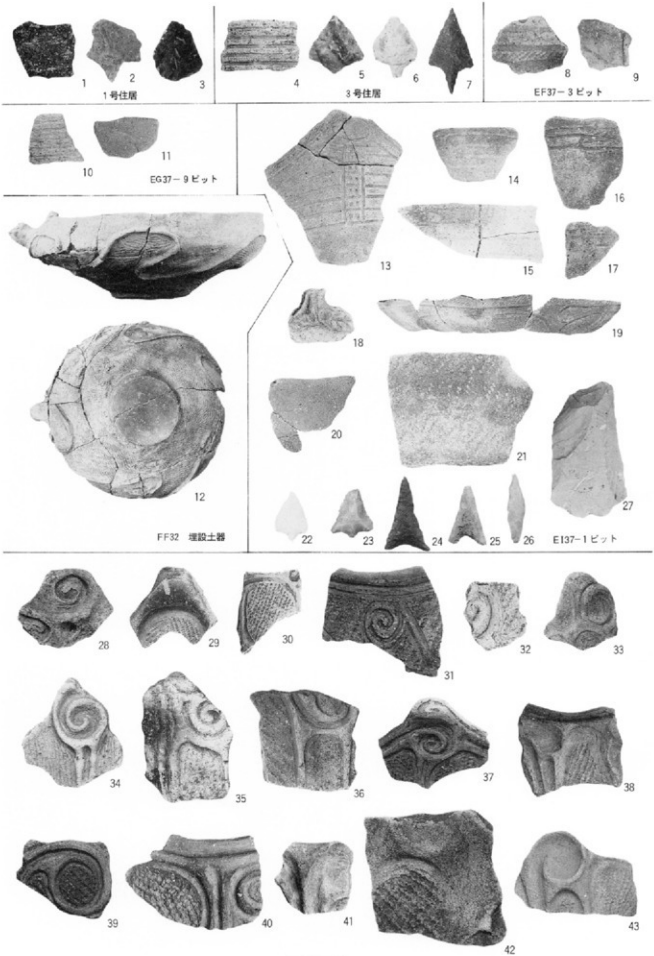


GA28－１ピット 完掘状況

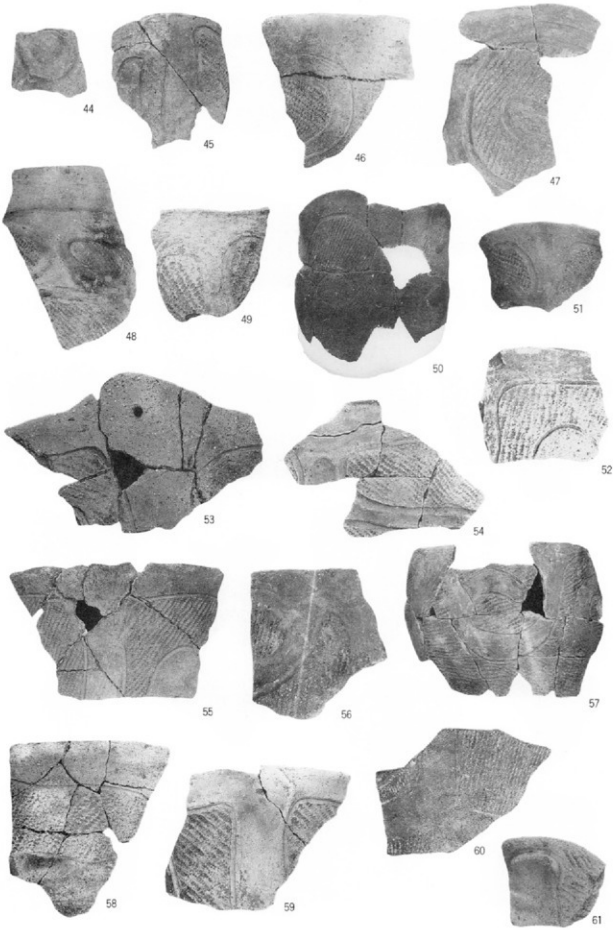
GA30－１ピット 半掘状況

土器出土状況（FH31－２層）

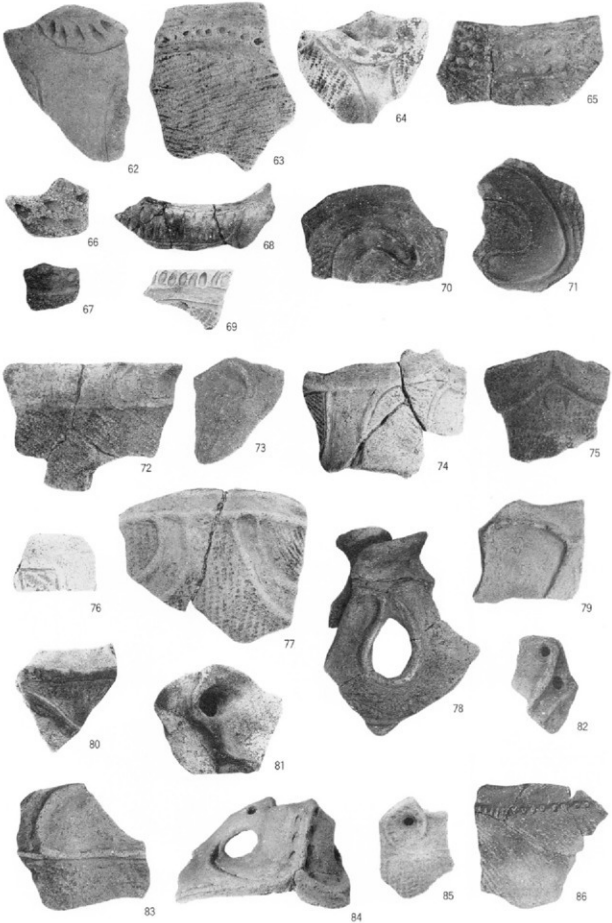
写真図版　11


1
2
3
1号住居
4
5
6
7
3号住居
8
9
EF37－3ピット
10
11
EG37－9ピット
13
14
16
15
17
18
19
12
FF32　埋設土器
20
21
27
22
23
24
25
26
E137－1ピット
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43

写真図版　12



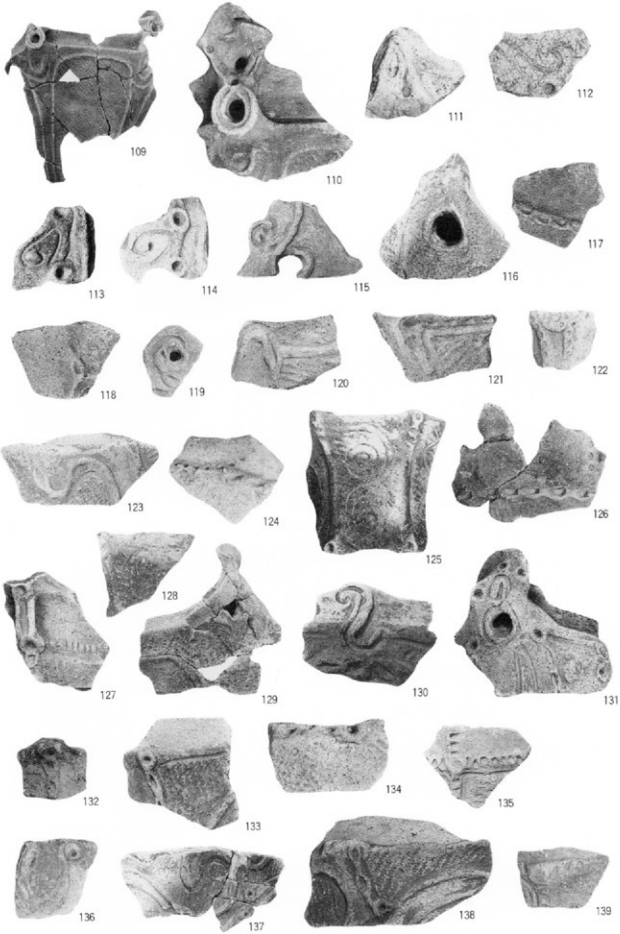
写真図版　13


62
63
64
65
66
68
67
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86

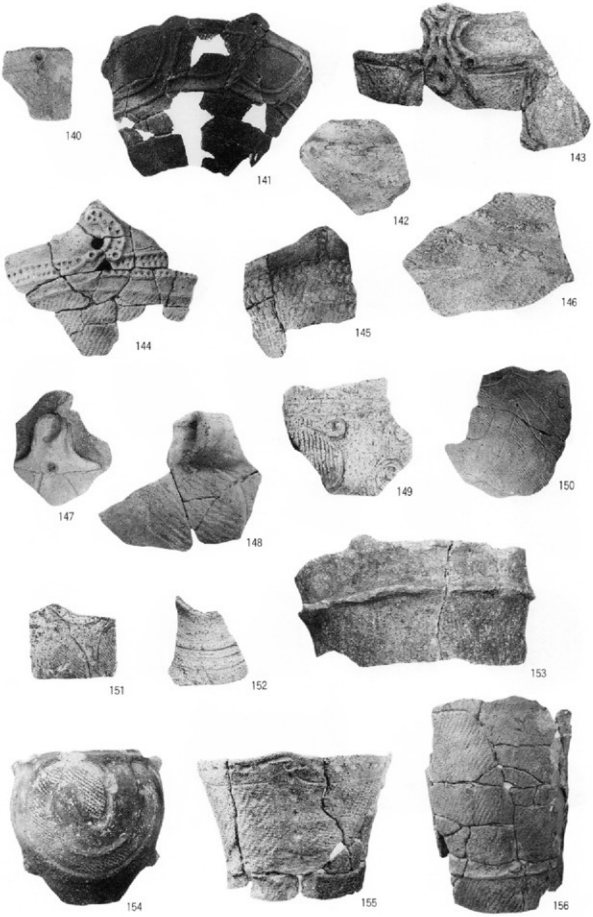
写真図版　14

87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108

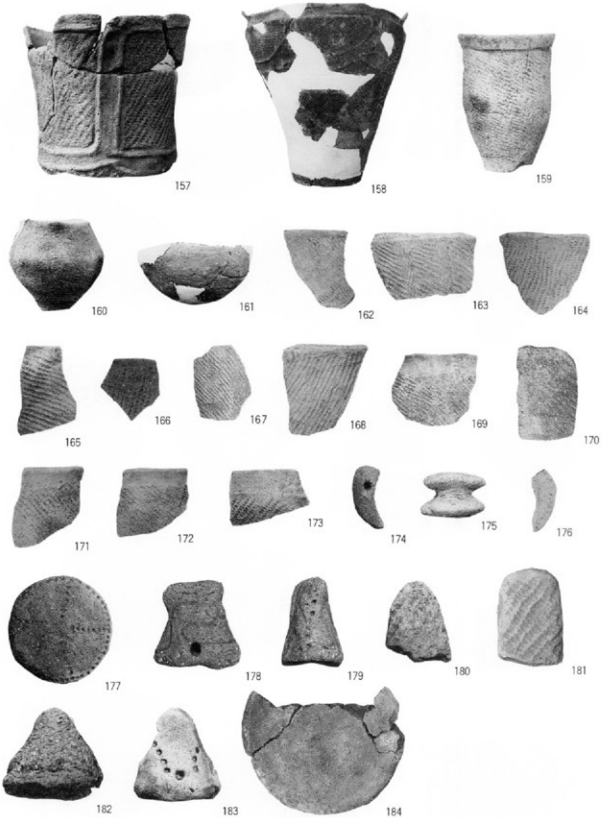
写真図版　15


109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139

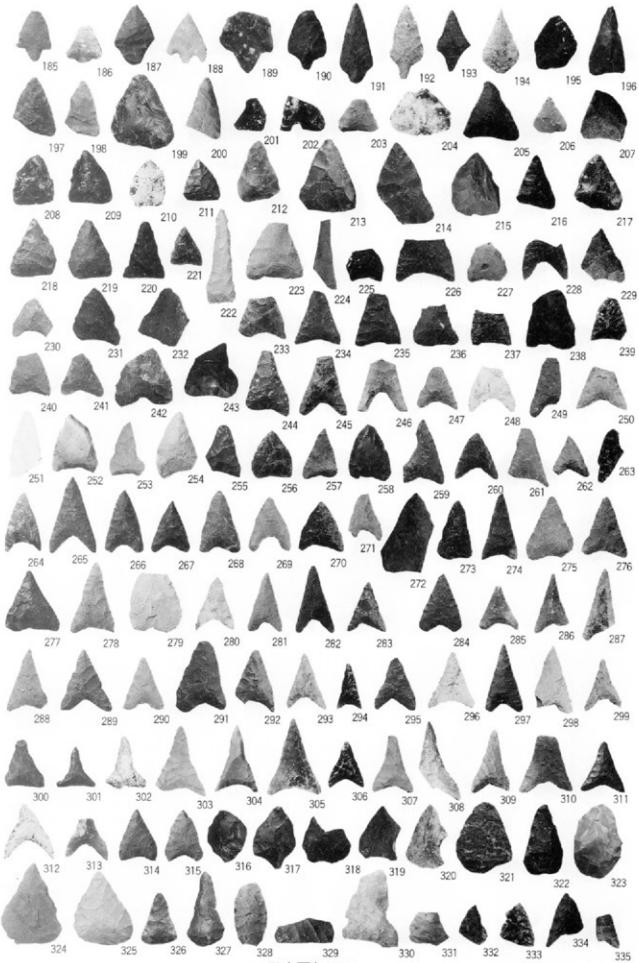
写真図版　16


140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156

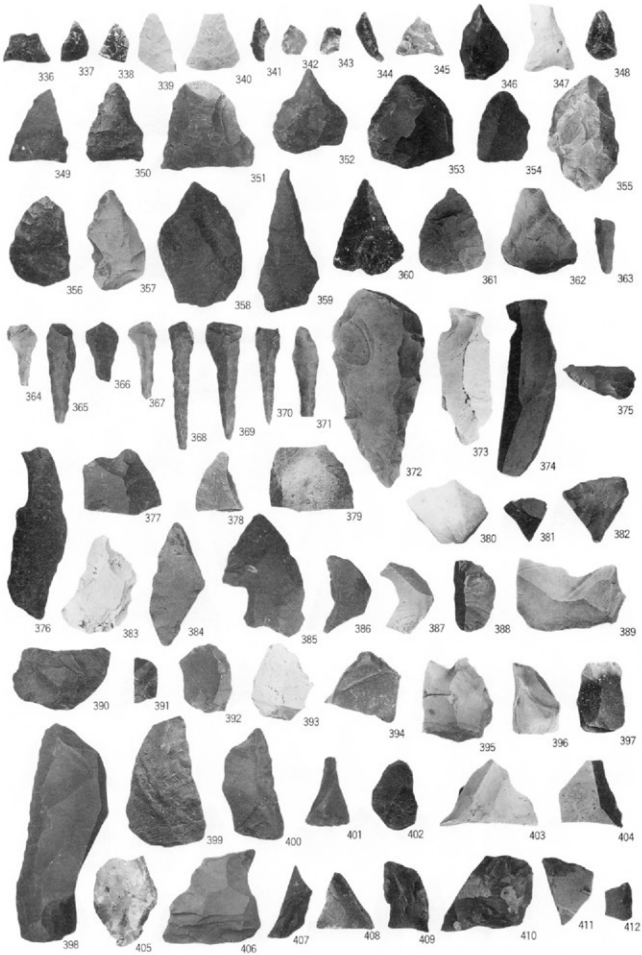
写真図版　17


157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184

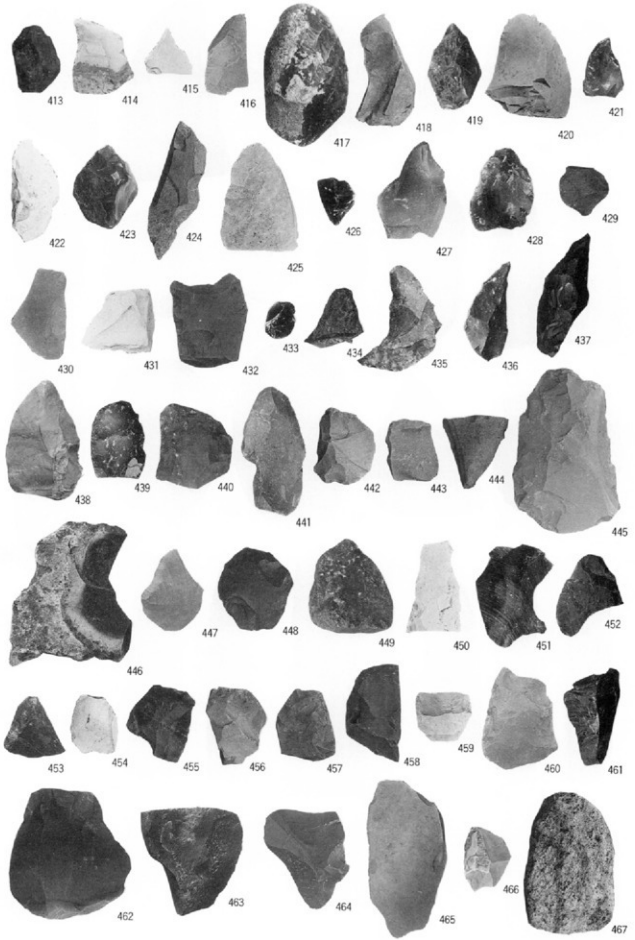
写真図版　18



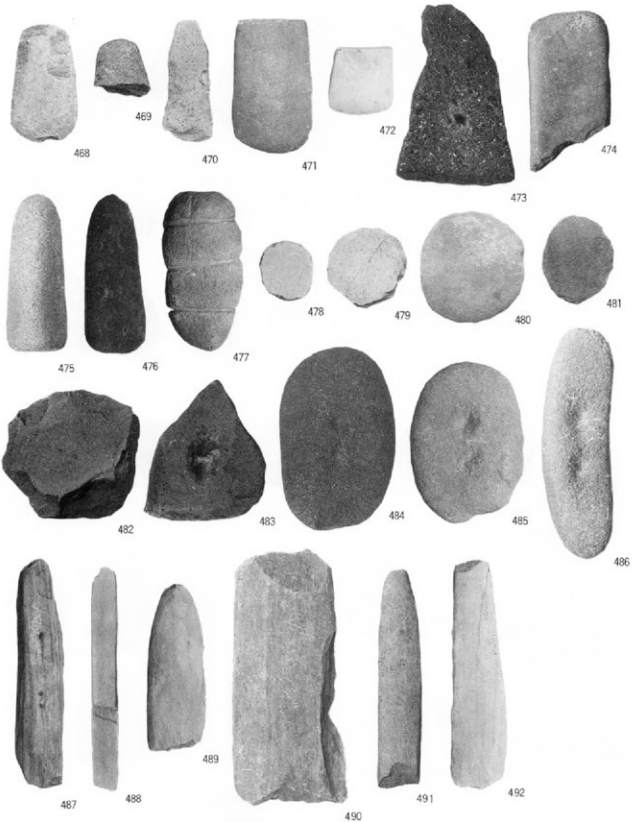
写真図版　19


336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412

写真図版　20


413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467

写真図版　21


468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492

写真図版　22

報告書抄録

ふりがな	どうのまえかいづかはっくつちょうさほうこくしょいち
書名	堂の前貝塚発掘調査報告書1
副書名	団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事に伴う緊急発掘調査
巻次	
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	佐藤正彦　熊谷賢　高橋和弥
編集機関	陸前高田市教育委員会
所在地	〒029-22　岩手県陸前高田市高田町字館の沖110　TEL　0192-54-2111
発行年月日	西暦　1997年 3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
どうのまえかいづか 堂の前貝塚	いわてけんりくぜんたかたし 岩手県陸前高田市 よねさきちょうあざどうのまえ 米崎町字堂の前 85-1ほか		NF68- 2130	38度 59分 56秒	141度 40分 37秒	19961101～ 19961214	1,200㎡	団体営農道整備事業農道久野立山線改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堂の前貝塚	貝塚 集落跡	縄文時代	竪穴住居　3棟 土坑　36基 埋設土器　1基	縄文土器（中・後期） 土偶 土製品 石器 石製品 骨角器 自然遺物（アスファルト・動物遺存体）	縄文時代後期の集落跡 縄文時代後期初頭の遺物包含層